（クロスナイン）

取扱説明書

音楽を楽しむためのマナー

電車や多くの人がいる場所でビデオや音楽をお楽しみになる際は、周囲の人の迷惑とならない音量でお聴きください。また、夜間では小さな音も遠くまで聴こえるようになりますので音量には充分配慮した上でお楽しみください。

著作権について

本製品をご利用される前に、以下の注意事項をご確認ください。
また、本製品は以下の注意事項を守ってご利用下さい。

●個人で楽しむ以外は、映像・音楽等を著作権者の許諾なしに複製することは、著作権法により禁止されていますので、行わないでください。
●個人で楽しむ目的であっても、作成した映像・音楽等を、権利者の許諾無しに第三者に配布することは出来ません。
●個人で楽しむ目的で録画・録音したデータを、権利者の許諾無しに故意にインターネット上で配布することは、著作権の「公衆送信権」「送信可能化権」に抵触する可能性があり、その場合処罰の対象となりますので、行わないでください。

はじめに / 製品の特長

この度は「X-Nine（クロスナイン）」をお買い求めいただき誠にありがとうございます。本製品は手軽に映像や音楽を楽しめるポータブルメディアプレイヤーです。

ビデオ再生&パソコンレス録画が可能なポータブルメディアプレイヤー

付属 AV ケーブルで接続した AV 機器の映像を、パソコンを使わず本体のみで録画で可能（P.72）。本体で録画した映像や、パソコンで編集した映像ファイル（AVI(DivX,Xvid)/MPEG1/MPEG2）を X-Nine で再生して映像を楽しむことができます（P.47）。

20GB 大容量 HDD 内蔵

多くの映像 / 音楽 / 画像ファイルを保存できる 20GB の大容量 HDD（ハードディスクドライブ）を内蔵。ファイルの移動や削除操作（P.68）に加え、メモリ式オーディオプレイヤーやデジタルカメラなどの USB 対応機器と接続して、パソコンを使わずに本体とUSB機器でファイルをやり取りするなどのファイル管理が行えます（P.86,90）。

WMA/MP3 再生

WMA 形式や MP3 形式のオーディオファイルが再生可能。Windows Media Player やインターネットなどを使ってパソコンに取り込んだオーディオファイル（WMA/MP3 形式）を本体に転送し、再生して音楽を楽しむことができます (Windows Media DRM には対応致しません)（P.94,97）。

ボイスレコーダー機能搭載

本体にマイクを内蔵。簡単操作でボイス録音できます（P.77）。ミーティングや語学レッスンなどの録音はもちろん、とっさの時にボイスメモが残せて便利です。

オーディオ録音＋ CD シンク機能搭載

付属のオーディオ録音ケーブルを使えば、パソコンを使わずに、CD や MD などの音楽機器から直接 MP3 形式で録音が可能（P.81）。また曲の切れ目を感知して、自動的にファイルを分割してくれる CD シンク機能も搭載しました。(P.124)

イコライザ内蔵

ロック / ジャズ / クラシックなど多彩な音楽ジャンルに最適化されたプリセットイコライザを搭載（P.116）。臨場感あるサウンドが楽しめます。

各種リピート再生機能

ビデオファイルを繰り返し再生できるリピート再生機能（P.111）や、英会話のレッスンなどのオーディオファイルの同一箇所を繰り返し聴きたいときに役立つ A-B リピート機能（P.110）など、用途に応じて多彩な再生方法をご利用いただけます。

フォトビューアー機能

デジタルカメラなどで撮影した画像ファイル（JPEG/BMP 形式）を本体に取り込んで、本体ディスプレイで表示して写真を楽しむことができます（P.56)。

お気に入りの写真をアウトドアに持ち出したり、パソコンを使わずに手軽に写真を鑑賞することができます。

FM チューナー 搭載

FM ラジオや 1 ～ 3CH の TV 音声を自在に楽しめます。日本国内だけでなく、欧州 / 米国の周波数にも対応しており、周波数が 76MHz ～ 108MHz の範囲内であれば海外でも利用できます（P.63)。

高速 USB2.0/USB マスストレージクラス対応

USB2.0 に対応した USB 端子を搭載している為、パソコンとの接続は簡単でしかも高速です（P.107)。また、USB マスストレージクラスに対応しているので、特別なドライバソフトのインストールも不要です。

多彩な充電方法

付属の AC アダプターまたはパソコンの USB ポートから､内蔵のリチウムポリマー電池を充電可能（P.32)。充電時間は、付属 AC アダプターを利用して充電する場合は約 3 時間 30 分～ 4 時間となります。(USB 接続したパソコンから充電する場合は完全には充電されません。完全充電を行う為には AC アダプターでの充電が必要です。)

必ずお読みください

著作権についてのご注意

本製品をご利用される前に、以下の注意事項をご確認ください。
また、本製品は以下の注意事項を守ってご利用下さい。

注意

- 個人で楽しむ以外は、映像・音楽等を著作権者の許諾なしに複製することは、著作権法により禁止されていますので、行わないでください。
- 個人で楽しむ目的であっても、作成した映像・音楽等を、権利者の許諾無しに第三者に配布することは出来ません。
- 個人で楽しむ目的で録画・録音したデータを、権利者の許諾無しに故意にインターネット上で配布することは、著作権の「公衆送信権」「送信可能化権」に抵触する可能性があり、その場合処罰の対象となりますので、行わないでください。

商標について

X-Nine（クロスナイン）の名称は、シーグランド株式会社の商標です。
Microsoft、Windows、Windows Media Player は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標または登録商標です。その他記載の会社名および製品名は、各社の商標または登録商標です。

パソコンでの操作について

本取扱説明書では、パソコンの操作方法についても一部紹介をしておりますが、パソコン本体、OS、その他アプリケーションの操作については、ご利用されている製品の取扱説明書をご覧ください。不明点は、これらの製造元にお問い合わせください。

- お客様または第三者が、本製品またはパソコンや各アプリケーションの誤使用、使用中に生じた故障、メモリーの消失、その他の不具合またはこの製品の使用によって受けられた損害については、当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。
- 本取扱説明書の一部または全部をシーグランド株式会社の許可なく複製することはできません。
- 本取扱説明書に記載されている内容を、製品の機能の改善・改良を目的とし、将来予告なしに変更する可能性があります。
- 本取扱説明書は万全の注意を払って制作していますが、取扱説明書を参考にした操作において損害が生じても責任は負いません。
- 本取扱説明書は開発中の製品を元に制作されており、実際の製品とは一部外観が異なるものがあります。
- 画面ショットは､Windows XPおよびWindows Media Playerバージョン10を使用しています。お使いのパソコン環境によっては細部が異なることがあります。あらかじめご了承ください。

安全上のご注意

製品を安全にお使いいただくため、「安全上のご注意」をご使用の前によくお読みください。お読みになった後は、必要なときにご覧になれるように、本取扱説明書を大切に保管してください。

警告表示の意味

本取扱説明書では、製品を安全にお使いいただき、お客様や他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は、次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。



この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う危険が差し迫って生じることが想定される内容を示しています。



この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。



この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が損傷を負う可能性または物的損害のみが発生する可能性が想定される内容を示しています。

絵表示の例



この記号は、注意（危険・警告を含む）を促す内容が記載されていることを示します。



この記号は、行為を禁止する内容が記載されていることを示します。



この記号は、行為を強制したり指示する内容が記載されていることを示します。

警告　下記の注意事項を守らないと大けがの原因となります。

運転中は使用しない

運転をしながらイヤホンを使用したり、細かい操作をしたり、表示画面を見ることは絶対におやめください。交通事故の原因となります。
また歩きながら使用する際も、事故を防ぐために、周囲の交通や路面状況に充分ご注意ください。

煙が出たり、変なにおいがするときは、ただちに使用を注意する

万一、異常が発生した場合はすぐに使用を中止し、お買い上げ店または弊社サポートセンターにご相談ください。そのまま使用すると感電したり火災の原因となります。

正しく接続する

本製品をパソコンに取り付ける場合は、必ず本取扱説明書で接続方法を確認し、正しく接続してください。誤った接続をすると、パソコンや本製品から発煙したり火災の原因となります。

分解・改造しない

感電、火災、火傷などの事故の原因となります。修理はお買い上げ店または弊社サポートセンターにご依頼ください。改造した場合、保証期間であっても有料修理となります。

濡らさない

本製品を調理台や加湿器のそば、風呂場などの水などの濡れやすい場所または水のかかりやすい場所に置いたりご使用にならないでください。火災や発熱、感電、破損、故障の原因となります。
万一、水に濡れた場合は、すぐに電源をオフにし、お買い上げ店または弊社サポートセンターにご相談ください。

振り回さない

ストラップやイヤホンコード、オーディオ録音ケーブルなどを持って本製品を振り回さないでください。周囲の人がけがをする恐れがあります。

端子部に金属類を差し込まない

ジャックなどに金属類を差し込まないでください。回路のショートや故障の原因となります。

⚠警告　下記の注意事項を守らないと大けがの原因となります。

電源コードを傷つけない

電源コードを傷つけると、火災や感電の原因となります。電源コードを加工したり、重い物を乗せたり、引っ張ったりしないでください。また、熱器具に近づけたり、過熱しないでください。万一、電源コードが傷んだ場合はすぐに使用を中止し、お買い上げ店または弊社サポートセンターにご相談ください。

海外で使用しない

交流 100V の電源でお使いください。海外などで、異なる電源で使用すると、火災や感電の原因となります。

雷が鳴り出したら、アンテナ線や電源プラグに触れない

感電の原因となります。

付属の AC アダプター以外を使わない

破裂や液漏れ、過熱などにより、火災や感電、けが、周囲の汚損の原因となります。

ガス管にアース線やアンテナ線をつながない

火災や爆発の原因となります。

⚠注意　下記の注意事項を守らないとけがをしたり周辺の家財に損害を与えたりすることがあります。

大音量で長時間連続で聴きすぎない

大きな音量で長時間続けて聴くと耳を刺激しすぎてしまい、聴力に悪い影響を与えることがあります。特にイヤホンで聴く場合には注意し、周囲の音が聴こえるくらいの音量でお聴きください。

はじめからボリュームを上げすぎない

再生時にボリュームが上がりすぎていると、突然大きな音が鳴って耳をいためることがあります。ボリュームは再生しながら徐々に上げていきましょう。

コード類は正しく配置する

本体と他の機器をケーブルを使って接続をする際に、コードを正しく配置しないと足などにひっかけて機器の落下や転倒などにより、けがの原因となることがあります。充分に注意して、接続・配置してください。

ぐらついた台や傾いた場所に置かない

落下し、故障の原因となります。

幼児の手の届くところにおかない

けがなどの事故の原因となることがあります。

ぬれた手で AC アダプターを触らない

感電の原因となる場合があります。

長期間使わないときは電源プラグを抜く

長期間使用しないときは安全のためACプラグをコンセントから抜いてください。絶縁劣化、漏電などにより火災の原因となることがあります。

電池についての安全上のご注意

液漏、発熱、発火、破裂、誤飲などを避けるため、下記のことを必ずお守りください。

本製品には充電式リチウムポリマー電池が内蔵されており、取り外しはできません。

⚠危険

- 専用の電池パック以外を使用しない。
- 指定された充電方法以外で充電しない。
- ショートさせたり、分解、加熱しない。コインやヘアピン、ネックレスなどの金属類と一緒に携帯、保管しない。
- 火のそば、ストーブのそば、炎天下などの高温の場所で充電、使用、放置しない。
- 分解・改造しない。
- 強い衝撃を与えない。

もし電池の液が漏れたときは、漏れた液を拭き取り、ご利用を中止してください。万一、液が体についたときは傷害を起こす恐れがあります。すぐにきれいな水でよく洗い流してください。漏液が目に入ったときは、すぐにきれいな水で洗った後、直ちに医師の治療をうけてください。

⚠警告

- 火の中に投入したり、ハンダ付けしない。
- 指定された種類の電池を使用する。

⚠注意

- 液漏れや異臭がしたら、使用をやめ、ただちに火気より遠ざける。

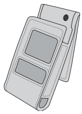
本製品は、故障・修理などによってデータが消えることがあります。万一データが消えても、当社としては内容についてまでの責任は負いかねます。重要なファイルについては、定期的にバックアップをお取りください。

ご利用にあたってのお願い

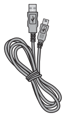
- 本製品には HDD （ハードディスクドライブ）が搭載されています。磁石または磁気の強いものを近づけないでください。故障やデータ破壊の原因となります。また、強い衝撃を与えないでください。
- 本製品をパソコンに接続してファイルを読み書きしている最中は、パソコンから本製品を抜かないでください。故障、データ破壊の原因となります。
- 本製品をパソコン本体に挿したままパソコンを起動した場合、本製品を認識しない場合があります。その場合は、いったん抜いてから挿し直してください。
- USB ハブに本製品を挿す場合、ご利用の環境によっては正常に動作しない場合があります。その場合は、パソコン本体の USB ポートに直接挿し込んでください。
- 本製品はサスペンド / スタンバイ / スリープなどのモードに対応しておりません。
- USB ポートに挿しても、まれに認識しない場合があります。その場合は、いったん抜いてから挿し直してください。
- 録り直しのきかない録画/録音の場合、必ず事前に試し録画/録音をしてください。
- 操作上の問題または本製品の不具合により、正常に録画 / 録音されなかった場合の録画 / 録音内容については保証は致しかねます。予めご了承ください。
- 本体は防水仕様になっていません。水に濡らしたり、湿度の高い所に置かないでください。
- 本製品をズボンやスカートの後ろのポケットに入れたまま、座席や椅子などに座らないでください。
- 鞄などに入れる場合は、重たい物の下にならないようにご注意ください。

付属品について

本製品には、以下のような付属品が同梱されています。お使いになる前に、まず付属品がすべて揃っていることをご確認ください。万一、付属品の不足や破損がございましたら、弊社サポートセンター（P.175）にご連絡ください。



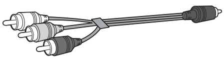
キャリーケース



USB ケーブル（USB2.0 対応）



USB ホストケーブル（USB1.1 対応）



AV ケーブル



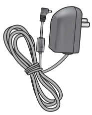
オーディオ録音ケーブル



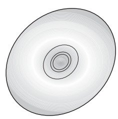
インナーイヤホン



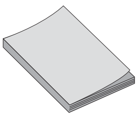
専用リモコン



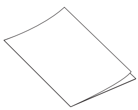
AC アダプター



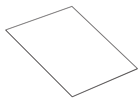
ソフトウェア CD-ROM



取扱説明書（本書）



クイックマニュアル



保証書 / ユーザー登録はがき

上記のほかに、カタログや注意書きの別紙が同梱されている場合があります。なお、イラストはイメージです。実際のものと異なります。

準備
基本操作編
すぐに使う
使いこなし方
困った時は
付録
索引

目次

お使いになる前に（準備）

各部の名称やディスプレイに表示されるマークの意味など、本製品の操作に必要な内容について紹介します。特に、本製品をはじめてお使いになる場合に必ずお読みください。

各部の名称と機能

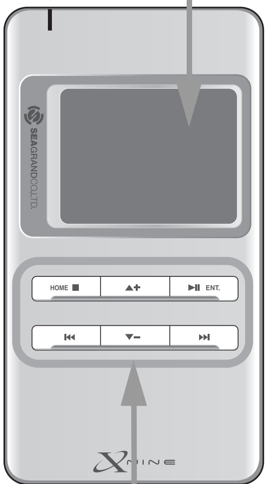
正面

電源ランプ

電源オン時は青色に（P.35）、充電時は赤色に（P.31，32）、USB DEVICE ジャックでパソコンと接続中は紫色に光ります（P.27）。

ディスプレイ

ビデオ映像（P.47）や画像（P.56）の表示のほか、ファイル一覧やさまざまな情報を表示します。明るさやバックライトの点灯時間も設定できます（P.140,142）。



カーソルボタン ▶II ENT. HOME■ ⏮ ⏭ ▲+ ▼−

本製品のほとんどの操作を行うボタンで、ビデオやオーディオファイルを再生 / 一時停止したり、早送りや巻き戻しなどの操作を行います。また、さまざまな設定項目の選択や確定なども行えます。使いかたの詳細については「カーソルボタンを使いこなそう」（P.40）をご覧ください。

側面（左 / 右）

電源 ⏻ / メニュー MENU ボタン

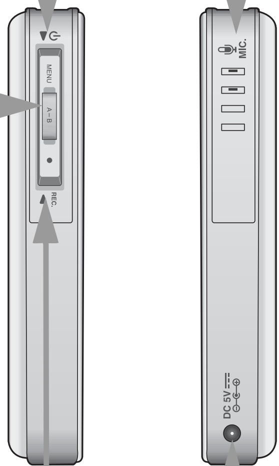
数秒間押して電源をオン/オフしたり（P.35)、短く押してメニューを表示し、さまざまな設定を行います（P.109)。

内蔵マイク 🎙 MIC

ボイスレコーダーとしてボイス録音するときに使います（P.77)。

A-B ボタン

音楽再生時に一定区間を繰り返し再生（A-B リピート再生）するときに、スタートポイント A とエンドポイント B を設定します（P.110)。



録画 / 録音ボタン MENU

AV機器と接続してビデオ録画したり、ボイス / オーディオ録音をするときに使います（P.72, 77, 81)。

AC アダプタージャック ⊖-⊙-⊕

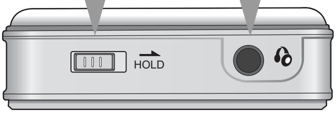
付属のACアダプターを接続します（P.31)。

準備
基本操作編
すぐに使う
使いこなし方
困った時は
付録
索引

上側面

HOLD（ホールド）スイッチ
ボタンやスイッチの誤動作を防ぎます（P.42）

イヤホンジャック
付属のインナーイヤホン（P.11）やリモコンを接続します（P.19）。



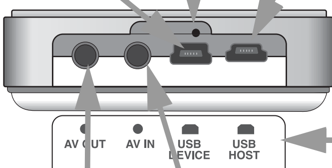
下側面

USB DEVICE（デバイス）ジャック
Windows パソコンと接続して、パソコンとファイルをやり取りします（P.27)。

リセットボタン
不具合時に強制終了します（P.43)。

USB HOST（ホスト）ジャック
USB メモリ機器と接続して、ファイルをやりとりします（P.86，90)。

ジャックカバー
各ジャックを使用するときに取り外します（P.27)。

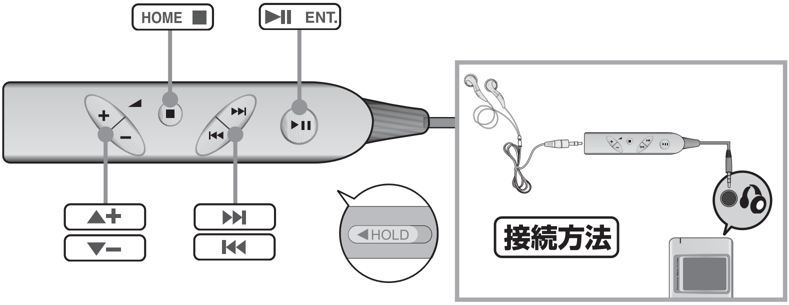


AV OUT（出力）ジャック
付属の AV ケーブル(P.11)を使ってテレビなどの映像機器と接続し、ビデオや画像ファイルを画面表示します（P.60)。

AV IN（入力）ジャック
付属の AV ケーブル（P.11）またはオーディオ録音ケーブル(P.11)を使って AV 機器や CD/MD などのオーディオプレイヤーと接続し、映像の録画をしたり（P.72）オーディオ録音（P.81）します。

リモコンの名称と機能 / 使いかた

本製品には、専用リモコンが付属しています。本体イヤホンジャックと付属インナーイヤホンの間に接続して使います。



リモコンボタン

６個のリモコンボタンは、本体のカーソルボタン（P.40）と同じ操作が行えます。リモコンボタンと本体カーソルボタンの対応は、上の図のようになります。リモコンをご使用になる場合は、本マニュアルのカーソルボタン表示を上記のようにリモコンボタンに置き換えてご利用ください。

リモコン HOLD（ホールド）スイッチ

リモコンボタンの誤動作を防ぎます。

注意

- リモコンで操作できる内容は、本体カーソルボタンで操作できる機能に限られます。電源のオン / オフ（P.35）やメニュー操作（P.157）、ミュージックモードでの A-B リピート再生（P.110）、録画 / 録音操作（P.72, 77, 81）は行えません。、

ワンポイント

- リモコン HOLD スイッチは、本体 HOLD スイッチ（P.42）とは独立して動作します。リモコンのホールド機能を併用して使用する場合は、ホールド機能は以下のように動作します。
  ・本体［オン］/ リモコン［オフ］…リモコンのボタンのみで操作できます。
  ・本体［オフ］/ リモコン［オン］…本体のボタンのみで操作できます。
- 本体をポケットや鞄に入れてご使用になる場合、本体 HOLD スイッチをオンにし、リモコン HOLD スイッチをオフにしておくと、ポケットや鞄の中で本体が誤動作することなくリモコンで操作が行えます。

ディスプレイの見かた（メイン画面）



1

1　モードアイコン

現在選択されているモードをアイコンと文字で表示します。

[▶II ENT.]を押すと各モードの状態に変わります。モードについての詳細は「モードを選ぼう」（P.37）をご覧ください。

 **VIDEO :** ビデオ（動画）モード

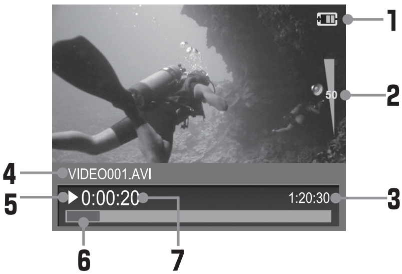
 **MUSIC :** ミュージック（音楽）モード

 **PHOTO :** フォト（画像）モード

 **FILES :** ファイル（ファイル管理）モード

 **RADIO :** ラジオ（FM ラジオ）モード

ディスプレイの見かた（ビデオ再生画面）

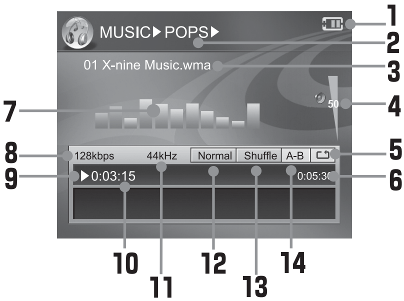


注意

- 再生時や停止時によって画面の表示が異なるため、全てのアイコンが常に表示されているわけではありません。
- 各表示は、音量レベル操作時のみ表示されます。

1	**電池レベル表示**（**P.35**） 電池の残量（目安）を表示します。
2	**音量レベル表示**（**P.49**） 再生中のオーディオファイルの音量レベルを表示します。
3	**トータル時間表示** 選択または再生 / 停止中のビデオファイルのトータル時間を［時：分：秒］の単位で表示します。
4	**ファイル名表示** 再生または停止中のビデオファイルのファイル名を表示します。日本語に対応しています。
5	**再生 / 停止 / 一時停止 / 早送り / 巻き戻し表示**（**P.48**） 再生、停止、一時停止等の状態が表示されます。
6	**プレイポジション表示** 再生 / 一時停止中の曲の経過時間をグラフィカルに表示します。
7	**タイム・カウンター表示** 再生 / 停止中の曲の経過時間を［時：分：秒］の単位で表示します。

ディスプレイの見かた（ミュージック再生画面）



注意

再生時や停止時によって画面の表示が異なるため、すべてのアイコンが常に表示されているわけではありません。

---

1 **電池レベル表示（P.35）**
電池の残量（目安）を表示します。

2 **フォルダ名表示**
選択または再生 / 停止中のファイルが保存されているフォルダ名を表示します。

3 **ファイル名表示**
再生または停止中のビデオファイルのファイル名を表示します。

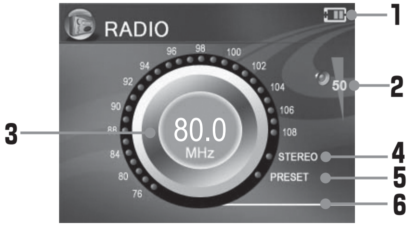
4 **音量レベル表示（音量レベル操作時のみ表示）（P.53）**
再生中のオーディオファイルの音量レベルを表示します。

5 **リピート方式表示（設定時のみ表示）（P.111）**
1 曲またはすべてリピートのうち選択したリピート方式をマーク表示します。リピートしないに設定しているときは何も表示されません。

6 **トータル時間表示**
選択または再生 / 停止中のビデオファイルのトータル時間を［時：分：秒］の単位で表示します。

7	**サウンドレベルメーター** 再生中のオーディオファイルのレベルを周波数レンジごとにグラフィカル表示します。左側が低音、右側が高音になります。
8	**ビットレート表示（P.121）** 選択または再生 / 停止中のオーディオファイルのビットレートを表示します。
9	**再生 / 停止 / 一時停止 / 早送り / 巻き戻し表示（P.52）** 再生、停止、一時停止等の状態が表示されます。
10	**タイム・カウンター表示** 再生 / 停止中の曲の経過時間を［時：分：秒］の単位で表示します。
11	**サンプリングレート表示（P.121）** 選択または再生 / 停止中のオーディオファイルのサンプリングレートを表示します。
12	**イコライザ表示（設定時のみ表示）（P.116）** ノーマル / ジャズ / ロック / クラシック / ベース / ポップ / ソフトロック / ダンス / ライブの 9 種類のうち選択したイコライザタイプを表示します。
13	**シャッフルオン表示（設定時のみ表示）（P.114）** シャッフル（ランダム再生）をオンに設定したときに表示します。シャッフルオフに設定しているときは何も表示されません。
14	**A-B リピート表示（設定時のみ表示）（P.111）** A-B リピート（くり返し）再生を選択したときに表示されます。

ディスプレイの見かた（FM ラジオ画面）



1　電池レベル表示（P.35）

電池の残量（目安）を表示します。

2　音量レベル表示（音量レベル操作時のみ表示）（P.65）

再生中の FM ラジオの音量レベルを表示します。

3　受信周波数表示

受信中の周波数を表示します。受信している周波数が中央に表示されます。

4　ステレオ / モノラル表示

受信中の FM ラジオがステレオ放送のときは［STEREO（ステレオ）］の先頭に赤色のマークが点灯します。モノラル放送のときはマークは点灯しません。

5　プリセット番号表示（P.65）

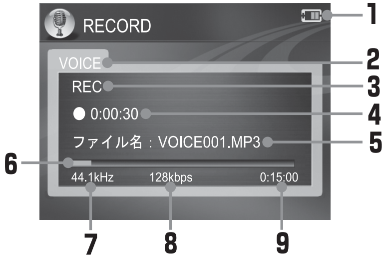
プリセットモード（P.65）がオンになっているときは、［PRESET（プリセット）］の先頭に緑色のマークが点灯し、プリセット登録しておいた放送局（周波数）のプリセット番号を表示します。

手動で選局するときは［▶IIENT.］を押して緑色のマークを消灯します（［▶IIENT.］を押すたびにオンとオフが切り替わります）。

6　プリセット周波数表示（プリセット登録時のみ表示）（P.133）

手動で設定した周波数をプリセット登録する場合に、選択したプリセット番号に既に放送局（周波数）が登録されている場合はその周波数が、登録されていない場合は［プリセットがありません］と表示されます。

ディスプレイの見かた（録音画面）



1　電池レベル表示（P.35）

電池の残量（目安）を表示します。

2　録音モード表示

録音のモードを表示します。ボイス録音時には［VOICE］（P.77）、オーディオ録音時には［AUDIO］（P.81）と表示されます。

3　録音状態表示

現在の状態を表示します。録音待機状態では［［ENT］ボタンを押して開始］、録音中は［REC］と表示されます。

4　タイム・カウンター表示

録音経過時間を［時：分：秒］の単位で表示します。

5　ファイル名表示

録音中のファイル名を表示します。ファイル名は自動的につけられます。

6　プレイポジション表示

録音可能な残り時間に対する録音経過時間をグラフィカルに表示します。

7　サンプリングレート表示（P.121）

選択または再生 / 停止中のオーディオファイルのサンプリングレートを表示します。

8　ビットレート表示（P.121）

選択または再生/停止中のオーディオファイルのビットレートを表示します。

9　録音可能時間表示

録音の残り時間を表示します。連続して録音を続けると 15 分、30 分、60 分…と状態によって表示が変わります。

ディスプレイの見かた（ファイル / フォルダ一覧画面）



1　電池レベル表示（P.35）

電池の残量（目安）を表示します。

2　カレントフォルダ名表示

選択しているフォルダ名（カレントフォルダ）を表示します。上図は、［MUSIC］フォルダ内のファイルやフォルダ一覧がディスプレイに表示されていることを表しています。

3　プレイリスト表示（ミュージックモードのみ）（P.118）

プレイリストを表します。Playlist（プレイリスト）を選択して[▶IIENT.]を押すと、プレイリストの一覧が表示されます。

4　フォルダ名表示

フォルダを表します。フォルダを選択して[▶IIENT.]を押すと、フォルダ内のファイルの一覧が表示されます。

5　ファイル名表示

ファイル名を表します。ファイルを選択して[▶IIENT.]を押すと、モードによって再生や表示が始まります。

6　選択表示

選択中のファイル / フォルダをハイライト表します。[▲+]または[▼−]を押すと上下のファイル / フォルダに移動できます。

パソコンとの接続のしかた

本製品は、パソコンと USB 接続してビデオファイルやオーディオ / 画像ファイルを本体に転送することによって、気軽に映像や音楽、画像を楽しむことができます。パソコンとのファイルのやり取りについては、「簡単な使いかた 2」（P.45）の章をご覧ください。

ワンポイント

- 製品は USB マスストレージクラス対応（P. 109）のため、パソコンに接続すると自動的に認識され、ドライバソフトウェアがインストールされます。

1 電源を入れる

パソコンと接続する場合は、**本体の電源をオン**にしてください（P.35）。

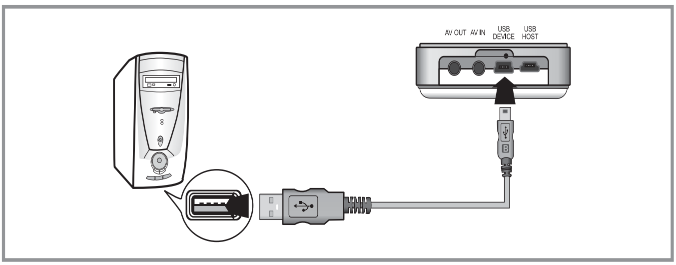
2 ジャックカバーを取り外す



本体の下面のジャックカバーを取り外します。無理に取り外そうとすると破損する恐れがありますので、丁寧にお取り扱いください。

3 USB DEVICE ジャックとパソコンの USB ポートを接続する

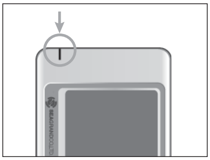
付属の USB ケーブル（P.11）を、本体の USB DEVICE ジャック（P.18）とパソコンの USB ポートにしっかりと奥まで挿し込んでください。USB コネクタには向きがありますのでご注意ください。



パソコンが本体を認識するとハードウェアの追加画面が表示され、Windows 画面右下にあるタスクトレイにアイコンが表示されます。

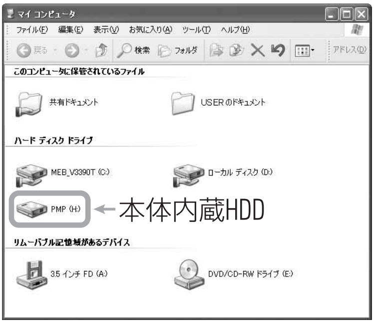


本体ディスプレイに USB 接続マーク が表示され、電源ランプ（P.16）が紫色に点灯します。



4 パソコンの［マイコンピュータ］を開く

［マイコンピュータ］を開いて、ドライブ名を確認します。本体内蔵 HDD（ハードディスクドライブ）は［PMP（ポータブル・メディア・プレイヤー）］と表示されます。



5 本体内蔵 HDD（［PMP］ドライブ）を開く

［PMP］ドライブをマウスでダブルクリックすると、本体内蔵 HDD のルートディレクトリ（第一階層）が表示されます。

初期状態では、ルートには３つのフォルダと、ひとつのファイルがあることを確認してください。



[MOVIE] フォルダ

ビデオファイルを保存します。

[MUSIC] フォルダ

オーディオファイルを保存します。

[PHOTO] フォルダ

画像ファイルを保存します。

[UNICODEF.FON] ファイル

本体ディスプレイ表示を正しく行うために必要なファイルです。このファイルを誤って削除してしまうと、本体ディスプレイでの表示に不具合が発生します。

[UNICODEF.FON] ファイルは絶対に削除しないでください。

注意

- 万が一、[UNICODEF.FON] ファイルを誤って削除してしまった場合の対処方法については、「本体内蔵 HDD のフォーマット」（P. 154）の手順 5 以降をご覧ください。

ワンポイント

- ドライブ名は、お使いのパソコンの環境（ハードディスクの状態や外付け周辺機器の状態）により自動的に割り当てられます。図では本体が「ドライブ：H」としてパソコンに認識されている状態を示しています。
- 本製品は USB2.0 HI-SPEED に対応していますが、USB1.1 対応ポートに接続した場合は、USB1.1 FULL SPEED での接続となります。
- パソコンと USB 接続をしている間は、本体の操作はできません。
- パソコンが起動している状態で本体をパソコンにUSB接続をすると、電池の充電ができます。ただし、ディスプレイに［バッテリ残量が低下しています］と表示された状態では USB 接続で充電はできない場合があります。必ず付属 AC アダプターで充電してください。

パソコンからの取り外しかた

パソコンの電源が入っている状態で本体をパソコンから取り外すときは、以下の手順で取り外してください。パソコンの電源が切れているときは、以下の手順は不要です。

注意

- 以下の手順をふまずに本体をパソコンから取り外すと、本体およびパソコンに不具合が発生する場合があります。特にファイル転送中などに強制的に取り外すとファイルの損失や故障の原因となります。必ず、以下の手順で取り外してください。
- ドライブ名は、お使いのパソコンの環境（ハードディスクの状態や外付け周辺機器の状態）により自動的に割り当てられます。図では本体が「ドライブ：F」としてパソコンに認識されている状態を示しています。
- ドライブ名は、パソコンの［マイコンピュータ］で確認できます。(P. 28)

1 Windows 画面右下にあるタスクトレイの［ハードウェアの安全な取り外し］アイコンをクリックする



2 一覧から本体を選ぶ

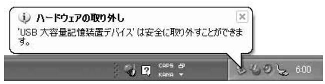


パソコンに USB 接続されている機器の一覧が表示されるので、本体（USB 大記憶装置デバイス）を選びます。

ワンポイント

- ［ハードウェアの安全な取り外し］ウィンドウが表示されたときは、本体(USB 大記憶装置デバイス) を選んで［ 停止 ］をクリックします。［ ハードウェアデバイスの停止 ］ウィンドウが表示されたら [OK] をクリックします。

3 本体を取り外す



安全な取り外し処理が終わると「ハードウェアの取り外し」が表示されます。

パソコンでこの画面を確認したら、本体をパソコンから取り外します。

本体ディスプレイの USB 接続マーク (P.28) が消えると、通常操作が行えるようになります。

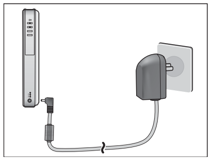
AC アダプターを使った充電のしかた

本製品は、付属の AC アダプターを接続して内蔵電池を充電できます。電池レベル表示（P.35）を確認し、残量が少ないときは充電してください。

1 電源を切る（P.36）

2 電源ジャック(P.17)にACアダプターを接続する

3 AC アダプターを交流 100V 家庭用コンセントに接続する



4 充電が開始する

正常に接続されると電源ランプ（P.16）が赤色に光り、充電が始まります。このとき、ディスプレイには何も表示されません。

5 充電を終了する

充電が完了すると、電源ランプが自動的に消えます。
AC アダプターをコンセントおよび本体から取り外します。

注意

- AC アダプターを使う場合は、「安全上のご注意」(P. 5)、「電池についての安全上のご注意」(P. 9) をよく読み、充電をしてください。
- AC アダプターは、必ず交流 100V の家庭用コンセントに接続してください。
- 完全に電池がなくなる前に、早めに充電をしてください。
- 完全に電池がなくなってしまった場合、AC アダプターを接続しても電源ランプが赤色に点灯するまで数分かかる場合があります。
- 録画、録音、ファイルのバックアップ等の作業中に電源がなくなると、システムエラーが発生する場合がありますので、電池残量には充分ご注意の上、これらの作業を行い、可能な限り AC 充電器をご利用下さい。

ワンポイント

- 電池残量がなくなった状態から完全に充電されるまで、付属 AC アダプターで充電する場合は約 3 時間 30 分～約 4 時間程度の時間がかかります。
- 充電が必要になるとディスプレイに［バッテリ残量が低下しています］と表示されます。
- 上記の方法による充電中は、本体の操作はできません。

ヒント

- USB 接続したパソコンから充電するには（P. 32）

準備
基本操作編
すぐに使う
使いこなし方
困った時は
付録
索引

準備
基本操作編
すぐに使う
使いこなし方
困った時は
付録
索引

USB 接続したパソコンからの充電のしかた

パソコンが起動している状態で本体の電源を切り、パソコンに USB 接続をすると、電池の充電ができます。

1 電源を切る（P.36）

2 USB DEVICE ジャックとパソコンの USB ポートを接続する

詳しい手順は「パソコンとの接続のしかた」（P.27）の手順 2 以降をご覧ください。付属 USB ケーブルは、しっかりと奥まで差し込んでください。USB コネクタには向きがありますのでご注意ください。

3 充電が開始する

正常に接続されると電源ランプ（P.16）が赤色に光り、充電が始まります。このとき、ディスプレイには何も表示されません。パソコンも本体を認識しません。

4 充電を終了する

充電が完了すると、電源ランプが自動的に消えます。

本体をパソコンから取り外します。

注意

- 完全に電池がなくなる前に、早めに充電をしてください。
- 録画、録音、ファイルのバックアップ等の作業中に電源がなくなると、システムエラーが発生する場合がありますので、電池残量には充分ご注意の上、これらの作業を行い、なるべく AC アダプタをご利用下さい。

ワンポイント

- USB 接続による充電の場合、電池を完全に充電することができません。完全に充電する場合は、付属 AC アダプターで充電してください（P. 31）。
- 充電が必要になるとディスプレイに［バッテリ残量が低下しています］と表示されます。
- 上記の方法による USB 接続による充電中は、本体の操作はできません。
- 本体の電源を入れた状態でパソコンと接続しても充電は行われますが、電池を消費しながらの充電となりますので、充分に充電がされません。USB 接続で充電する場合は、本体の電源を切った状態でパソコンと接続してください。

ヒント

- 付属の AC アダプターで充電するには（P. 31）

簡単な使いかた 1

基本操作編

この章では、モードの説明やカーソルボタンの使いかたなど、本製品のもっとも基本的な操作を説明しています。いろいろな機能に共通した内容ですので、まず最初にお読みください。ビデオや音楽の再生 / 録画などの各機能の使いかたについては、この章以降をお読みください。

基本の操作　音楽を楽しむためのマナー

電車や多くの人がいる場所でビデオや音楽をお楽しみになる際は、周囲の人の迷惑とならない音量でお聴きください。また、夜間では小さな音も遠くまで聴こえるようになりますので音量には充分配慮した上でお楽しみください。

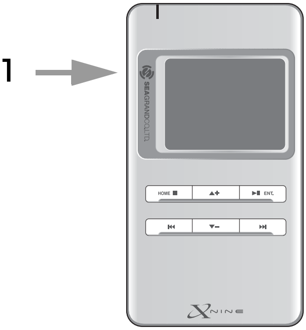
基本の操作　著作権について

本製品をご利用される前に、以下の注意事項をご確認ください。
また、本製品は以下の注意事項を守ってご利用下さい。

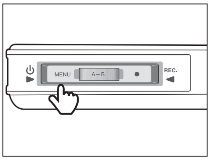
注意

- 個人で楽しむ以外は、映像・音楽等を著作権者の許諾なしに複製することは、著作権法により禁止されていますので、行わないでください。
- 個人で楽しむ目的であっても、作成した映像・音楽等を、権利者の許諾無しに第三者に配布することは出来ません。
- 個人で楽しむ目的で録画・録音したデータを、権利者の許諾無しに故意にインターネット上で配布することは、著作権の「公衆送信権」「送信可能化権」に抵触する可能性があり、その場合処罰の対象となりますので、行わないでください。

基本の操作　電源を入れよう



1： MENU を数秒間押したままにする

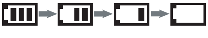


電源ランプ（P.16）が青色に光り、ディスプレイに右図のような起動画面が表示されるまで MENU を押し続けてください。

正常に起動すると、メイン画面（P.20）が表示されます。



2：電池レベル表示を確認する



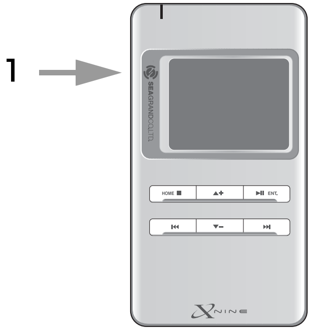
ディスプレイ左上に表示される電池レベル表示を確認します。残量が少ないときは、電池を充電してください（P.31，32）。図が右へいくほど電池残量が少ないことを表します。

注意

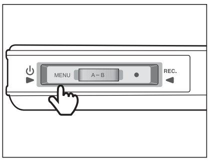
- 電源オン／オフ時に大きなノイズを発生する場合があります。電源をオン／オフするときは、インナーイヤホンを耳から外したり、音量を小さくするなど、充分にお気をつけください。
- 電源が入らない場合は、次の点をご確認ください。
  電池が空になっていないか
  HOLD（ホールド）スイッチがオンになっていないか（P.42）

準備
基本操作編
すぐに使う
使いこなし方
困った時は
付録
索引

基本の操作　電源を切ろう



1：⏻ MENU を数秒間押したままにする



ディスプレイに［電源 OFF］と表示されます。続いて、電源ランプ（P.16）が消えて電源が切れます。

注意

● 電源オン／オフ時に大きなノイズを発生する場合があります。電源をオン／オフするときは、インナーイヤホンを耳から外したり、音量を小さくするなど、充分にお気をつけください。

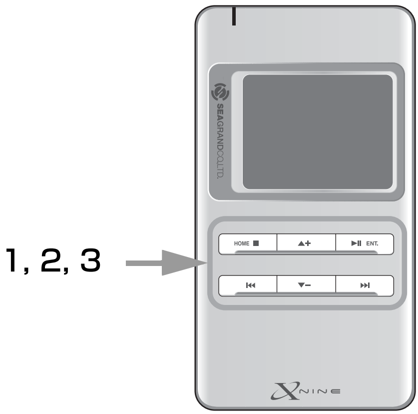
● 電源が切れない場合は、次の点をご確認ください。

・MENU を数秒間押したままにしているか
（押している時間が短いと電源は切れません）
・HOLD（ホールド）スイッチがオンになっていないか（P.42）
・パソコンと接続していないか
（接続している場合は、「パソコンからの取り外しかた」（P.30）に従って、パソコンから取り外してください）

基本の操作　モードを選ぼう

X-Nine には、メイン画面から選択する**ビデオ**（動画）/ **ミュージック**（音楽）/ **フォト**（画像）/ **ファイル**（ファイル管理）/ **ラジオ**（FM ラジオ）5 つのモードと、●REC を押して選択する**録音 / 録画**モードが用意されており、モードを切り替えることで、6つの機能を活用できます。

ここでは、X-Nine を使いこなすためのもっとも基礎となるモードの選びかたを説明します。なお、レコーディングモードについては、「AV 機器と接続してビデオ録画しよう （ビデオ録画機能）」(P.72)、「内蔵マイクで録音しよう (ボイス録音機能)」(P.77)、「オーディオ機器と接続して録音しよう （オーディオ録音機能)」（P.81）をご覧ください。



1：⏮ / ⏭ を押してモードを選ぶ



メイン画面（P.20）で、⏮ または ⏭ を数回押して、モードを選びます。

メイン画面が表示されていないときは、HOME■ を何度か押してメイン画面を表示させてください。

以下、各モードの内容を簡単に紹介します。それぞれのモードの詳細および各モードでの具体的な操作方法については、各参照ページをご覧ください。

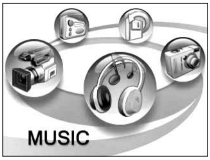
準備
基本操作編
すぐに使う
使いこなし方
困った時は
付録
索引

●ビデオ（動画）モード



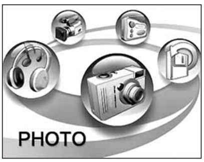
本体で録画した映像や、パソコンで編集したビデオファイル（AVI(DivX,Xvid)/MPEG1/MPEG2）を本体ディスプレイで再生して映像を楽しむことができます（P.47）。コーデック（圧縮方式）が DivX/Xvid 以外の AVI ファイルでも、付属ソフトウェア「トランスコーダー（P.152）」を利用することで本製品で再生することができます。

●ミュージック（音楽）モード



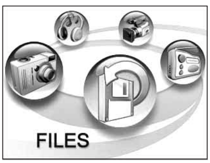
Windows Media Player などを使ってパソコンに取り込んだオーディオファイル（WMA/MP3 形式）を本体に転送して再生して音楽を楽しむことができます（P.51）。
パソコンを使わずに、本体内蔵マイクでボイス録音（P.77）したり、CD プレイヤーなどを本体に接続してオーディオ録音（P.81）したオーディオファイルも、すぐに本体で再生することができます。

●フォト（画像）モード



デジタルカメラなどで撮影した画像ファイル（JPEG/BMP 形式）を本体に取り込んで、本体ディスプレイで表示して写真を楽しむことができます（P.56）。
お気に入りの写真をアウトドアに持ち出したり、パソコンを使わずに手軽に写真を鑑賞することができます。

●ファイル（ファイル管理）モード



本体内蔵 HDD（ハードディスクドライブ）のファイルの移動や削除操作（P.68）に加え、メモリ式オーディオプレイヤーやデジタルカメラなどの USB 対応機器と接続して、本体と USB 機器でファイルをやり取りするなどのファイル管理が行えます（P.86，90）。

●ラジオ（FM ラジオ）モード



本体内蔵の FM チューナーで、FM ラジオや 1 ～ 3ch の TV 音声の再生を楽しむことができます（P.63）。日本国内だけでなく、欧州 / 米国の周波数にも対応しており、76MHz ～ 108MHz の範囲内であれば海外でも利用できます。

2：▶IIENT. を押してモードを確定する

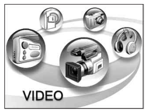


▶IIENT.を押すと選択したモードが確定し、それぞれのモードに対応した画面が表示され、各モードの機能が利用できます。

3：HOME■ を何度か押してメイン画面に戻る



メイン画面に戻りたいときは、HOME■を押します。1度でメイン画面に戻らない場合は、メイン画面に戻るまで何度かHOME■を押してください。



注意

● ［バックライト点灯時間調節］を設定している場合は、一定時間何も操作をしないと、自動的に電源が切れます（P. 142）。

ワンポイント

● ［バックライト明るさ調節］を［省電力］に設定しておくと、電池を長持ちさせることができます（P. 140）。

トラブル

● カーソルボタンを押しても操作できない（P. 168）

用語

● メイン画面（P. 20）

基本の操作　カーソルボタンを使いこなそう

X-Nine は、カーソルボタンを使うだけでほとんどの操作を手軽に行えます。ここでは、カーソルボタンの代表的な使用例を紹介しながら、各ボタンの基本的な役割を説明します。さらに詳細な使いかたについては、各参照ページをご覧ください。

なお、各イラストはモードを表します。

ビデオモード　ミュージックモード　フォトモード

ファイルモード　ラジオモード

● ビデオや音楽の再生時

ビデオや音楽の再生や停止、早送り、巻き戻し、音量調節などを行います（P.47）。



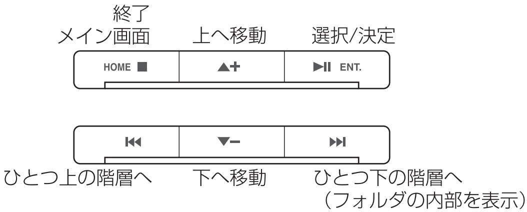
● 画像の表示（フォトビューアー機能）時

画像の選択や拡大表示などを行います（P.56）。



● ファイルの選択時

再生するビデオ/オーディオファイルや表示する画像ファイルを選んだり、コピーまたは移動 / 削除などのファイル管理(P.68)の対象となるファイルを選びます。



● メニューの選択 / 設定時

メニュー項目の選択や設定内容の確定を行います（P.157)。



● FM ラジオの再生時

放送局（周波数）の選択や、音量調整を行います（P.63)。

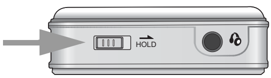


基本の操作　誤動作を防ごう（ホールド機能）

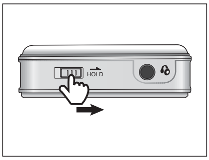
ホールド機能を使うと、気付かないうちにカーソルボタンなどが押されるといった誤動作を防げます。ホールドスイッチを矢印方向に動かすとホールド機能がオンになります。

ホールド機能がオンになっている時は、ディスプレイにホールドオンマークが表示されます。

1, 2

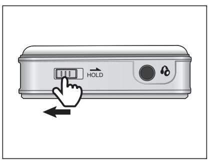


1：ホールド機能をオンにする



HOLD（ホールド）スイッチを矢印方向に動かします。ホールド機能がオンになると、ディスプレイ右上にホールドオンマークが表示されます。

2：ホールド機能をオフにする



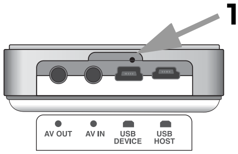
ホールド機能をオフにすると、ディスプレイ右上のホールドオンマークが消えます。

ワンポイント

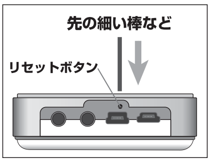
- ホールド機能をオンにすると、電源のオン / オフも操作できません。
- リモコン（P. 19）のホールド機能を併用して使用する場合は、ホールド機能は以下のように動作します。
  ・本体［オン］/ リモコン［オフ］…リモコンのボタンのみで操作できます。
  ・本体［オフ］/ リモコン［オン］…本体のボタンのみで操作できます。
- ホールドオンの状態で電源を入れようとすると、ディスプレイにホールドオンマークが数秒間表示され、電源は入りません。

基本の操作　強制終了する（リセット機能）

通常の操作ができないなどの状態が発生した場合は、リセットボタンを押すと強制的に電源を切れます。



1：リセットボタンを押す



先の細い棒などを使ってリセットボタンを押します。

強制的に電源が切れたあと、自動的に電源が入り再起動します。再起動したら、正常に動作するか確認してください。

リセット後も動作に不具合がある場合は、弊社サポートセンター（P.175）にご相談ください。

注意

- ホールド機能がオンになっている状態でリセットすると電源は切れますが、ホールド機能が働くため再起動できません。リセットする前に、ホールド機能をオフにしてください（P.42）。

ワンポイント

- リセットを実行しても、本体内蔵 HDD（ハードディスクドライブ）に保存されている各種ファイルは消去されません。ただし、録画 / 録音中にリセットを行った場合には、不測の事態が生じる場合がございます。

簡単な使いかた 2

ここを読めばすぐに使えます

ここだけ読んでもすぐに本製品をご利用いただける内容を説明しています。さらに細かく使いこなしたい場合は、この章以降のページをご参照ください。

この章は以下のような構成になっています。

基本の操作　音楽を楽しむためのマナー

電車や多くの人がいる場所でビデオや音楽をお楽しみになる際は、周囲の人の迷惑とならない音量でお聴きください。また、夜間では小さな音も遠くまで聴こえるようになりますので音量には充分配慮した上でお楽しみください。

基本の操作　著作権について

本製品をご利用される前に、以下の注意事項をご確認ください。
また、本製品は以下の注意事項を守ってご利用下さい。

注意

- 個人で楽しむ以外は、映像・音楽等を著作権者の許諾なしに複製することは、著作権法により禁止されていますので、行わないでください。
- 個人で楽しむ目的であっても、作成した映像・音楽等を、権利者の許諾無しに第三者に配布することは出来ません。
- 個人で楽しむ目的で録画・録音したデータを、権利者の許諾無しに故意にインターネット上で配布することは、著作権の「公衆送信権」「送信可能化権」に抵触する可能性があり、その場合処罰の対象となりますので、行わないでください。

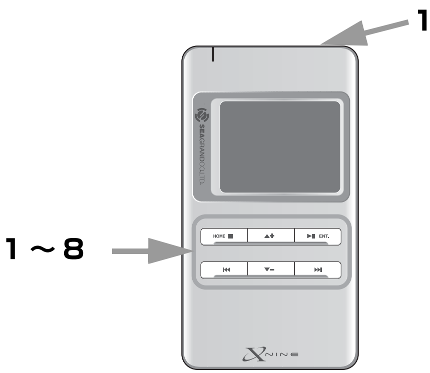
すぐに使う　ビデオを再生しよう（ビデオ再生機能）



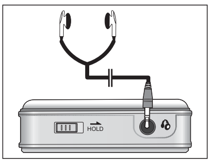
X-Nine は、本体で録画したりパソコンで編集したビデオファイル（AVI（DivX，Xvid）/MPEG1/MPEG2）を本体ディスプレイで再生して、映像を楽しむことができます。

また、再生を途中で中断したビデオファイルを再び再生しようとすると、前回中断した場所から再生を再開できるレジューム機能を搭載しています。

ここでは、製品ご購入時にあらかじめ用意されているサンプルのビデオファイルを利用して、ビデオの再生を楽しむ方法を説明します。



1：インナーイヤホンを接続する

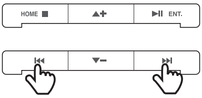


イヤホンジャック に付属のインナーイヤホンを接続します。

注意

- 再生時に音量が上がりすぎていると、突然大きな音が鳴って耳をいためることがあります。音量は再生しながら徐々に上げていきましょう。音量の調整方法については、手順５をご覧ください。

2：[⏮]/[⏭]を押して を選び[▶II ENT.]を押す

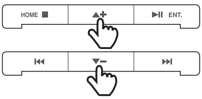


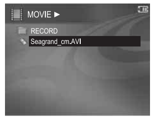


メイン画面で[⏮]または[⏭]を数回押して、ビデオモード を選び、[▶II ENT.]を押してモードを決定します。

メイン画面が表示されていないときは、[HOME ■]を何度か押してメイン画面を表示させてください。

3：[▲+]/[▼−]を押して［Seagrand_cm.AVI］を選ぶ





ビデオモードに入ると、ディスプレイにビデオファイルの一覧が表示されます。[▲+]または[▼−]を押して、サンプルのビデオファイル［Seagrand_cm.AVI］を選びます。

複数のファイルやフォルダが保存されている場合のファイルの選び方は、「カーソルボタンを使いこなそう」（P.40）をご覧ください。

4：[▶II ENT.]を押して再生する



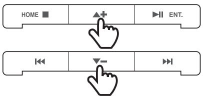
[▶II ENT.]を押すと、サンプルのビデオファイルの再生が始まります。

もう一度[▶II ENT.]を押すと一時停止し、再び[▶II ENT.]を押すと一時停止した部分から再生が始まります。

ワンポイント

- 以前に再生を途中で中断したビデオファイルを再生しようとすると、レジューム機能が働き、ディスプレイに［停止位置を記録しますか？］と表示されます。[⏮]または[⏭]を押して、前回中断した場所から再生をするときは［はい］、最初から再生するときは［いいえ］を選び、[▶II ENT.]を押します。

5：▲+ / ▼− を押して音量を調整する



▲+ または ▼− を押して、最適な音量に調整します。音量は、ディスプレイ右側に表示されます。



何も操作せずに一定時間が過ぎると、音量表示が消えます。

注意

- 再生時に音量が上がりすぎていると、突然大きな音が鳴って耳をいためることがあります。音量は再生しながら徐々に上げていきましょう。

6：I◀◀ / ▶▶I を押して、早送りや巻き戻しをする



ビデオの再生中に I◀◀ または ▶▶I を使うと次のような操作ができます。

●早送り

再生状態で ▶▶I を押したままにします。
▶▶I を押すのをやめると、その場所から通常の再生に戻ります。

●巻き戻し

再生状態で I◀◀ を押したままにします。
I◀◀ を押すのをやめると、その場所から通常の再生に戻ります。

●早送り再生

再生状態で ▶▶I を短く押します。
映像のみが早送り再生になります（音声は鳴りません）。早送り再生中に ▶IIENT. または ▶▶I を押すと、その場所から通常の再生に戻ります。

●巻き戻し再生

再生状態で I◀◀ を短く押します。
映像のみが巻き戻し再生になります（音声は鳴りません）。巻き戻し再生中に ▶IIENT. または I◀◀ を押すと、その場所から通常の再生に戻ります。

ワンポイント

- 早送り（再生）や巻き戻し（再生）は、再生時間の長いビデオファイルでお試しいただくと、よりその効果がおわかりいただけます。

7：HOME■ を押して停止する



HOME■を押すと、ビデオファイルの再生が停止し、ディスプレイにビデオファイル一覧が表示されます。

ほかのビデオファイルを再生させたいときは、手順2に戻りビデオファイルを選択します。

8：HOME■ を押してビデオモードを終了する



もう一度HOME■を押すと、ビデオモードを終了し、メイン画面に戻ります。

注意

- 再生時に音量が上がりすぎていると、突然大きな音が鳴って耳をいためることがあります。音量は再生しながら徐々に上げていきましょう。
- 電車や多くの人がいる場所でビデオや音楽をお楽しみになる際は、周囲の人の迷惑とならない音量でお聴きください。また、夜間では小さな音も遠くまで聴こえるようになりますので音量には充分配慮した上でお楽しみください。

ワンポイント

- ビデオが最後まで再生されると、自動的に停止状態となります。
- ひとつのビデオファイルを繰り返し再生することができます（リピート再生機能）(P.111)。
- MENU を数秒間押したままにすると、電源がオフになります（P.36）。
- 不要なビデオファイルを削除することもできます（P.68）。
- 充電中やパソコンと USB 接続している状態では、本体の操作はできません。
- 音量は、ビデオ / ミュージック / ラジオの各モードで独立して調整できます。
- ディスプレイのバックライトの明るさを調節できます（P.142）

ヒント

- カーソルボタンの使い方（P.40）

トラブル

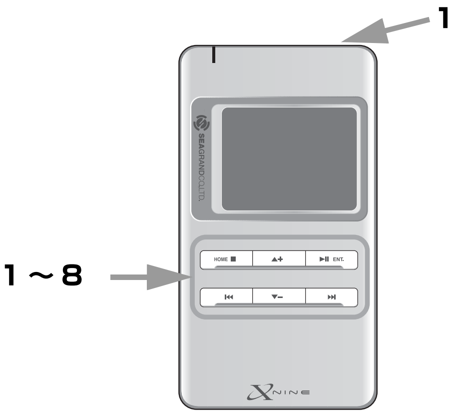
- ビデオが再生できない（P.163）
- 保存したはずのビデオファイルが見つからない（P.168）
- カーソルボタンを押しても操作できない（P.168）

すぐに使う　音楽を再生しよう（音楽再生機能）

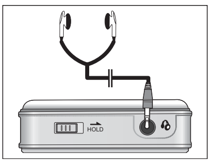


X-Nineは、Windows Media Playerやインターネットなどを使ってパソコンに取り込んだオーディオファイル（WMA/MP3形式）を再生して音楽を楽しむことができます。

ここでは、製品購入時にあらかじめ用意されているサンプルのオーディオファイルを利用して、音楽の再生を楽しむ方法を説明します。



1：インナーイヤホンを接続する

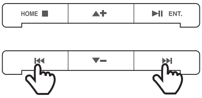


イヤホンジャック🎧に付属のインナーイヤホンを接続します。

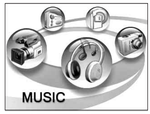
注意

- 再生時に音量が上がりすぎていると、突然大きな音が鳴って耳をいためることがあります。音量は再生しながら徐々に上げていきましょう。音量の調整方法については、手順５をご覧ください。

2：[⏮]/[⏭]を押して[ミュージックモード]を選び[▶II ENT.]を押す

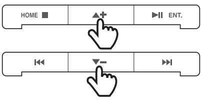


メイン画面で[⏮]または[⏭]を数回押して、ミュージックモード[ミュージック]を選び、[▶II ENT.]を押してモードを決定します。



メイン画面が表示されていないときは、[HOME ■]を何度か押してメイン画面を表示させてください。

3：[▲+]/[▼−]を押して［Demo Sound1.wma］を選ぶ



ミュージックモードに入ると、ディスプレイにオーディオファイルの一覧が表示されます。[▲+]または[▼−]を押して、サンプルのオーディオファイル［Demo Sound1.wma］を選びます。



複数のファイルやフォルダが保存されている場合のファイルの選び方は、「カーソルボタンを使いこなそう」（P.40）をご覧ください。

4：[▶II ENT.]を押して再生する



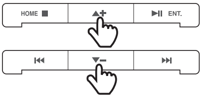
[▶II ENT.]を押すと、オーディオファイルの再生が始まります。

もう一度[▶II ENT.]を押すと一時停止し、再び[▶II ENT.]を押すと一時停止した部分から再生が始まります。

ワンポイント

- ［MUSIC］フォルダに複数の曲が保存されている場合、再生中の曲が終了すると、自動的に次の曲が再生されます。

5：[▲+]/[▼−]を押して音量を調整する



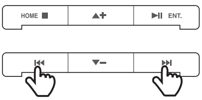
[▲+]または[▼−]を押して、最適な音量に調整します。音量は、ディスプレイ右側に表示されます。



注意

- 再生時に音量が上がりすぎていると、突然大きな音が鳴って耳をいためることがあります。音量は再生しながら徐々に上げていきましょう。

6：[⏮]/[⏭]を押して、早送りや巻き戻しをする



音楽の再生中に[⏮]または[⏭]を使うと次のような操作ができます。

●早送り

再生状態で[⏭]を押したままにします。
[⏭]を押すのをやめると、その場所から通常の再生に戻ります。

●巻き戻し

再生状態で[⏮]を押したままにします。
[⏮]を押すのをやめると、その場所から通常の再生に戻ります。

●次の曲の頭出し再生

再生状態で[⏭]を短く押します。

●再生中の曲の頭出し再生

再生が始まって 6 秒以上経過した後に[⏮]を短く押します。

●前の曲の頭出し再生

再生が始まって 5 秒以内に[⏮]を短く押します。

準備
基本操作編
すぐに使う
使いこなし方
困った時は
付録
索引

7：HOME■ を押して停止する



HOME■を押すと、オーディオファイルの再生を停止し、ディスプレイにオーディオファイル一覧が表示されます。

ほかのオーディオファイルを再生させたいときは、手順２に戻りオーディオファイルを選択します。

8：HOME■ を押してミュージックモードを終了する



もう一度HOME■を押すと、ミュージックモードを終了し、メイン画面に戻ります。

注意

- 再生時に音量が上がりすぎていると、突然大きな音が鳴って耳をいためることがあります。音量は再生しながら徐々に上げていきましょう。
- 電車や多くの人がいる場所でビデオや音楽をお楽しみになる際は、周囲の人の迷惑とならない音量でお聴きください。また、夜間では小さな音も遠くまで聴こえるようになりますので音量には充分配慮した上でお楽しみください。

ワンポイント

- 最初に再生した曲（オーディオファイル）が保存されているフォルダ内の曲のみが再生されます。フォルダをまたいで曲の再生はできません。
- 通常の状態では本体内蔵 HDD に保存された順番に曲（オーディオファイル）が再生されます。この曲順は、ミュージックモードでファイル / フォルダ一覧を表示させたときのファイルの順番となります。ソート機能を利用してファイルの表示順を並び替えたときは、曲順もソートされた順に変わります（P. 136）。
- ロックやクラシックなどの音楽ジャンルに最適な音質で音楽を楽しむことができます（イコライザ機能）（P. 116）。
- ひとつ、もしくはすべてのオーディオファイルを繰り返し再生することができます（リピート再生機能）（P. 111）。また、曲の一部区間を繰り返し再生することもできます（A-B リピート機能）（P. 110）。
- ランダムな曲順で再生することができます（シャッフル再生機能）（P. 114）。
- MENU を数秒間押したままにすると、電源がオフになります（P. 36）。
- 不要なオーディオファイルを削除することもできます（P. 68）。
- パソコンと USB 接続している状態では、再生などの本体の操作はできません。
- 音量は、ビデオ / ミュージック / ラジオの各モードで独立して調整できます。

ヒント

- 音質を調整するには（P. 116）
- 一部の区間を繰り返し再生するには（P. 110）
- カーソルボタンの使い方（P. 40）

トラブル

- 曲が再生できない（P. 164）
- 保存したはずのファイルが見つからない（P. 168）
- カーソルボタンを押しても操作できない（P. 168）

すぐに使う　画像を鑑賞しよう（フォトビューアー機能）



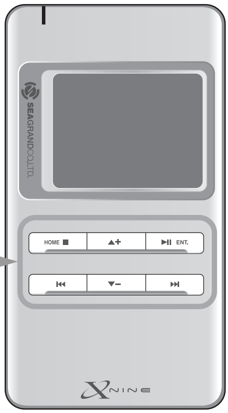
フォトモード

X-Nine は、デジタルカメラなどで撮影した画像ファイル（JPEG/BMP 形式）を取り込んで、本体ディスプレイで表示して写真を楽しむことができます。

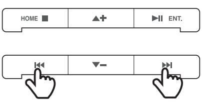
ここでは、製品購入時にあらかじめ用意されているサンプルの画像ファイルを利用して、写真鑑賞を楽しむ方法を説明します。

注意

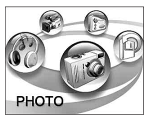
● JPEG 形式は最大 2800 × 2100 ピクセル、BMP ファイルは最大 1024 × 768 ピクセルまでの対応となります。



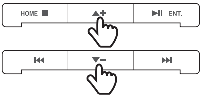
1：⏮ / ⏭ を押して（フォトモードアイコン）を選び ▶II ENT. を押す



メイン画面で ⏮ または ⏭ を数回押して、フォトモード（アイコン）を選び、▶II ENT. を押してモードを決定します。
メイン画面が表示されていないときは、HOME ■ を何度か押してメイン画面を表示させてください。



2：［▲+］/［▼−］を押して［LAKE.JPG］を選ぶ





フォトモードに入ると、ディスプレイに画像ファイルの一覧が表示されます。［▲+］または［▼−］を押して、サンプルの画像ファイル［LAKE.JPG］を選びます。

複数のファイルやフォルダが保存されている場合のファイルの選び方は、「カーソルボタンを使いこなそう」（P.40）をご覧ください。

3：［▶II ENT.］を押して画像を表示する



［▶II ENT.］を押すと、サンプルの画像ファイルがディスプレイに表示されます。

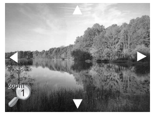
画像のサイズが 320 × 240 ピクセルを越える場合は、ディスプレイのサイズ（320 × 240 ピクセル）に縮小されて表示されます。

ワンポイント

- 画像を通常表示させている状態で［⏮］または［⏭］を押すと、［前］または［次］の画像ファイルを表示することができます。
- 画像ファイルのデータ量（ファイルサイズ）が大きいと、ディスプレイに表示されるまで時間がかかることがあります。
- JPEG形式は最大2800×2100ピクセル、BMPファイルは最大1024×768ピクセルまでの対応となります。

4：▶IIENT. を押して画像を拡大表示する（ズーム機能）





画像表示中に▶IIENT.を押すと、画像を拡大表示できます。

▶IIENT.を押すごとに、［× 1（1 倍 / 原寸）］→［× 2（2 倍）］→［× 4（4 倍）］と倍率が順番に切り替わり、もう一度▶IIENT.を押すと［× 1（1 倍）］に戻ります。倍率は、ディスプレイ左下に表示されます。

拡大表示の状態で▲+/▼−/⏮/⏭を押を押すと、拡大した画像の表示位置を上下左右に動かせます。HOME■を押すと通常表示に戻ります。

5：HOME■ を押して画像表示を終了する



通常表示の状態でHOME■を押すと、画像ファイル表示を終了し、ディスプレイに画像ファイル一覧が表示されます。

ほかの画像ファイルを表示させたいときは、手順２に戻り画像ファイルを選択します。

6：HOME■ を押してフォトモードを終了する



もう一度HOME■を押すと、フォトモードを終了し、メイン画面に戻ります。

ワンポイント

- 画像をテレビなどの AV 機器で表示することもできます（AV 出力機能）（P. 60）。
- 画像ファイルを一定時間間隔で切り替えて表示することもできます（スライドショー機能）（P. 129）。
- 画像ファイルを左右に回転させて表示することもできます（P. 131）。
- MENU を数秒間押したままにすると、電源がオフになります（P. 36）。
- 不要なファイルを削除することもできます（P. 68）。
- ディスプレイのバックライトの明るさを調節できます（P. 140）

ヒント

- スライドショー表示する（P. 129）
- カーソルボタンの使いかた（P. 40）

トラブル

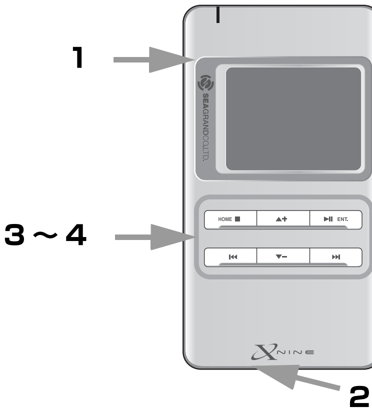
- 保存したはずのファイルが見つからない（P. 168）
- カーソルボタンを押しても操作できない（P. 168）

すぐに使う　テレビでビデオや画像を楽しもう（AV 出力機能）



X-Nine は、本体ディスプレイやインナーイヤホンでビデオや音楽を楽しむだけでなく、テレビなどの AV 機器と接続して、大きな画面でビデオや画像を映し出したり、音楽や FM ラジオを迫力あるサウンドで楽しむことができます。

ここでは、AV 機器で本体の映像やサウンドを楽しむ方法を説明します。なお、AV 機器との接続には付属の AV ケーブル（P.11）が必要です。



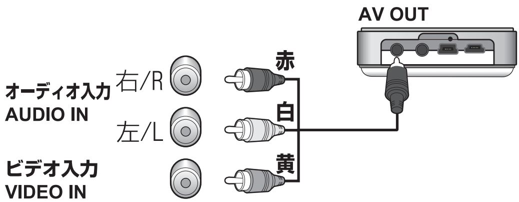
1：AV 機器と接続する

付属 AV ケーブルを使って、図のように AV 機器と本体の AV OUT ジャックを接続します。

AV 機器側は、ビデオ入力（VIDEO IN）に黄色いプラグを、音声入力 / 右（AUDIO IN/R）に赤色のプラグ、音声入力 / 左（AUDIO IN/L）に白色のプラグを接続します。

ワンポイント

- ミュージックモードまたはラジオモードでAV機器と接続する場合は、ビデオ端子（黄色いプラグ）を接続する必要はありません。
- フォトモードで AV 機器と接続する場合は、音声端子（赤と白のプラグ）を接続する必要はありません。



注意

- AV 機器と接続する前に、[映像出力信号設定] を [NTSC] に設定してください。設定方法は次項の「補足」をご覧ください。
- 接続するプラグや端子を間違えると、正しく再生できませんので、充分に接続をご確認ください。

2：ビデオファイルの再生や画像ファイルを表示する

正しく接続されると、これまで本体ディスプレイに表示されていた画面がテレビに映し出され、本体ディスプレイの表示が消えます。

以降の操作は、X-Nine 単体で使用する場合とまったく同じです。ビデオファイルの再生のしかた（P.47）や画像ファイルの表示しかた（P.56）は、各参照ページの操作手順をご覧ください。

3：映像出力を終了する

[HOME■]を押し、再生を停止します。付属 AV ケーブルを本体および AV 機器から取り外します。本体の AV OUT ジャックから付属 AV ケーブルが取り外されると、再び本体ディスプレイに画面が表示されます。

注意

- テレビにより、映像の周囲が切れるなど、若干表示サイズが異なる場合があります。
- 映像出力を使用する際は、[ディスプレイ設定] メニューの [バックライト明るさ調節]（P. 140）および [バックライト点灯時間調節]（P. 142）の各設定は動作しません。

トラブル

- カーソルボタンが操作できない（P. 168）

準備
基本操作編
すぐに使う
使いこなし方
困った時は
付録
索引

補足

［映像出力信号設定］を［NTSC］に設定する

本体から出力する映像出力信号を日本国内向けの［NTSC］方式に設定します（お買い上げ時は［NTSC］に設定されています）。
手順は次の通りです。

1：メイン画面を表示する

[HOME■]を何度か押してメイン画面を表示します。

2：メニューを表示する

[MENU]を短く押してメニューを表示します。[▲+]または[▼−]を押して［システム設定］を選び[▶II ENT.]を押します。サブメニューが表示されるので、[▲+]または[▼−]を押して［映像出力信号設定］を選び[▶II ENT.]を押します。

3：［NTSC］に設定する。

[▲+]または[▼−]を押して［NTSC］を選びます。[▶II ENT.]を押すと設定が確定します。画面がひとつ前のサブメニューに戻るので、[HOME■]を何度か押してメイン画面に戻ります。

以上で設定は終わりです。

ワンポイント

- ［NTSC］は、日本とアメリカで採用されている映像出力の方式です。通常は［NTSC］に設定しておいてください。
- ［PAL］は、ドイツ、イタリアなどヨーロッパや、中国で採用されている映像出力の方式です。PAL 方式の AV 機器や同方式が採用されている国でお使いになる場合に設定してください。

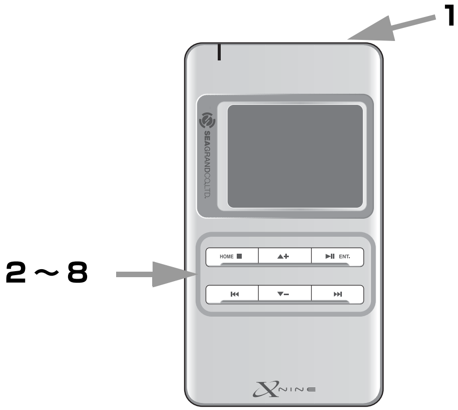
すぐに使う　FM ラジオを聴こう（自動スキャン機能）



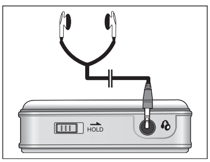
ラジオモード

X-Nine には、FM ラジオや 1 ～ 3ch の TV 音声の再生にも対応した FM チューナーが内蔵されています。76MHz ～ 108MHz の範囲内であれば海外でも利用できます。

ここでは、自動スキャンを行って放送局（周波数）を自動的にプリセット登録する方法を説明します。自動スキャンを行った後は、プリセット番号を選ぶだけで、すぐに聴きたい放送局を選ぶことができます。



1：インナーイヤホンを接続する



イヤホンジャック に付属のインナーイヤホンを接続します。

本製品はイヤホンアンテナ方式によって電波を受信します。FM ラジオを聴くときは、必ずインナーイヤホンをイヤホンジャックに接続してください。

注意

- ラジオ再生時に音量が上がりすぎていると、突然大きな音が鳴って耳をいためることがあります。音量は再生しながら徐々に上げていきましょう。音量の調整方法については、手順 9 をご覧ください。

準備
基本操作編
すぐに使う
使いこなし方
困った時は
付録
索引

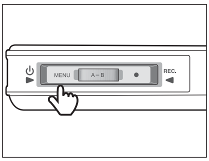
2：[⏮]/[⏭]を押して[ラジオ]を選び[▶II ENT.]を押す



メイン画面で[⏮]または[⏭]を数回押して、ラジオモード[ラジオ]を選び、[▶II ENT.]を押してモードを決定します。メイン画面が表示されていないときは、[HOME ■]を何度か押してメイン画面を表示させてください。



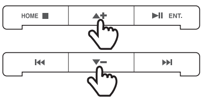
3：[MENU]を短く押してメニューを表示する



[MENU]を短く押して、ディスプレイにメニューを表示します。

[MENU]を長い時間押したままにすると電源が切れてしまいます（P.36）。[MENU]は短く押してください。

4：[▲+]/[▼−]を押して［自動スキャン開始］を選ぶ



[▲+]または[▼−]を押して、メニューの［自動スキャン開始］を選びます。



5：[▶II ENT.]を押して自動スキャンを開始する



[▶II ENT.]を押すと自動スキャンが開始し、ディスプレイの受信周波数表示が76.0MHzから108.0MHzまで変化します。放送局の電波を感知すると自動的にその受信周波数がプリセット番号［PRESET 1］、［PRESET 2］、［PRESET 3］…と登録されます。プリセットは、最大30個まで登録できます。

自動スキャンが終了すると、プリセット番号表示が［PRESET 1］と表示され、［PRESET 1］に登録された放送局（周波数）を聴けます。

自動スキャンを途中でキャンセルしたいときは、[HOME ■]を押します。

6：[▶II ENT.] を押してプリセットモードをオンにする



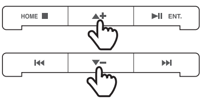
ディスプレイ画面右下の［PRESET］の先頭に緑色のマークが点灯し、プリセットモードがオンになっていることを確認します。プリセットモードがオフ（マークが消灯）になっている場合は、[▶II ENT.]を押してオンにします。[▶II ENT.]を押すたびにオンとオフが切り替わります。

7：[⏮] / [⏭] を押してプリセット番号を選ぶ



プリセットモードがオンの状態で[⏮]または[⏭]を押して、プリセット番号を選びます。プリセット番号を選ぶと、自動スキャンで登録された放送局をすぐに呼び出して聴くことができます。

8：[▲+] / [▼−] を押して音量を調整する



[▲+]または[▼−]を押して、最適な音量に調整します。音量は、ディスプレイ右側に表示されます。



注意

- ラジオ再生時に音量が上がりすぎていると、突然大きな音が鳴って耳をいためることがあります。音量は再生しながら徐々に上げていきましょう。

9：[HOME ■] を押してラジオモードを終了する



[HOME ■]を押すと、ラジオモードを終了し、メイン画面に戻ります。

注意

- 自動スキャン以外にも、手動で放送局（周波数）をプリセット登録することもできます（P.133）。
- 自動スキャンを行うと、手動プリセット（P.133）で登録した内容は上書きされます。
- 本体で受信した FM ラジオや TV 音声の放送を本体で録音することはできません。
- 電車や多くの人がいる場所でビデオや音楽をお楽しみになる際は、周囲の人の迷惑とならない音量でお聴きください。また、夜間では小さな音も遠くまで聴こえるようになりますので音量には充分配慮した上でお楽しみください。
- ラジオ再生時に音量が上がりすぎていると、突然大きな音が鳴って耳をいためることがあります。音量は再生しながら徐々に上げていきましょう。

ワンポイント

- 電池の残量が少ないと雑音が発生しやすくなります。充分に充電した状態でお使いください（P.31,32）。
- 音量は、ビデオ / ミュージック / ラジオの各モードで独立して調整できます。

ヒント

- 手動で放送局（周波数）を設定するには（P.132）
- 手動で設定した放送局（周波数）をプリセット番号に登録するには（P.133）

トラブル

- カーソルボタンが操作できない（P.168）

補足

[ラジオバンド設定] を [日本] に設定する

自動スキャンを行う前に、内蔵 FM チューナーの周波数帯域（ラジオバンド設定）を［日本］に設定します。（お買い上げ時は［日本］に設定されています）。手順は次の通りです。

1：メイン画面を表示する

HOME■を何度か押してメイン画面を表示します。

2：メニューを表示する

MENUを短く押してメニューを表示します。▲+または▼−を押して［システム設定］を選び▶IIENT.を押します。サブメニューが表示されるので、▲+または▼−を押して［ラジオバンド設定］を選び▶IIENT.を押します。

3：[日本] に設定する。

▲+または▼−を押して［日本］を選びます。▶IIENT.を押すと設定が確定します。画面がひとつ前のサブメニューに戻るので、HOME■を何度か押してメイン画面に戻ります。

以上で設定は終わりです。

ワンポイント

- ［日本］は、日本国内での FM ラジオ周波数帯域です。通常は［日本］に設定しておいてください。
- ［ヨーロッパ / 米国］は、欧米での FM ラジオ周波数帯域です。欧米でお使いになる場合に設定してください。

すぐに使う

ファイルを移動 / 削除しよう （ファイル管理機能）

ファイル モード

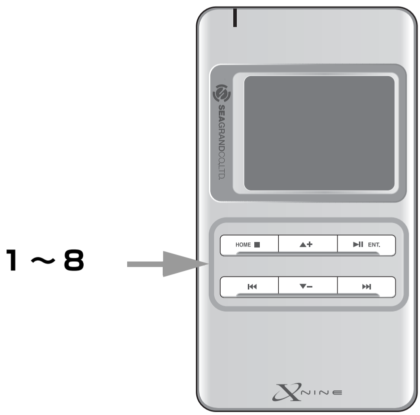
X-Nine は、本体操作のみでファイルの保存場所を移動したり、不要なファイルを削除するなど、ファイルを管理することができます。

この機能を利用することで、X-Nine でビデオ録画やボイス / オーディオ録音して作られたファイルや、パソコンやUSB機器から取り込んだファイルを、パソコンを使わずに手軽に管理することができます。

ここでは、ファイルを移動 / 削除する方法を説明します。

注意

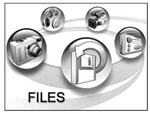
- 本機能では本体内蔵 HDD（ハードディスクドライブ）のルート（最上位階層）に保存されている [UNICODEF.FON] ファイルは削除できないように設計されておりますが、パソコンからの操作によりこのファイルを削除してしまうと、文字化けが発生するなどの不具合が起こります。[UNICODEF.FON] ファイルは、絶対に削除しないでください。万が一、誤って削除してしまった場合の対処方法については、「本体内蔵 HDD のフォーマット」（P.154）の手順 5 以降をご覧ください。
- 一度削除したファイル / フォルダは元に戻せないので充分に注意して操作してください。貴重なファイルなどは、バックアップを取ることをお薦めいたします。バックアップについては「ファイルをパソコンにバックアップしよう」（P.102）をご覧ください。



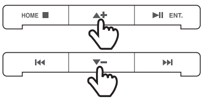
1：[⏮] / [⏭] を押して[P]を選び[▶II ENT.] を押す



メイン画面で[⏮]または[⏭]を数回押して、ファイルモード[P]を選び、[▶II ENT.]を押してモードを決定します。メイン画面が表示されていないときは、[HOME ■]を何度か押してメイン画面を表示させてください。



2：[▲+] / [▼−] を押して［HDD］を選ぶ



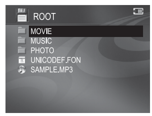
[▲+]または[▼−]を押して［HDD（内蔵ハードディスクドライブ）］を選びます。



3：[▶II ENT.] を押してファイル / フォルダ一覧を表示する



[▶II ENT.]を押すと、ディスプレイにファイル / フォルダの一覧が表示されます。



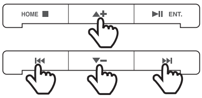
ワンポイント

- ディスプレイには、前回ファイル管理を行ったときと同じフォルダ内のファイル / フォルダ一覧が表示されます。
- ビデオ/ミュージック/フォトの各モードでは、それぞれ再生/表示可能な形式のファイルのみしかディスプレイに表示されませんが、ファイルモードでは、本体内蔵 HDD に保存されているすべてのファイル表示され、移動や削除が行えます。

準備
基本操作編
すぐに使う
使いこなし方
困った時は
付録
索引

準備
基本操作編
すぐに使う
使いこなし方
困った時は
付録
索引

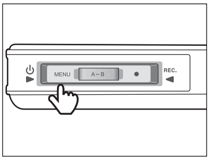
6：[▲+]/[▼−]、[⏮]/[⏭] を押して ファイル / フォルダを選ぶ



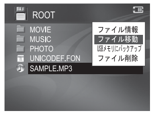
[▲+]/[▼−]や[⏮]/[⏭]を押して、移動または削除したいファイル / フォルダを選びます。

複数のファイルやフォルダが保存されている場合のファイルの選び方は、「カーソルボタンを使いこなそう」（P.40）をご覧ください。

7：[MENU]を短く押してメニューを表示する



[MENU]を短く押してメニューを表示し、[▲+]/[▼−]を押して、［ファイル移動］または［ファイル削除］を選びます。



[MENU]を長い時間押したままにすると電源が切れてしまいます（P.36）。[MENU]は短く押してください。

［ファイル移動］を選んだ場合

[▶II ENT.]を押すと、選択中のファイル / フォルダの表示が赤色に変わります。その状態で[▲+]/[▼−]や[⏮]/[⏭]を押して移動先のフォルダを選びます。移動先が決まったら、[MENU]を短く押すと移動が実行されます。

操作をキャンセルする場合は、[HOME■]を押します。移動の場合、元の保存場所からファイルはなくなります。

［ファイル削除］を選んだ場合

[▶II ENT.]を押すと、［削除しますか？］という確認メッセージと削除対象のファイル名が表示されます。削除してよければ[⏮]/[⏭]を押して［はい］を選び、[▶II ENT.]を押すと削除が実行されます。キャンセルする場合は [いいえ] を選び [▶II ENT.]を押します。

一度削除したファイルは元に戻せませんので、充分にご注意ください。

8：HOME■ を押してファイルモードを終了する



HOME■ を２回押すとメイン画面に戻り、ファイルモード（ファイル管理機能）を終了します。

注意

- 移動したいファイルと同じ名前のファイルが、移動先のフォルダにすでに保存されている場合は、ディスプレイに［同名のファイルがあります］と表示され、ファイルの移動はできません。
- 移動や削除を始めると、途中でキャンセルすることはできません。

ワンポイント

- ファイルを移動すると、元の保存場所からファイルはなくなります。
- ファイルモード以外のモードからでもファイルの削除が行えます。手順は以下のとおりです。

  1：MENU を短く押してメニューを表示させます。

  2：［ファイル削除］を選んで ▶II ENT. を押します。

  3：以降の操作は、手順７の［ファイル削除］を選んだ場合の操作と同じです。

簡単に使う AV 機器と接続してビデオ録画しよう（ビデオ録画機能）

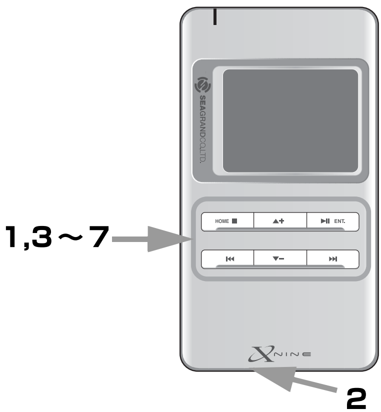


X-Nine は、パソコンを使わずに、本体だけでテレビなどの AV 機器から直接ビデオ録画ができます。

ここでは、本体での録画の方法を説明します。なお、ビデオ録画には、付属の AV ケーブル（P.11）が必要です。

注意

- ●個人で楽しむ以外は、映像・音楽等を著作権者の許諾なしに複製することは、著作権法により禁止されていますので、行わないでください。
- ●個人で楽しむ目的であっても、作成した映像・音楽等を、権利者の許諾無しに第三者に配布することは出来ません。
- ●個人で楽しむ目的で録画・録音したデータを、権利者の許諾無しに故意にインターネット上で配布することは、著作権の「公衆送信権」「送信可能化権」に抵触する可能性があり、その場合処罰の対象となりますので、行わないでください。



1：HOME■ を押してメイン画面を表示する



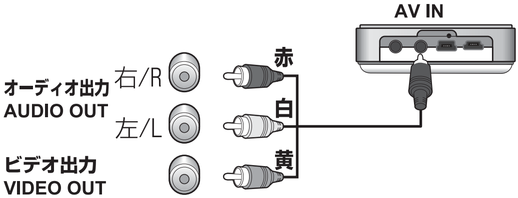
HOME■ を押してメイン画面を表示します。１度でメイン画面に戻らない場合は、何度か HOME■ を押してください。
ビデオモードでは録画の操作は行えませんのでご注意ください。



2：AV 機器と接続する

付属 AV ケーブル(P.11)を使って、図のように AV 機器と本体の AV IN ジャックを接続します。

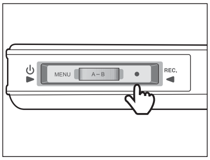
AV 機器側は、ビデオ出力（VIDEO OUT）に黄色いプラグを、音声出力 / 右（AUDIO OUT/R）に赤色のプラグ、音声出力 / 左（AUDIO OUT/L）に白色のプラグを接続します。



注意

- 接続するプラグや端子を間違えると、正しく再生できませんので、充分に接続をご確認ください。

3：●REC を押す

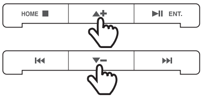


●REC を押して録画/録音モード画面を表示します。



準備 基本操作編 すぐに使う 使いこなし方 困った時は 付録 索引

4：[▲+]/[▼−]を押して［VIDEO Recording］を選ぶ

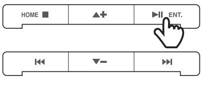




[▲+]/[▼−]を押して［VIDEO Recording（ビデオ録画）］を選びます。

画質を設定したいときは、ここで[MENU]を短く押してメニューを表示します。画質の設定のしかたについては「録画や録音の品質を設定しよう（画質 / 音質設定）」（P.121）をご覧ください。

5：[▶II ENT.] を押して録画待機状態にする



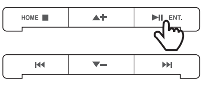
[▶II ENT.]を押して録画待機状態にします。

ディスプレイには、本体に接続した AV 機器の映像と［[ENT] ボタンを押して開始］というメッセージが表示されます（この時点では、まだ録画は開始していません）。

注意

- AV 機器の不具合や AV ケーブルの接続不良など､正常に映像信号が本体に送られていない場合は、ディスプレイに［ビデオ信号がありません］と表示されます。AV 機器や AV ケーブルの接続をご確認ください。
- 録画する映像の音量レベルは、再生側の音量に依存します。本体で音量レベル設定はできませんのでご注意ください。

6：[▶II ENT.] を押して録画を開始する



[▶II ENT.]を押して録画を開始します。もう一度[▶II ENT.]を押すと録画を一時停止し､再び[▶II ENT.]を押すと一時停止した部分から続けて録画が始まります。

注意

- 内蔵 HDD（ハードディスクドライブ）の性質上、2GB を越えるファイルを保存することができません。そのため連続録画可能時間は、画質の設定（P. 121）により、次のようになります（内蔵バッテリーで駆動している場合には連続録音可能時間は短くなります）。
  - ・高品質：約 2 時間 20 分
  - ・標　準：約 3 時間 40 分
  - ・長時間：約 5 時間 30 分

ヒント

- 録画を開始してそのままの状態にしておくと、連続録画可能時間を経過した後に、自動的に録画が終了します。この機能を利用して、録画したい映像の長さに応じて録画の画質を調整することで、録画の自動停止時間を 3 段階で設定するといった使いかたもできます。

7：HOME■ を押して録画を終了する



HOME■ を押して録画を終了します。

ディスプレイが、録画 / 録音モード画面に戻ります。

録画したビデオファイルは、自動的に［MOVIE］フォルダ内の［RECORD］-［VIDEO］フォルダに［VIDEO＊＊＊ .MRX］というファイル名で保存されます。［＊＊＊］は、000 から順番に、001、002…と番号がつけられます。

録画したビデオファイルの再生のしかたについては、「ビデオを再生しよう（ビデオ再生機能）」（P.47）をご覧ください。

注意

- 録音したファイルの形式は MRX（X-Nine 専用ファイル形式）となります。
- 操作上の問題または本製品の不具合により、正常に録画されなかった場合の録画内容については保証は致しかねます。予めご了承ください。
- 録音時にイヤホンから聴こえる音量・音質は、再生時のものと異なります。事前に試し録音をして、再生時の音量・音質をご確認ください。
- 録画した MRX ファイルは、パソコンなどにバックアップ（複製保存）することができますが、Windows Media Player など、動画再生アプリケーションで再生することはできません。録画した MRX ファイルの再生は、X-Nine 本体のみで可能です。

ワンポイント

- 本体内蔵 HDD（ハードディスクドライブ）の空き容量がない状態では、ディスプレイに［HDD の空き容量がたりません］と表示され録画ができません。不要なファイルを削除したり（P.68）、パソコンに必要なファイルをバックアップする（P.102）などして、HDD の空き容量を増やしたうえで録画を行ってください。
- 録画の画質は 3 段階の中から選べます。詳細については「録画や録音の品質を設定しよう（画質 / 音質設定）」（P.121）をご覧ください。
- 録画する映像の音量レベルは、再生側の音量に依存します。本体で音量レベル設定はできませんのでご注意ください。
- AV ケーブルを使ってオーディオ録音することもできます（P.82）。

準備
基本操作編
すぐに使う
使いこなし方
困った時は
付録
索引

ヒント

● 録画したファイルをパソコンにバックアップ（複製保存）するには（P. 102）
● 高画質で録画するには（P. 121）
● オーディオ録音するには（P. 81）

トラブル

● 録画できない（P. 166）
● 録画したビデオの音が悪い（P. 166）
● ボタンが操作できない（P. 168）

簡単に使う　内蔵マイクで録音しよう（ボイス録音機能）

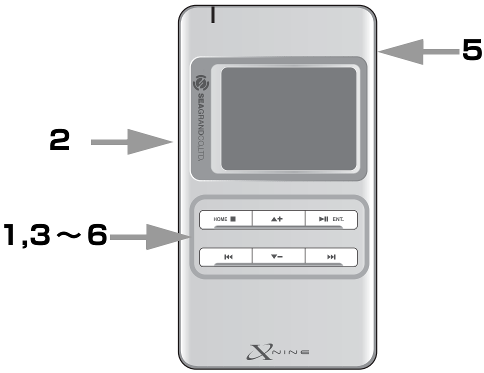


X-Nine は、マイクを内蔵しており、本体だけで手軽に録音（ボイス録音）ができます。会議や語学レッスン、とっさのときにボイスメモを残すのに便利です。録音は MP3 形式で行われます。

ここでは、ボイス録音の方法を説明します。

注意

- 個人で楽しむ以外は、映像・音楽等を著作権者の許諾なしに複製することは、著作権法により禁止されていますので、行わないでください。
- 個人で楽しむ目的であっても、作成した映像・音楽等を、権利者の許諾無しに第三者に配布することは出来ません。
- 個人で楽しむ目的で録画・録音したデータを、権利者の許諾無しに故意にインターネット上で配布することは、著作権の「公衆送信権」「送信可能化権」に抵触する可能性があり、その場合処罰の対象となりますので、行わないでください。



1：HOME■ を押してメイン画面を表示する

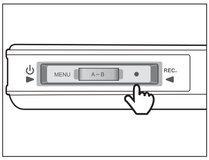


HOME■を押してメイン画面を表示します。１度でメイン画面に戻らない場合は、何度かHOME■を押してください。

ミュージックモードでは録音の操作は行えませんのでご注意ください。



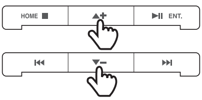
2：●REC を押す



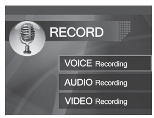
●RECを押して録画/録音モード画面を表示します。



3：▲+/▼−を押して［VOICE Recording］を選ぶ



▲+/▼−を押して［VOICE Recording（ボイス録音）］を選びます。



音質を設定したいときは、ここでMENUを短く押してメニューを表示します。音質の設定のしかたについては「録画や録音の品質を設定しよう（画質 / 音質設定)」（P.121）をご覧ください。

4：▶IIENT. を押して録音待機状態にする



▶IIENT.を押して録音待機状態にします。

ディスプレイには、[［ENT］ボタンを押して開始］というメッセージが表示されます（この時点では、まだ録音は開始していません)。



注意

- 録音の音量レベルは、再生側の音量に依存します。本体で音量レベル設定はできませんのでご注意ください。

5：▶II ENT. を押して録音を開始する



▶II ENT.を押して録音を開始します。もう一度▶II ENT.を押すと録音を一時停止し、再び▶II ENT.を押すと一時停止した部分から続けて録音が始まります。

注意

- 録音したい音源の方向に内蔵マイクを向けて録音してください。
- 内蔵 HDD（ハードディスクドライブ）の性質上、2GB を越えるファイルを保存することができません。そのため連続録音可能時間は、音質の設定（P. 121）により、次のようになります（内蔵バッテリーで駆動している場合には連続録音可能時間は短くなります）。下記録音時間が経過すると、録音は自動的に終了します。
  ・高品質：約 35 時間
  ・標　準：約 47 時間
  ・長時間：約 70 時間

6：HOME ■ を押して録音を終了する



HOME ■を押して録音を終了します。

ディスプレイが、録画 / 録音モード画面に戻ります。

録音したオーディオファイルは、自動的に［MUSIC］フォルダ内の［RECORD］-［VOICE］フォルダに［VOICE ＊＊＊ .MP3］というファイル名で保存されます。［＊＊＊］は、000 から順番に、001、002…と番号がつけられます。

録音したオーディオファイルの再生のしかたについては、「音楽を再生しよう（音楽再生機能）」（P.51）をご覧ください。

準備
基本操作編
すぐに使う
使いこなし方
困った時は
付録
索引

準備
基本操作編
すぐに使う
使いこなし方
困った時は
付録
索引

注意

- 録音したファイルの形式は MP3 となります。
- 操作上の問題または本製品の不具合により、正常に録音されなかった場合の録音内容については保証は致しかねます。予めご了承ください。
- 録音時にイヤホンから聴こえる音量・音質は、再生時のものと異なります。事前に試し録音をして、再生時の音量・音質をご確認ください。

ワンポイント

- 本体内蔵 HDD（ハードディスクドライブ）の空き容量がない状態では、ディスプレイに［HDD の空き容量がたりません］と表示され録画ができません。不要なファイルを削除したり（P. 68）、パソコンに必要なファイルをバックアップする（P. 102）などして、HDD の空き容量を増やしたうえで録画を行ってください。
- 録音の音質は 3 段階の中から選べます。設定した音質のサンプリング周波数 / ビットレートはディスプレイに表示されます。詳細については「録画や録音の品質を設定しよう（画質 / 音質設定）」（P. 121）をご覧ください。
- オーディオ録音時には、CD シンク機能が利用できます。これは、一度の録音操作で CD や MD の曲間の無音部分を検知し、曲ごとに録音ファイルを自動分割して保存できる機能です。CD や MD などからたくさんの曲をオーディオ録音する際にとても便利です。CD シンク機能の詳細は「曲ごとにファイルを分割して録音しよう（CD シンク機能）」（P. 124）をご覧ください。
- 録音の音量レベルは、再生側の音量に依存します。本体で音量レベル設定はできませんのでご注意ください。

ヒント

- 録音したファイルをパソコンにバックアップ（複製保存）するには（P. 102）
- いい音質で録音するには（P. 121）
- 録音時のサンプリングレートやビットレートを変更するには（P. 121）

トラブル

- 録音できない（P. 166）
- 録音した音が悪い（P. 166）
- 録音した音が異常に小さい（P. 166）
- ボタンが操作できない（P. 168）

簡単に使う　オーディオ機器と接続して録音しよう（オーディオ録音機能）

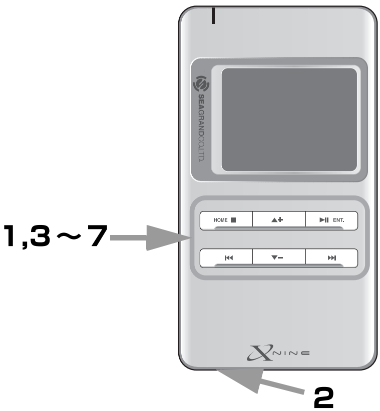


X-Nine は、パソコンを使わずに、本体だけで CD や MD プレイヤーなどのオーディオ機器から直接録音（オーディオ録音）ができます。録音は MP3 形式で行われます。

ここでは、オーディオ録音の方法を説明します。なお、オーディオ録音には、付属のオーディオ録音ケーブル（P.11）が必要です。

注意

- ●個人で楽しむ以外は、映像・音楽等を著作権者の許諾なしに複製することは、著作権法により禁止されていますので、行わないでください。
- ●個人で楽しむ目的であっても、作成した映像・音楽等を、権利者の許諾無しに第三者に配布することは出来ません。
- ●個人で楽しむ目的で録画・録音したデータを、権利者の許諾無しに故意にインターネット上で配布することは、著作権の「公衆送信権」「送信可能化権」に抵触する可能性があり、その場合処罰の対象となりますので、行わないでください。



準備
基本操作編
すぐに使う
使いこなし方
困った時は
付録
索引

準備
基本操作編
すぐに使う
使いこなし方
困った時は
付録
索引

1：HOME■ を押してメイン画面を表示する

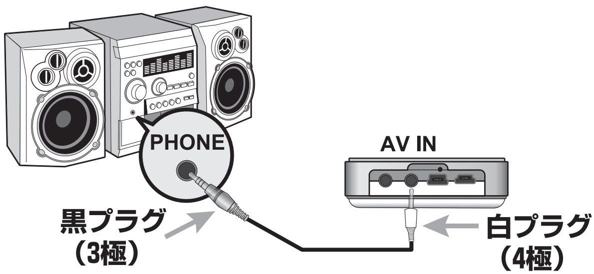


HOME■ を押してメイン画面を表示します。１度でメイン画面に戻らない場合は、何度か HOME■ を押してください。
ミュージックモードでは録音の操作は行えませんのでご注意ください。



2：オーディオ機器と接続する

付属オーディオ録音ケーブル（P.11）を使って、図のようにオーディオ機器と本体の AV IN ジャックを接続します。
オーディオ機器側は、ステレオミニプラグ・タイプのヘッドホン出力端子またはラインアウト端子に黒色のプラグを接続します。



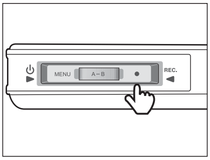
注意

- 接続するプラグや端子を間違えると、正しく録画できませんので、充分に接続をご確認ください。

ワンポイント

- AV ケーブルを使ってもオーディオ録音が行えます。AV ケーブルと本体の接続のしかたについては、「AV 機器と接続してビデオ録画しよう （ビデオ録画機能）」（P. 72）をご覧ください。

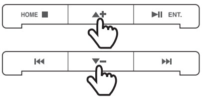
3：●REC を短く押す



●REC を短く押して録画/録音モード画面を表示します。



4：▲+/▼− を押して［AUDIO Recording］を選ぶ



▲+/▼− を押して［AUDIO Recording（オーディオ録音）］を選びます。



音質を設定したいときは、ここで MENU を短く押してメニューを表示します。音質の設定のしかたについては「録画や録音の品質を設定しよう（画質 / 音質設定）」（P.121）をご覧ください。

また、CD や MD を録音するときは、CD シンク機能を利用すると便利です（P.124）。

5：▶IIENT. を押して録音待機状態にする



▶IIENT. を押して録音待機状態にします。



ディスプレイには、［[ENT］ボタンを押して開始］というメッセージが表示されます（この時点では、まだ録音は開始していません）。

注意

- 録音の音量レベルは、再生側の音量に依存します。本体で音量レベル設定はできませんのでご注意ください。

6：▶II ENT. を押して録音を開始する



▶II ENT.を押して録音を開始します。

もう一度▶II ENT.を押すと録音を一時停止し、再び▶II ENT.を押すと一時停止した部分から続けて録音が始まります。

注意

- 内蔵 HDD（ハードディスクドライブ）の性質上、2GB を越えるファイルを保存することができません。そのため連続して録音可能時間は、音質の設定（P.121）により、次のようになります（内蔵バッテリーで駆動している場合には連続録音可能時間は短くなります）。下記録音時間が経過すると、録音は自動的に終了します。
  - ・高品質：約 17 時間
  - ・標　準：約 35 時間
  - ・長時間：約 70 時間

7：HOME■ を押して録音を終了する



HOME■を押して録音を終了します。

ディスプレイが、録画 / 録音モード画面に戻ります。

録音したオーディオファイルは、自動的に［MUSIC］フォルダ内の［RECORD］-［AUDIO］フォルダに［AUDIO ＊＊＊ .MP3］というファイル名で保存されます。［＊＊＊］は、000 から順番に、001、002…と番号がつけられます。

録音したオーディオファイルの再生のしかたについては、（P.51）をご覧ください。

注意

- 録音したファイルの形式は MP3 となります。
- 操作上の問題または本製品の不具合により、正常に録音されなかった場合の録音内容については保証は致しかねます。予めご了承ください。
- 録音時にイヤホンから聴こえる音量・音質は、再生時のものと異なります。事前に試し録音をして、再生時の音量・音質をご確認ください。

ワンポイント

- 本体内蔵 HDD（ハードディスクドライブ）の空き容量がない状態では、ディスプレイに［HDD の空き容量がたりません］と表示され録画ができません。不要なファイルを削除したり（P.68）、パソコンに必要なファイルをバックアップする（P.102）などして、HDD の空き容量を増やしたうえで録画を行ってください。
- 録音の音質は 3 段階の中から選べます。設定した音質のサンプリング周波数 / ビットレートはディスプレイに表示されます。詳細については「録画や録音の品質を設定しよう（画質 / 音質設定）」（P.121）をご覧ください。
- オーディオ録音時には、CD シンク機能が利用できます。これは、一度の録音操作で CD や MD の曲間の無音部分を検知し、曲ごとに録音ファイルを自動分割して保存できる機能です。CD や MD などからたくさんの曲をオーディオ録音する際にとても便利です。CD シンク機能の詳細は「曲ごとにファイルを分割して録音しよう（CD シンク機能）」（P.124）をご覧ください。
- 録音の音量レベルは、再生側の音量に依存します。本体で音量レベル設定はできませんのでご注意ください。

ヒント

- 録音したファイルをパソコンにバックアップ（複製保存）するには（P.102）
- いい音質で録音するには（P.121）
- 録音時のサンプリングレートやビットレートを変更するには（P.121）

トラブル

- 録音できない（P.166）
- 録音した音が悪い（P.166）
- ボタンが操作できない（P.168）

簡単に使う

USB メモリ機器にファイルをバックアップしよう（USB ホスト機能 1）

ファイルモード

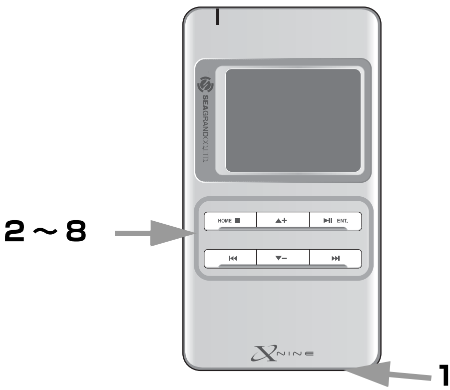
X-Nine は、USB メモリや USB メモリ機能を搭載したオーディオプレイヤーなどの USB メモリ機器と接続して、本体内蔵 HDD（ハードディスクドライブ）に保存されているファイルを USB メモリ機器にコピーすることができます。

この機能を利用することで、X-Nine でビデオ録画やボイス/オーディオ録音したファイルを、パソコンを使わずに USB メモリ機器に手軽にバックアップ（複製保存）することができます。

ここでは、本体内蔵 HDD から USB メモリ機器へファイルをバックアップする方法を説明します。なお、本体と USB メモリと機器の接続には、付属の USB ホストケーブル（P.11）が必要です。

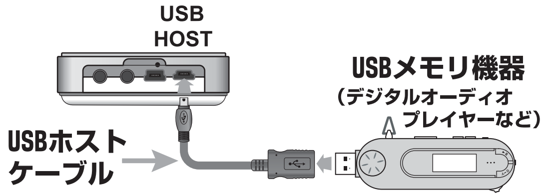
注意

- USB メモリおよび USB メモリ機能を搭載した USB メモリ機器の使いかたの詳細については、ご利用の製品の取扱説明書をご覧ください。不明点は、これらの製造元にお問い合わせください。
- 接続機器が USB マスストレージクラスに対応している必要があります。
- すべての USB マスストレージクラス対応機器との接続を保証する物ではございません。
- 外部の USB マスストレージクラス対応機器との転送は USB1.1 で行われます。



1：USB メモリ機器を接続する

付属 USB ホストケーブル（P.11）を使って、図のように USB メモリ機器を本体の USB HOST ジャックを接続します。



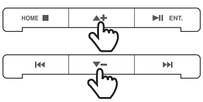
2：⏮ / ⏭ を押して（ファイルモード）を選び ▶II ENT. を押す



メイン画面で ⏮ または ⏭ を数回押して、ファイルモード（アイコン）を選び、▶II ENT. を押してモードを決定します。
メイン画面が表示されていないときは、HOME■ を何度か押してメイン画面を表示させてください。



3：▲+ / ▼− を押して［HDD］を選ぶ



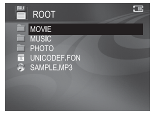
▲+ / ▼− を押して［HDD（内蔵ハードディスクドライブ）］を選びます。



準備
基本操作編
すぐに使う
使いこなし方
困った時は
付録
索引

4：[▶II ENT.] を押してファイル / フォルダ一覧を表示する

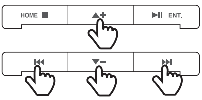




[▶II ENT.]を押すと、ディスプレイに本体内蔵 HDD に保存されているファイル / フォルダの一覧が表示されます。

このとき、ディスプレイには、前回ファイル / フォルダの移動または削除を行ったときと同じフォルダ内のファイル / フォルダ一覧が表示されます。

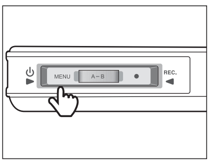
5：[▲+]/[▼−]、[⏮]/[⏭] を押して コピーするファイル / フォルダを選ぶ

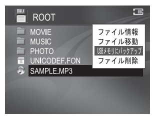


[▲+]/[▼−]や[⏮]/[⏭]を押して、USB メモリ機器にバックアップしたいファイル / フォルダを選びます。

複数のファイルやフォルダが保存されている場合のファイルの選び方は、「カーソルボタンを使いこなそう」（P.40）をご覧ください。

6：[MENU] を短く押してメニューを表示する





[MENU]を短く押してメニューを表示します。

[MENU]を長い時間押したままにすると電源が切れてしまいます（P.36）。[MENU]は短く押してください。

[▲+]/[▼−]を押して、［USB メモリにバックアップ］を選びます。

7： ▶II ENT. を押してバックアップを実行する



▶II ENT. を押すと、ディスプレイに［USB ホストの初期化中］と表示されます。USB 機器を正常に認識すると、バックアップを実行します。

コピーしたファイル / フォルダは、USB メモリ機器のメモリ内に作られる［BACKUP］フォルダ内の［BACKUP0］、［BACKUP1］、［BACKUP2］…というフォルダの中に保存されます。これらのフォルダは、［USB メモリにバックアップ］を実行するたびに自動的に作成されます。

注意

- バックアップしたいファイルと同じ名前のファイルが､USB メモリ機器に既に保存されている場合は、ファイルが上書きされますのでご注意ください。
- ▶II ENT. を押してバックアップを実行中に操作をキャンセルしたいときは、HOME ■ を押します。［キャンセルしますか？］というメッセージが表示されたら、⏮ または ⏭ を押して［はい］を選び､▶II ENT. を押します。ただし、バックアップが完了した後で操作を取り消すことができません。
- USB 機器を正常に認識できなかった場合は、ディスプレイに［USB メモリがみつかりません］とメッセージが表示されます。あらためて接続を確認し、再度手順 1 から操作してください。
- 相手側のUSB機器がUSBマスストレージクラス機能をサポートしている必要があります（P. 107）。詳細については、ご利用の製品の取扱説明書をご覧ください。不明点は、これらの製造元にお問い合わせください。

8： HOME ■ を押してファイルモードを終了する



HOME ■ を２回押すとメイン画面に戻り、ファイルモード（ファイル管理機能）を終了します。

本体からUSBメモリ機器を取り外し､正しくバックアップが行われていることをご確認ください。

ワンポイント

- コピー元のファイルは削除されずにそのまま本体内蔵 HDD に保存されます

トラブル

- ファイルのバックアップ（複製保存）ができない（P. 167）

簡単に使う

USB 機器のファイルを本体にコピーしたり削除しよう（USB ホスト機能 2）



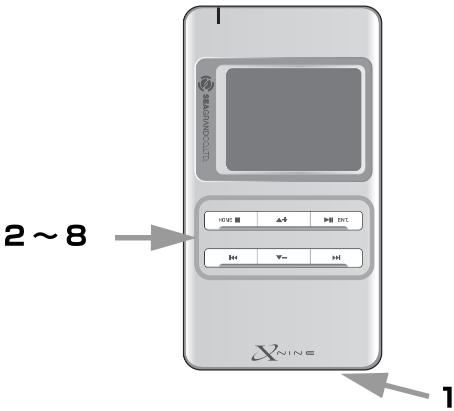
X-Nine は、USB メモリ機能を搭載したオーディオプレイヤーやデジタルカメラなどの USB 機器と接続して、それらに保存されているファイルを本体内蔵 HDD（ハードディスクドライブ）に保存することができます。

この機能を利用することで、パソコンを使わずに X-Nine を手軽に持ち運び可能なモバイルHDDとして活用することができます。また、本体の操作で、USB 機器のファイルを削除することも可能です。

ここでは、USB 機器から本体内蔵 HDD へファイルをコピー / 削除する方法を説明します。なお、本体と USB デバイスとの接続には、付属の USB ケーブル（P.11）が必要です。

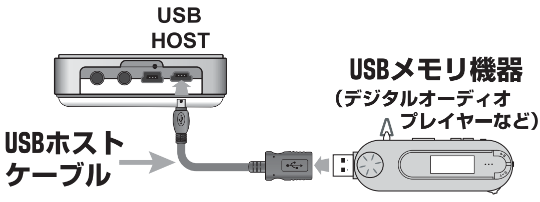
注意

- USBホスト機能を利用する場合は、相手側のUSB機器がUSBマスストレージクラス機能をサポートしている必要があります（P. 107）。詳細については、ご利用の製品の取扱説明書をご覧ください。不明点は、これらの製造元にお問い合わせください。



1：USB 機器を接続する

付属 USB ケーブル（P.11）を使って、図のように USB 機器を本体の USB HOST ジャックを接続します。

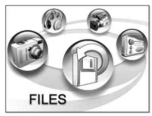


2：[⏮]/[⏭] を押して を選び [▶II ENT.] を押す

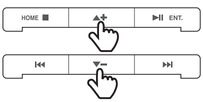


メイン画面で [⏮] または [⏭] を数回押して、ファイルモード を選び、[▶II ENT.] を押してモードを決定します。

メイン画面が表示されていないときは、[HOME ■] を何度か押してメイン画面を表示させてください。



3：[▲+]/[▼−] を押して［USB］を選ぶ



[▲+]/[▼−] を押して［USB（USB 機器）］を選びます。



4：[▶II ENT.] を押して USB 機器のファイル一覧を表示する



[▶II ENT.] を押すと、ディスプレイに［USB ホストの初期化中］と表示されます。

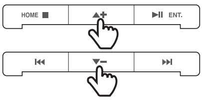
USB 機器を正常に認識すると、ディスプレイに USB 機器の内蔵メモリーに保存されているファイル / フォルダの一覧が表示されます。

準備
基本操作編
すぐに使う
使いこなし方
困った時は
付録
索引

注意

- USB 機器を正常に認識できなかった場合は、ディスプレイに［USB メモリがみつかりません］とメッセージが表示されます。あらためて接続を確認し、再度手順 1 から操作してください。
- 相手側のUSB機器がUSBマスストレージクラス機能をサポートしている必要があります（P. 107）。詳細については、ご利用の製品の取扱説明書をご覧ください。不明点は、これらの製造元にお問い合わせください。

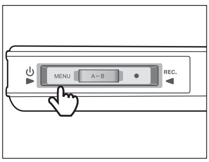
5：［▲+］/［▼−］を押してファイルを選ぶ



［▲+］/［▼−］を押して、コピーまたは削除したいファイル / フォルダを選びます。

複数のファイルやフォルダが保存されている場合のファイルの選び方は、「カーソルボタンを使いこなそう」（P.40）をご覧ください。

6：［MENU］を短く押してメニューを表示する



［MENU］を短く押してメニューを表示します。

［MENU］を長い時間押したままにすると電源が切れてしまいます（P.36）。［MENU］は短く押してください。

［▲+］/［▼−］を押して、［内蔵 HDD にバックアップ］または［ファイル削除］を選びます。

［内蔵 HDD にバックアップ］を選んだ場合

［▶IIENT.］を押すと、USB 機器から本体内蔵 HDD へファイルのコピーが実行されます。コピーしたファイル / フォルダは、ルート（最上位階層）に作られる［BACKUP］フォルダ内の［BACKUP0］、［BACKUP1］、［BACKUP2］…というフォルダの中に保存されます。

これらのフォルダは、［内蔵 HDD にバックアップ］を実行するたびに自動的に作成されます。

注意

- ［▶IIENT.］を押してコピーを実行中に操作をキャンセルしたいときは、［HOME■］を押します。［キャンセルしますか？］というメッセージが表示されたら、［I◀◀］または［▶▶I］を押して［はい］を選び、［▶IIENT.］を押します。ただし、コピーが完了した後で操作を取り消すことができません。

［ファイル削除］を選んだ場合

［▶II ENT.］を押すと、［削除しますか？］という確認メッセージと削除対象のファイル名が表示されます。削除してよければ［⏮］または［⏭］を押して［はい］を選び、［▶II ENT.］を押すと削除が実行されます。キャンセルしたいときは、［いいえ］を選び、［▶II ENT.］を押します。

注意

- 削除の実行後に操作をキャンセルすることはできません。一度削除したファイルは元に戻せませんので、充分にご注意ください。

7：［HOME■］を押してファイルモードを終了する



［HOME■］を２回押すとメイン画面に戻り、ファイルモード（USB ホスト機能）を終了します。

USB 機器を本体から取り外すときは、必ずメイン画面に戻ってから取り外してください。

ワンポイント

- 本体内蔵 HDD（ハードディスクドライブ）の空き容量がない状態では、ディスプレイに［HDD の空き容量がたりません］と表示され録画ができません。不要なファイルを削除したり（P. 68）、パソコンに必要なファイルをバックアップする（P. 102）などして、HDD の空き容量を増やしたうえで録画を行ってください。

ヒント

- コピー元のファイルは削除されずにそのまま USB 機器に保存されています。

PC活用術　音楽 CD をパソコンに取り込もう



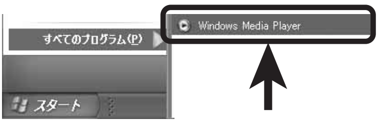
Windows に標準で用意されているアプリケーション [Windows Media Player] を使って、お気に入りの CD をパソコンに取り込むことができます。パソコンに取り込んだオーディオファイルを本体に転送すれば、いつでも手軽に音楽を楽しめます。

ここでは、Windows Media Player を使って、音楽 CD をパソコンに取り込む方法を簡単に説明します。

注意

- Windows Media Player はバージョン 7.0 以降をご使用ください。本書はバージョン 10 の画面で説明しています。バージョン 9 をお使いの方は、手順説明内のバージョン 9 用表記をご参考ください。なお、バージョン 10 は、Windows XP のみ使用できます。
- Windows Media Player の詳細な使い方は、同アプリケーションの［ヘルプ］をご覧ください。不明点は、これらの製造元にお問い合わせください。

1：Windows Media Player を起動する



Windows の［スタート］メニューから［すべてのプログラム］－［Windows Media Player］を選択します。

2：取り込みの設定をする



Windows Media Player の［ツール］メニューから［オプション］を選び、オプションウィンドウを表示します。

3：[取り込んだ音楽を保護する] のチェックをオフにする



[音楽の取り込み]（※バージョン９では［音楽の録音］）タブをクリックします。

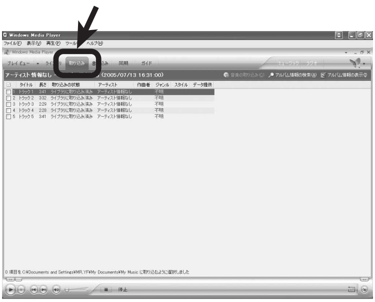
[取り込みの設定]（※バージョン9では［録音設定］）の［取り込んだ音楽を保護する]（※バージョン９では[保護された音楽を録音する]）のチェックがオフになっていることを確認します。

オンになっている場合は、クリックをしてチェックを外してください。

4：CD をパソコンのドライブに入れる

パソコンの設定により CD が自動再生される場合は停止してください

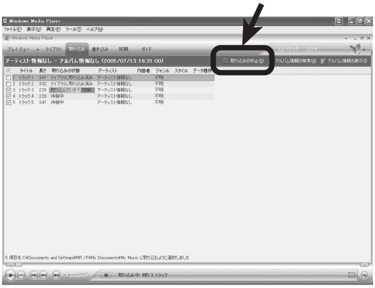
5：取り込む曲を選ぶ



タスクバーの［取り込み]（※バージョン９では［CD から録音]）をクリックして CD の収録曲リストを表示します。

パソコンに取り込みたい曲のチェックボックスをオンにします。

5：取り込む



[音楽の取り込み]（※バージョン９では［音楽の録音]）をクリックすると、取り込みが始まります。

リストに[取り込み済み]（※バージョン ９ では「ライブラリに録音済み」）と表示されたら取り込み完了です。

ワンポイント

- Windows Media Player で初めて録音するときは「録音した音楽にコピー防止を追加する / しない」選択など、いくつかのオプションが表示されます。
- 取り込んだしたオーディオファイルは、初期設定では［マイドキュメント］の［マイミュージック（My Music）］フォルダにアーティストまたはグループ名のサブフォルダが自動作成され、その中に保存されます。これらはタスクバーの［メディアライブラリ］をクリックすると表示されます。音楽ファイルの保存先フォルダは、[ツール］メニューの［オプション］で変更できます（インターネットに接続されていない場合は「不明なアーティスト」、「不明なアルバム」などになります）。

用語

- Windows Media Player とは？（P.107）

PC活用術　パソコンから本体にファイルを転送しよう



X-Nineは、20GBの大容量HDD（ハードディスクドライブ）を内蔵しており、パソコンに保存されているファイルをWindowsのエクスプローラを使って本体に転送することができます。

例えば…

ビデオファイル（AVI(DivX,Xvid)/MPEG1/MPEG2）

市販の映像ソフトなどを使って、ご自分で編集などをしてパソコンに保存しているビデオファイル（AVI(DivX,Xvid）など）を転送すれば、X-Nineでビデオの再生を楽しめます。

オーディオファイル（WMA/MP3形式）

Windows Media Playerなどを使ってパソコンに取り込んだオーディオファイルを転送すれば、X-Nineで音楽の再生を楽しめます。

※ Windows Media DRMが有効になったWMAファイル（インターネット上の有料配信サイトから購入したWMAファイル等）は再生出来ません。

画像ファイル(JPEG/BMP形式)

デジタルカメラなどで撮影した画像ファイルを転送すれば、X-Nineで画像を楽しめます。

そのほかのファイル

テキストファイルなどを転送すれば、本体を手軽に持ち運び可能なモバイルハードディスクとして活用することができます。

ここでは、Windowsのエクスプローラを使ってパソコンから本体HDDにファイルを転送する方法を簡単に説明します。

注意

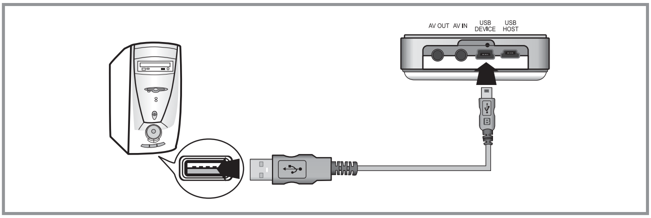
- Windowsのエクスプローラを使ったファイルの転送方法の詳細については、ご利用されているパソコン、OSの取扱説明書をご覧ください。不明点は、これらの製造元にお問い合わせください。
- 本製品で再生できないAVIファイルは、付属ソフトウェア「トランスコーダー」で、本製品対応のAVIファイル（DivX,Xvid）に変換できます。(P.152)。
- ビデオファイル、オーディオファイル、画像ファイルをX-Nineで再生または表示して楽しむ場合、各ファイルはそれぞれ特定の場所に転送（保存）する必要があります。転送先は手順4で説明しますので、間違いのないようご注意ください。

- Windows のエクスプローラでオーディオファイルを本体内蔵 HDD に転送すると、以下の場合は本体でオーディオファイルを再生できません。
  1：ダウンロード購入した DRM 情報が有効なオーディオファイルの場合（P. 107）
  2：CD からパソコンに録音したときに著作権保護機能が働いたとき（P. 107）
  著作権保護機能については、「DRM（デジタル著作権管理機能）」（P. 107）をご覧ください。
- 音楽 CD を入れたパソコンの CD/DVD ドライブからファイルを本体内蔵 HDD に直接コピーしても、本体では再生できません。必ず一度 Windows Media Player を使って音楽 CD をパソコンに取り込んでから、本体内蔵 HDD にオーディオファイルを転送してください。Windows Media Player を使って音楽 CD をパソコンに取り込む方法は、「音楽 CD をパソコンに取り込もう」（P. 94）をご覧ください。

1：本体の電源を入れてパソコンに USB 接続する

本体の電源を入れ（P.35）、付属 USB ケーブル（P.11）を使って、パソコンと本体の USB デバイスジャックを接続します。

正常に接続されると本体のディスプレイに USB 接続マーク が表示されます（P.28）。



注意

- パソコンとの接続のしかたについては、「パソコンとの接続のしかた」（P. 27）をご覧ください。

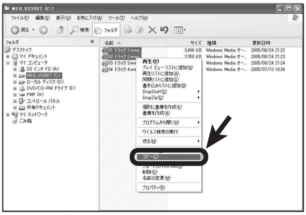
2：Windows のエクスプローラを起動する



マウスをWindows画面の左下にある[スタート]の位置に合わせ、右クリックをします。

メニューが表示されるので、[エクスプローラ]を選ぶと、ファイル操作が行えるエクスプローラが起動します。

3：X-Nine に転送したいファイルをコピー（複写）する



エクスプローラウィンドウ左側の［フォルダ］エリアから、X-Nine に転送したいファイルが保存されているパソコンの HDD を選びます。

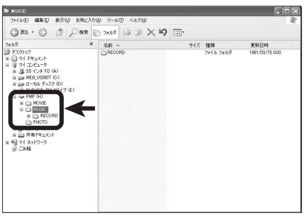
エクスプローラウィンドウ右側エリアに、選んだ HDD に保存されているファイル / フォルダー覧が表示されるので、マウスを使って X-Nine に転送したいファイル / フォルダを選びます。

ファイル/フォルダを選んだ状態で右クリックしてメニューを表示させ、[コピー] を選ぶと、パソコンのメモリに一時的にコピーされます。

ワンポイント

● ファイルを選んでマウスを１回クリックすると、選んだファイル/フォルダが反転表示されます。複数のファイルを一度に選択したい場合は、[Ctrl] キーを押しながらコピーしたいファイルを続けてクリックしていきます。

4：ファイルの転送先（保存先）を選択する



エクスプローラウィンドウ左側の [フォルダ] エリアの [マイコンピュータ] で本体 [PMP] を選びます（P.28）。

すると、本体内蔵HDDに保存されているファイル / フォルダー覧が表示されるので、手順３でコピーしたファイル / フォルダの転送先を選択します。

転送するファイルを本体で再生したり表示させて楽しむ場合は、以下のフォルダを転送先に選びます。

●ビデオファイルの場合
[MOVIE] フォルダを選びます。

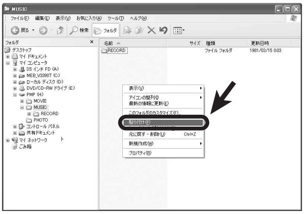
●オーディオファイルの場合
[MUSIC] フォルダを選びます。

●画像ファイルの場合
[PHOTO] フォルダを選びます。

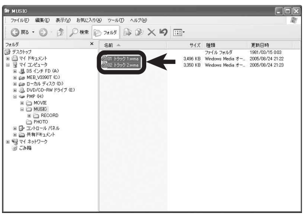
注意

- 転送先を間違えると、本体でビデオ / オーディオ / 画像ファイルを再生したり画面表示することができませんのでご注意ください。
- パソコンのエクスプローラを使って、本体内蔵 HDD 内に自由にフォルダを作ることができます。

5：コピーしたファイルを貼り付ける

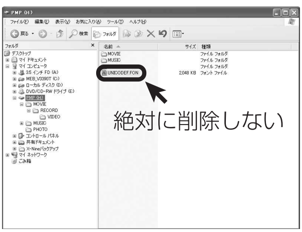


ファイルの転送先を選択したら、エクスプローラ右側のエリア内で右クリックしてメニューを表示させ、[貼り付け] を選ぶと、手順３でコピーしたファイルが手順４で指定したフォルダに貼り付け（ペースト）られます。



貼り付けたファイルがエクスプローラ上で表示されたらファイルの転送の完了です。

注意



本体内蔵 HDD（ハードディスクドライブ）のルート（最上位階層）に保存されている [UNICODEF.FON] ファイルは、絶対に削除しないでください。

削除してしまうと、本体ディスプレイでの表示に不具合が発生します。

万が一、誤って削除してしまった場合の対処方法については、「本体内蔵 HDD のフォーマット」（P.154）の手順 5 以降をご覧ください。

準備
基本操作編
すぐに使う
使いこなし方
困った時は
付録
索引

注意

- 一度削除したファイル / フォルダは元に戻せないので充分に注意して操作してください。貴重なファイルなどは、バックアップを取ることをお薦めいたします。バックアップについては「ファイルをパソコンにバックアップしよう」（P.102）をご覧ください。
- 本体に存在するファイルと同じ名前のファイルを転送すると、既存ファイルは上書きされます。
- 本体のパソコンへの接続および取り外しの詳細な手順、注意事項については「パソコンとの接続のしかた」（P.27）と「パソコンからの取り外しかた」（P.30）をご覧ください。
- 転送中は、本体をパソコンから取り外さないでください。

ワンポイント

- マウスを使ってファイルをドラッグ＆ドロップしても、ファイルを転送することができます。詳細については、ご利用されているパソコン、OS の取扱説明書をご覧ください。不明点は、これらの製造元にお問い合わせください。

ヒント

- 同様の手法で、本体内のファイルをパソコン内に転送（複製保存）すると、ファイルのバックアップが行えます（P.102）。

準備
基本操作編
すぐに使う
使いこなし方
困った時は
付録
索引

PC活用術 ファイルをパソコンにバックアップしよう



X-Nine でビデオ録画したり、ボイス / オーディオ録音して本体内蔵 HDD（ハードディスクドライブ）に保存されたファイルは、USB 接続したパソコンにバックアップ（複製保存）することができます。

ファイルをバックアップしておくことで、本製品の故障などの万が一の場合でも、貴重なファイルの損失を防ぐことができます。また、本体内蔵 HDD の空き容量が少なくなった場合に、ファイルをバックアップして本体内蔵 HDD から削除することで、本体内蔵 HDD 容量を有効に活用することができます。

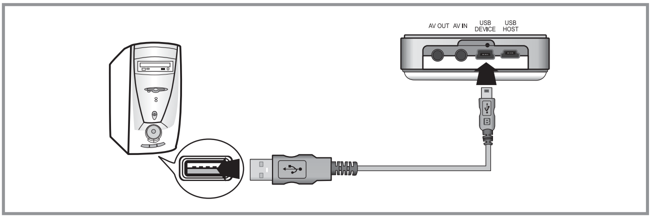
ここでは、Windows のエクスプローラを使って本体内蔵 HDD からパソコンにファイルをバックアップする方法を簡単に説明します。

注意

●Windows のエクスプローラを使ったファイルの転送方法の詳細については、ご利用されているパソコン、OS の取扱説明書をご覧ください。不明点は、これらの製造元にお問い合わせください。

1：本体の電源を入れてパソコンに USB 接続する（P.27）

本体の電源を入れ（P.35）、付属 USB ケーブルを使って、パソコンと本体の USB デバイスジャックを接続します。正常に接続されると本体のディスプレイに USB 接続マークが表示されます（P.28）。



注意

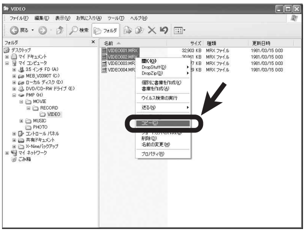
● パソコンとの接続のしかたについては、「パソコンとの接続のしかた」（P. 27）をご覧ください。

2：Windows のエクスプローラを起動する



マウスをWindows画面の左下にある[スタート]の位置に合わせ、右クリックをします。メニューが表示されるので、[エクスプローラ]を選ぶと、ファイル操作が行えるエクスプローラが起動します。

3：バックアップしたいファイルを［コピー］する



エクスプローラウィンドウ左側の[フォルダ]エリアから、本体[PMP]を選びます。(P.28)

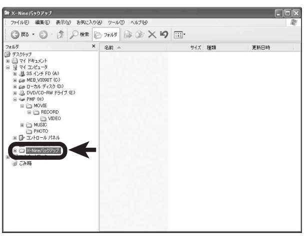
エクスプローラウィンドウ右側エリアに、本体内蔵HDDに保存されているファイル/フォルダ一覧が表示されるので、マウスを使ってパソコンにバックアップしたいファイル / フォルダを選びます。

ファイル / フォルダを選んだ状態で右クリックしてメニューを表示させ、［コピー］を選ぶと、パソコンのメモリに一時的にコピーされます。

ワンポイント

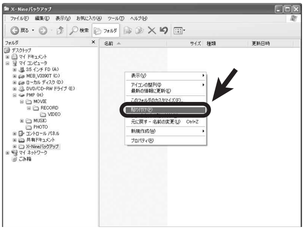
- ファイルを選んでマウスを１回クリックすると、選んだファイル/フォルダが反転表示されます。複数のファイルを一度に選択したい場合は、[Ctrl] キーを押しながらコピーしたいファイルを続けてクリックしていきます。

4：バックアップ先（複製保存先）を選択する

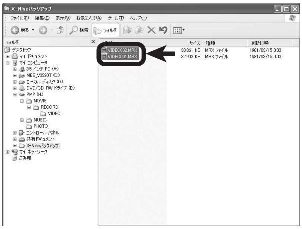


エクスプローラウィンドウ左側の[フォルダ]の［マイコンピュータ］から、コピーしたファイル / フォルダのバックアップ先（複製保存先）を選びます。

5：コピーしたファイルを貼り付ける

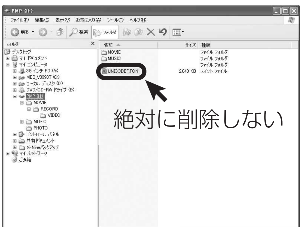


ファイルのバックアップ先を選択したら、エクスプローラウィンドウ右側のエリア内で右クリックしてメニューを表示させ、[貼り付け] を選ぶと、手順 3 でコピーしたファイルが手順 4 で指定したフォルダに貼り付け（ペースト）られます。



貼り付けたファイルがエクスプローラ上で表示されたらバックアップの完了です。

注意



本体内蔵 HDD（ハードディスクドライブ）のルート（最上位階層）に保存されている [UNICODEF.FON] ファイルは、絶対に削除しないでください。

削除してしまうと、本体ディスプレイでの表示に不具合が発生します。

万が一、誤って削除してしまった場合の対処方法については、「本体内蔵 HDD のフォーマット」（P.154）の手順 5 以降をご覧ください。

注意

- 本体内蔵 HDD（ハードディスクドライブ）のルート（最上位階層）に保存されている [UNICODEF.FON] ファイルは、絶対に削除しないでください。削除してしまうと、文字化けが発生するなどの不具合が起こります。万が一、誤って削除してしまった場合の対処方法については、「本体内蔵 HDD のフォーマット」(P.154) の手順 5 以降をご覧ください。
- 本体に存在するファイルと同じ名前のファイルを転送すると、既存ファイルは上書きされます。
- 本体のパソコンへの接続および取り外しの詳細な手順、注意事項については「パソコンとの接続のしかた」(P.27) と「パソコンからの取り外しかた」(P.30) をご覧ください。
- 転送中は、本体をパソコンから取り外さないでください。故障の原因となります。

ヒント

- 同様の手法で、パソコン内のファイルを本体内蔵 HDD に転送（コピーと貼り付け）することができます (P.97)。

準備
基本操作編
すぐに使う
使いこなし方
困った時は
付録
索引

準備
基本操作編
すぐに使う
使いこなし方
困った時は
付録
索引

用語集

ファイル形式

ビデオファイル、オーディオファイル、画像ファイルには、データの形式によっていくつかの種類があり、ファイル形式として分類されます。ここでは、本製品で再生できるファイル形式について説明します。

ビデオファイル

- AVI（DivX，Xvid）

  Windows パソコンで動画を再生するためのフォーマットです。本製品では、DivX，Xvid のふたつの圧縮方式（コーデック）で作られた AVI ファイルが再生できます。

- MPEG1/MPEG2

  動画圧縮フォーマットのひとつです。MPEG2 は、DVD ビデオやデジタル衛星放送にも利用されている高画質なフォーマットです。

オーディオファイル

- WMA（Windows Media Audio）

  Microsoft 社が開発した音声圧縮フォーマットです。Windows に標準装備されている Windows Media Player で音楽 CD を WMA ファイルにできます。

- MP3（MPEG Audio Layer-3）

  オーディオ CD 並みの音質で、データ量を約 10 分の 1 に圧縮できる音声圧縮フォーマットです。

画像ファイル

- JPEG

  高画質のまま静止画像のデータサイズを 1/10 ～ 1/100 にできる画像圧縮フォーマットです。風景や写真データなどに効果的な形式です。

- BMP

  Windows 標準のペイント系グラフィックデータ形式です。

ID3 タグ

オーディオファイルに、曲名 / アーティスト名 / アルバム名 / ジャンルなどの情報を加えて、再生時にプレーヤ上に表示するための規格です。本製品では、WMA タグの表示には対応しておりません。また、ID3 タグの表示は、ファイル情報での表示となります。（P.139）。

DRM（デジタル著作権管理機能）

デジタルデータの著作権を保護する技術で、音楽配信サイトなどからダウンロード購入した WMA などのオーディオファイルは、DRM 情報が含まれています。

Windows Media Player

Windows に標準装備されているマルチメディアコンテンツ再生ソフトウェアで、音声や動画の再生が楽しめます。Microsoft 社が無償で配布しており、最新はバージョン 10 です（2005 年 9 月末現在 / ただしバージョン 10 は Windows XP のみで使用可能）。

USB マスストレージクラス

USB ポートにハードディスクなどの外部記憶装置を接続するための規格です。この規格に対応した機器は、パソコンとの間でデータ（ファイル）のアップロード / ダウンロードが可能となるだけでなく、エクスプローラなどのアプリケーションを利用してデータを読み出せます。また、USB マスストレージクラス対応機器を Windows Me/2000/XP ではじめて使う場合に、パソコンに USB 接続するだけで自動的に認識され、ドライバーソフトウェアがインストールされます。

さらに進んだ X-Nine の楽しみかた

この章では、応用編としてビデオや曲の再生、録画 / 録音に関する便利な機能やさまざまな設定について説明しています。必要に応じてお読みください。

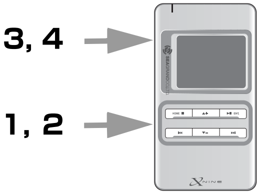
ワンポイント

- **各ページの先頭に、機能 / 設定がご利用いただけるモードの種類を記載しています。該当のモードに切り替えた状態から各手順をご確認ください。**
- モードの切り替えかたについては「モードを選ぼう」（P. 37）をご覧ください。

一定区間を繰り返し再生しよう（A-B リピート再生）

ミュージックモードでご利用いただけます（P.37）

曲の中でリピートの開始点と終点を設定すると、その区間を繰り返し再生できます。



1 ミュージックモードにする（P.37）

2 曲を再生する

オーディオファイルを選んで［▶II ENT.］を押します。

3 開始点（A）を設定する

再生しながら、リピート再生を開始したいポイントで［A▶B］を押します。ディスプレイの［A-B リピート表示］に［A］のマークが表示されます。

4 終点（B）を設定する

リピート再生を終了したいポイントでもう一度［A▶B］を押します。ディスプレイの［A-B リピート表示］に［A-B］のマークが表示されると A-B 区間が設定され、A-B リピート再生が始まります。

A-B リピート再生中に［A▶B］を押すと、A/B ポイントがキャンセルされ、通常再生に戻ります。

注意

- 1秒程度の短い時間間隔でA/Bポイントの設定はできません。A/Bポイントの間隔は2秒以上の時間で設定してください。

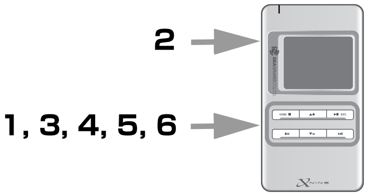
ワンポイント

- 2 曲以上をまたがった A/B ポイントの設定はできません。
- A/B ポイントの設定は、曲を停止すると失われます。
- 終点（B）を設定せずに曲が終わると、A–B リピート設定がキャンセルされます。

繰り返し再生しよう（リピート再生）

ビデオモード ミュージックモードでご利用いただけます（P.37）

ビデオモードでは１通り、ミュージックモードでは３通りのリピート方式を選択でき、繰り返してビデオや曲を再生することができます。



ビデオモードの場合

1 ビデオモードにする（P.37）

2 MENU を短く押して設定メニューを表示する

ビデオモードでビデオファイル一覧を表示している状態、またはビデオファイルの再生中に MENU を短く押して、設定メニューを表示します。

3 リピートをオンにする

メニューで ▲+ または ▼− を押して［リピート設定］を選びます。

▶II ENT. を押すと、ディスプレイに［リピートする］と表示され、選択したビデオファイルをリピート（繰り返し）再生することができます。

4 リピートをオフにする

リピートするの状態で、手順２の方法でメニューを表示し、［リピート設定］を選びます。

▶II ENT. を押すと、ディスプレイに［リピートしない］と表示され、通常再生に戻ります。

注意

- MENU を数秒間押したままにすると、電源がオフになります（P. 36）。各種メニューを表示する場合は、MENU は短く押してください。

準備
基本操作編
すぐに使う
使いこなし方
困った時は
付録
索引

ワンポイント

- リピートの設定は、すべてのビデオファイルに対して有効となります。
- 電源を切ると、リピートの設定はオフの状態に戻ります。

ミュージックモードの場合

1 ミュージックモードにする（P.37）

2 MENU を短く押して設定メニューを表示する

ミュージックモードでオーディオファイル一覧を表示している状態、またはオーディオファイルの再生中に MENU を短く押して、設定メニューを表示します。

3 ［リピート設定］を選択する

メニューで ▲+ または ▼− を押して［リピート設定］を選びます。

4 リピートの種類を選択する

▶IIENT. を押してサブメニューを表示し、▲+ または ▼− を押してリピートの種類を選択します。

●リピートしない

リピート再生をせずに通常再生します。

●全曲リピート

再生中のフォルダ内のすべてのファイルをリピート再生します。

●1曲リピート

現在選択しているファイルのみをリピート再生します。

5 選択を確定する

▶IIENT. を押すとリピートの選択が確定します。ミュージック再生画面の［リピート方式表示］にリピートの種類（ / ）が表示され（P.22）、選択したリピート方式で再生することができます。

6 リピートをオフにする

リピート設定が［全曲リピート］または［1曲リピート］の状態で、手順 2 の方法でメニューを表示し、［リピートしない］を選びます。▶IIENT. を押すと、通常再生に戻ります。

準備
基本操作編
すぐに使う
使いこなし方
困った時は
付録
索引

注意

- フォルダ内のファイルに対して［すべて］を選ぶと、そのサブフォルダ内のファイルを含んだすべてのファイルがリピート再生されます。
- 各種メニューで ▲＋ または ▼− を押して設定項目を選んでも、▶IIENT. を押さずに HOME■ や MENU を押してメニューを終了させると、選択した設定項目がキャンセルされてしまいます。必ず設定項目を選んだ後は、▶IIENT. を押して設定を確定してからメニューを終了してください。
- MENU を数秒間押したままにすると、電源がオフになります(P.36)。各種メニューを表示する場合は、MENU は短く押してください。
- オーディオファイル一覧で［Playlist（プレイリスト）］を選択している状態では、MENU を短く押してもメニューは表示されません。

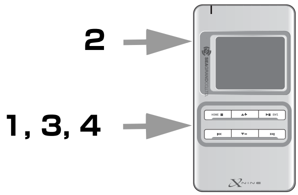
ワンポイント

- リピートの設定は、モードを切り替えたり電源を切っても保存されます。
- 一定区間を繰り返し再生する A-B リピート再生も同時に設定できます（P.110）。

ランダムな曲順で再生しよう（シャッフル再生）

ミュージックモードでご利用いただけます（P.37）

通常の設定では本体内蔵 HDD（ハードディスクドライブ）に保存された順番の曲順で曲（オーディオファイル）を再生します。ここで、シャッフルをオンに設定すると、ランダムな曲順で再生が楽しめます。



1 ミュージックモードにする（P.37）

2 [MENU]を短く押して設定メニューを表示する

ミュージックモードでオーディオファイル一覧を表示している状態、またはオーディオファイルの再生中に[MENU]を短く押して設定メニューを表示します。

メニューで[▲+]または[▼−]を押して［シャッフル設定］を選びます。

3 シャッフルをオンにする

[▶IIENT.]を押すとサブメニューが表示されます。[▲+]または[▼−]を押して［シャッフル再生をする］を選び、[▶IIENT.]を押すとシャッフルがオンに設定されます。
ディスプレイの［シャッフルオン表示］（P.23）に［Shuffle］と表示され、再生中のフォルダ内のファイルがランダムな曲順で再生することができます。

4 シャッフルをオフにする

シャッフルオンの状態で、手順 1 の方法でメニューを表示し、手順 3 のサブメニューで［シャッフル再生をしない］を選びます。

[▶IIENT.]を押すとシャッフルがオフに設定され、通常再生に戻ります。

注意

- フォルダ内のファイルに対して［すべて］を選ぶと、そのサブフォルダ内のファイルを含んだすべてのファイルがリピート再生されます。
- 各種メニューで［▲＋］または［▼−］を押して設定項目を選んでも、［▶IIENT.］を押さずに［HOME■］や［MENU］を押してメニューを終了させると、選択した設定項目がキャンセルされてしまいます。必ず設定項目を選んだ後は、［▶IIENT.］を押して設定を確定してからメニューを終了してください。
- ［MENU］を数秒間押したままにすると、電源がオフになります（P. 36）。各種メニューを表示する場合は、［MENU］は短く押してください。
- オーディオファイル一覧で［Playlist（プレイリスト）］を選択している状態では、［MENU］を短く押してもメニューは表示されません。

ワンポイント

- 通常の設定では、ファイル / フォルダは本体内蔵 HDD に保存された順番に表示され、この順番で再生等が行われます。ファイル名によるファイルの並べ替え機能を使ってファイルの表示順を変えたときは、再生等の順番も並べ替えられます（P. 136）。
- リピートの設定は、すべてのビデオファイルに対して有効となります。
- リピートの設定は、モードを切り替えたり電源を切っても保存されます、

ヒント

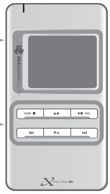
- ファイル名で並び替えるには（P. 136）

準備
基本操作編
すぐに使う
使いこなし方
困った時は
付録
索引

好みの音質に調整しよう（イコライザ機能）

ミュージックモードでご利用いただけます（P.37）

多彩な音楽ジャンルに最適化された９種類のプリセットイコライザが内蔵されており、イコライザの種類を選択して再生するだけで、好みの音質で臨場感のあるサウンドが音楽を楽しめます。



1 ミュージックモードにする（P.37）

2 MENU を短く押して設定メニューを表示する

ミュージックモードでオーディオファイル一覧を表示している状態、またはオーディオファイルの再生中に MENU を短く押して、設定メニューを表示します。

3 音質（イコライザ）の一覧を表示する

メニューで ▲+ または ▼− を押して［イコライザ設定］を選び、▶II ENT. を押すと、プリセットイコライザ一覧が表示されます。▲+ または ▼− を押してイコライザのプリセットを選びます。

●ノーマル
通常の音質です。

●ジャズ
ジャズに適した音質です。

●ロック
ロックに適した音質です。

●クラシック
クラシックに適した音質です。

●ベース
重低音が強調された音質です。

●ポップ

ポップスに適した音質です。

●ソフトロック

低域を強調し高域をまろやかにしたソフトロックに適した音質です。

●ダンス

中低域が強調されたダンスミュージックに適した音質です。

●ライブ

高域が強調されたライブ感のある音質です。

4 音質（イコライザ）を決定する

[▶IIENT.]を押すと音質が確定し、ディスプレイの［イコライザ表示］にイコライザの種類が表示されます（P.23）。選択した音質で再生することができます。

注意

- 選択した音質（イコライザ）は、ミュージックモードのすべてのファイル対して有効となります。
- 各種メニューで[▲+]または[▼−]を押して設定項目を選んでも、[▶IIENT.]を押さずに[HOME■]や[MENU]を押してメニューを終了させると、選択した設定項目がキャンセルされてしまいます。必ず設定項目を選んだ後は、[▶IIENT.]を押して設定を確定してからメニューを終了してください。
- [MENU]を数秒間押したままにすると、電源がオフになります(P. 36)。各種メニューを表示する場合は、[MENU]は短く押してください。
- オーディオファイル一覧で［Playlist（プレイリスト）］を選択している状態では、[MENU]を短く押してもメニューは表示されません。

ワンポイント

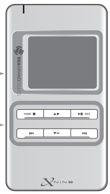
- 通常の音質で再生するときはノーマルを選んでください。
- 設定した音質によって音量が大きくなったように感じる場合があります。

お気に入りの曲をプレイリストに追加しよう

ミュージックモードでご利用いただけます（P.37）

［MUSIC］フォルダ内に保存された曲（オーディオファイル）の中から、お気に入りの曲を［Playlist（プレイリスト）］］に追加することができます。

プレイリストを選択して再生すると、追加した曲順でお気に入りの曲だけを再生することができます。オーディオファイルをコピーしたり移動や削除することなく、聴きたい曲だけをリスト化て再生できる便利な機能です。



1 ミュージックモードにする（P.37）

2 オーディオファイルを選ぶ

オーディオファイル一覧で［▲＋］または［▼－］を押して、プレイリストに登録したいオーディオファイルを選びます。

3 プレイリストに追加する

プレイリストへの追加のしかたは 3 とおりあります。

オーディオファイル一覧から追加する 1

オーディオファイルを選択した状態で［●REC］を押すと、ディスプレイに［プレイリストに追加］と表示され、プレイリストに追加されます。

オーディオファイル一覧から追加する 2

オーディオファイルを選択した状態で［MENU］を短く押してメニューを表示し、メニューで［▲＋］または［▼－］を押し［プレイリストに追加］を選び［▶II ENT.］を押すと、プレイリストに追加されます。

オーディオファイルを再生中に追加する

オーディオファイルの再生中に［MENU］を短く押してメニューを表示し、メニューで［▲＋］または［▼－］を押し［プレイリストに追加］を選び［▶II ENT.］を押すと、プレイリストに追加されます。

4 プレイリストを再生する

ファイル一覧で[▲+]または[▼−]を押して［Playlist（プレイリスト）］を選択し、[▶II ENT.]を押すとプレイリストに追加した曲が再生されます。曲順は、プレイリストに追加した順となります。

5 プレイリストからオーディオファイルを削除する

プレイリストに追加したオーディオファイルは、後から削除することができます。プレイリストからの削除のしかたは2とおりあります。

ファイルを選んでひとつずつ削除する

オーディオファイル一覧で[▲+]または[▼−]を押して［Playlist（プレイリスト）］を選びます。[▶II ENT.]を押してプレイリスト一覧を表示し、プレイリストから削除したいオーディオファイルを選びます。

[MENU]を短く押してメニューを表示し、［プレイリストから削除］を選びます。[▶II ENT.]を押すと、プレイリストから削除されます。

すべてのファイルを一括削除する

オーディオファイル一覧で[▲+]または[▼−]を押して［Playlist（プレイリスト）］を選びます。[▶II ENT.]を押してプレイリスト一覧を表示し、[MENU]を短く押してメニューを表示し、［プレイリストをクリア］を選びます。[▶II ENT.]を押すと、プレイリストに追加したすべてのファイルが削除（クリア）されます。

注意

- [MENU]を数秒間押したままにすると、電源がオフになります（P.36）。各種メニューを表示する場合は、[MENU]は短く押してください。
- フォルダはプレイリストに追加できません。
- オーディオファイル一覧で［Playlist（プレイリスト）］を選択している状態では、[MENU]を短く押してもメニューは表示されません。

ワンポイント

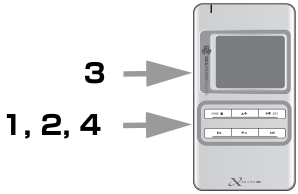
- オーディオファイルをプレイリストに登録したり、プレイリストから削除/クリアしても、元のオーディオファイルが移動したり削除されることはありません。オーディオファイルそのものは、そのまま元のフォルダに保存されます。
- プレイリストはひとつのみです。複数のプレイリストを作成することはできません。
- すでにプレイリストに追加されているオーディオファイルを再度プレイリストに追加しようとすると、ディスプレイに［既にプレイリストに登録済み］と表示されます。
- プレイリストにファイルが登録されていない場合にプレイリスト一覧を表示しようとすると、ディスプレイに［プレイリストは空です］と表示されます。

準備
基本操作編
すぐに使う
使いこなし方
困った時は
付録
索引

曲に再開マークを付けよう（再開マーク機能）

ミュージックモードでご利用いただけます（P.37）

［MUSIC］フォルダ内に保存された曲（オーディオファイル）に再開マークをつけることができます。アルバムなど複数の曲の途中で再生をやめるときに再開マークをつけておくと、次回の再生時にその曲をすぐに見つけ出せ、さらに再開マークをつけたポイントから再生することができます。あとでもう1回聴きたい曲の目印としても利用することができます。



1 ミュージックモードにする（P.37）

2 曲を再生する

オーディオファイルを選んで［▶II ENT.］を押します。

3 ［●REC］を押して再開マークをつける

オーディオファイルの再生中に［●REC］を押します。ディスプレイに［再開マークを記録］と表示され、再生中のオーディオファイルに対して［●REC］を押したポイントに再開マークが付けられます。

［HOME ■］を押して再生を停止し、オーディオファイル一覧を表示します。再開マークを付けたオーディオファイルには赤色の［+］マークが表示されます。

4 再開マークを消す

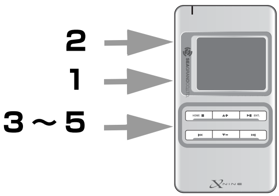
再開マークを設定したオーディオファイルを再び再生すると、再開マークを記録したポイントから再生が始まります。一度再生すると、再開マーク（[+]）が自動的に消えます。

録画や録音の品質を設定しよう（画質 / 音質設定）

録音モードでご利用いただけます（P.72，77，81）

本体でビデオを録画するときの画質や、ボイス / オーディオ録音するときの音質を設定します。これらは、録画、ボイス録音、オーディオ録音で独立して設定できます。

画質はビットレート（1 秒間に転送できるデジタル信号の量）、音質は、ビットレートとサンプリングレート（音の周波数帯域の広さ）によって決まります。一般的にこれらの数値が高いほど高画質・高音質となりますが、データの量（ファイルサイズ）は大きくなります。本製品では、あらかじめ用意された［高品質］、［標準］、［長時間］の３タイプから選択できます。



1 録音モードにする（P.72，77，81）

2 録画 / 録音設定メニューを表示する

録画モード画面で[MENU]を短く押して、メニューを表示します。録画 / 録音設定メニューには、以下の３つの設定が用意されています。

ボイス録音設定

ボイス録音（VOICE Recording）時の音質を設定します（P.77）。

オーディオ録音設定

オーディオ録音（AUDIO Recording）時の音質を設定します（P.81）。

ビデオ録画設定

ビデオ録画（VIDEO Recording）時の画質を設定します（P.72）。

[▲+]または[▼−]を押して、設定したい項目を選びます。

3 サブメニューを表示する

[▶IIENT.]を押してサブメニューを表示します。次にビデオ画面設定の場合は［画質］、ボイス / オーディオ録音設定の場合は［音質］を選び[▶IIENT.]を押します。

準備
基本操作編
すぐに使う
使いこなし方
困った時は
付録
索引

4 画質 / 音質を選択する

画質 / 音質は、以下の 3 つが用意されています。

高品質

もっとも高い品質で録画 / 録音を行います。データ量（ファイルサイズ）が大きくなりますので、録画 / 録音前に本体内蔵 HDD（ハードディスクドライブ）の空き容量（録画 / 録音可能時間）をご確認ください（P.144）。

- 音質（VOICE）：サンプリング周波数 44.1kHz/ ビットレート 128kbps
- 音質（AUDIO）：サンプリング周波数 44.1kHz/ ビットレート 256kbps
- 画質（VIDEO）：ビットレート 1,928kbps

標準

標準的な品質で録画 / 録音を行います。

- 音質（VOICE）：サンプリング周波数 32kHz/ ビットレート 96kbps
- 音質（AUDIO）：サンプリング周波数 44.1kHz/ ビットレート 128kbps
- 画質（VIDEO）：ビットレート 1,228kbps

長時間

データ量（ファイルサイズ）を小さくして、少ない本体内蔵 HDD 空き容量で長時間の録画 / 録音が可能です。

- 音質（VOICE）：サンプリング周波数 32kHz/ ビットレート 64kbps
- 音質（AUDIO）：サンプリング周波数 32kHz/ ビットレート 64kbps
- 画質（VIDEO）：ビットレート 830kbps

[▲+]または[▼−]を押して、目的に応じて［高品質］、［標準］、［長時間］のいずれかを選びます。

5 画質 / 音質を確定する

[▶II ENT.]を押して選んだ画質/音質を確定します。サブメニューから元のメニューに戻るので、さらに[HOME■]を押して録音モード画面に戻ります。

注意

- 各種メニューで[▲+]または[▼−]を押して設定項目を選んでも、[▶II ENT.]を押さずに[HOME■]や[MENU]を押してメニューを終了させると、選択した設定項目がキャンセルされてしまいます。必ず設定項目を選んだ後は、[▶II ENT.]を押して設定を確定してからメニューを終了してください。
- [MENU]を数秒間押したままにすると、電源がオフになります (P. 36)。各種メニューを表示する場合は、[MENU]は短く押してください。

ワンポイント

- 画質 / 音質の設定は、録画 / 録音モード以外にも、メイン画面で MENU を短く押してメニューを表示し、［録画・録音設定］を選んで設定できます。

ヒント

- 録画や録音の詳細については、以下をご覧ください。
  「AV 機器と接続してビデオ録画しよう （ビデオ録画機能）」（P. 72）
  「内蔵マイクで録音しよう（ボイス録音機能）」（P. 77）
  「オーディオ機器と接続して録音しよう （オーディオ録音機能）」（P. 81）

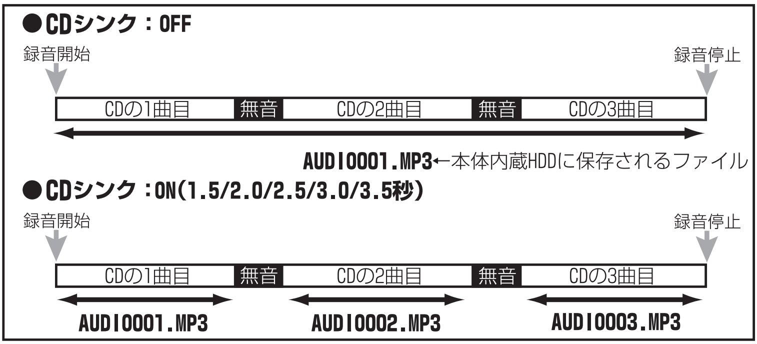
曲ごとにファイルを分割して録音しよう（CD シンク機能）

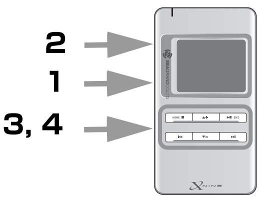
録音モードでご利用いただけます（P.81）

CD シンクは、オーディオ録音時に無音部分でオーディオファイル（曲）を分割保存する機能です。通常の録音方法では、録音開始から録音停止までがひとつのオーディオファイル（1 曲）として本体内蔵 HDD（ハードディスクドライブ）に保存されますが、CD シンク機能を使って CD などのように曲間に無音部分がある音源を録音すると、一度の録音作業で自動的に曲ごとにオーディオファイルを分割することができます。オーディオファイルを分割する基準となる無音部分の時間は、1 ～ 4 秒の範囲で設定できます。

CD シンク機能は、本体とオーディオ機器をライン接続したオーディオ録音時（P.81）にご利用いただけます。

例：CD をライン録音した場合





準備
基本操作編
すぐに使う
使いこなし方
困った時は
付録
索引

1 録音モードにする（P.81）

2 CD シンク設定メニューを表示する

録画モード画面で[MENU]を短く押して、メニューを表示します。

[▲+]または[▼−]を押して［オーディオ録音設定］を選びます。[▶II ENT.]を押してサブメニューを表示し、［CD Sync.］を選び[▶II ENT.]を押します。

3 CD シンク時間を設定する

オーディオファイルを分割する基準となる無音時間を設定します。

なし

通常録音を行います（録音開始から録音停止までがひとつのオーディオファイルとして保存される）

1.5/2.0/2.5/3.0/3.5 秒

設定した時間分の無音状態を検知すると、自動的にオーディオファイルを分割します。

例えば、2.0 秒に設定した場合、入力信号が 2.0 秒以上無音状態となるとオーディオファイル（曲）を分割します。無音状態が 2.0 秒未満では分割されません。

[▲+]または[▼−]を押して、目的に応じて［なし］、［1.5 秒］、［2.0 秒］、［2.5 秒］、［3.0 秒］、［3.5 秒］のいずれかを選びます。

4 設定を確定する

[▶II ENT.]を押して選んだ CD シンク時間を確定します。サブメニューから元のメニューに戻るので、さらに[HOME■]を押して録音モード画面に戻ります。

注意

- オートシンク機能は、AV IN ジャックから入力されるオーディオ信号レベルを検知して自動的にオーディオファイルを分割して保存します。そのため、録音する曲の種類やレベルによって正しく動作しない場合があります。録り直しのきかない録音の場合、必ず事前に試し録音をしてください。
- 操作上の問題または本製品の不具合により、正常に録音されなかった場合の録音内容については保証は致しかねます。予めご了承ください。
- 録音時にイヤホンから聴こえる音量・音質は、再生時のものと異なります。事前に試し録音をして、再生時の音量・音質をご確認ください。
- 各種メニューで[▲+]または[▼−]を押して設定項目を選んでも、[▶II ENT.]を押さずに[HOME■]や[MENU]を押してメニューを終了させると、選択した設定項目がキャンセルされてしまいます。必ず設定項目を選んだ後は、[▶II ENT.]を押して設定を確定してからメニューを終了してください。

● MENU を数秒間押したままにすると、電源がオフになります（P. 36）。各種メニューを表示する場合は、MENU は短く押してください。

ワンポイント

● CD シンクの設定は、録画 / 録音モード以外にも、メイン画面で MENU を短く押してメニューを表示し、[録画・録音設定] ー [オーディオ録音設定] を選んで設定できます。

ヒント

● 録画や録音の詳細については、以下をご覧ください。
「AV 機器と接続してビデオ録画しよう （ビデオ録画機能）」（P. 72）
「内蔵マイクで録音しよう（ボイス録音機能）」（P. 77）
「オーディオ機器と接続して録音しよう （オーディオ録音機能）」（P. 81）

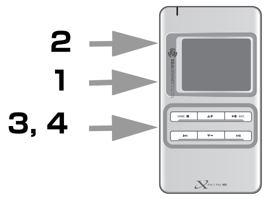
ファイル名をリセットして録画 / 録音しよう（ファイル名の上書き）

録音モードでご利用いただけます（P.72，77，81）

ビデオの録画やボイス / オーディオ録音で作られる録画 / 録音ファイル名をリセットして上書きします。

録画したビデオファイルは［VIDEO ＊＊＊ .MRX］、ボイス録音したオーディオファイルは［VOICE ＊＊＊ .MP3］、オーディオ録音したオーディオファイルは［AUDIO ＊＊＊ .MP3］と自動的に名前がつけられます。［＊＊＊］の部分に 001、002、003…と番号が割り振られます。

録画 / 録音ファイル名をリセットすると、再び番号が［001］から連番でつけられます。すでに 001 番（例えば、VIDEO001.MRX）のファイル名がある場合は、そのファイルを上書きして録音 / 録画ファイルが保存されます。



1 録音モードにする（P.72，77，81）

2 録画 / 録音設定メニューを表示する

録画モード画面で MENU を短く押して、メニューを表示します。

目的によって ▲+ または ▼− を押して［ボイス録音設定］、［オーディオ録音設定］、［ビデオ録画設定］のいずれかを選びます。

3 サブメニューを表示する

▶II ENT. を押してサブメニューを表示し、▲+ または ▼− を押して、

ボイス録音設定 / オーディオ録音設定を選んだ場合

［録音ファイル名をリセットし上書き］を選びます。

ビデオ録画設定を選んだ場合

［録画ファイル名をリセットし上書き］を選びます。

4 設定を確定する

[▶II ENT.]を押して選んだ設定を確定します。サブメニューから元のメニューに戻るので、さらに[HOME■]を押して録音モード画面に戻ります。

注意

- ［録画 / 録音ファイル名をリセットし上書き］の選択を確定すると、その後録画 / 録音したファイルは自動的に上書きされます。
- ファイルを上書きすると、元のファイルの内容は消去されますので、充分ご注意のうえ、［録画 / 録音ファイル名をリセットし上書き］をご利用ください。
- 各種メニューで[▲+]または[▼−]を押して設定項目を選んでも、[▶II ENT.]を押さずに[HOME■]や[MENU]を押してメニューを終了させると、選択した設定項目がキャンセルされてしまいます。必ず設定項目を選んだ後は、[▶II ENT.]を押して設定を確定してからメニューを終了してください。
- [MENU]を数秒間押したままにすると、電源がオフになります（P. 36）。各種メニューを表示する場合は、[MENU]は短く押してください。

ワンポイント

- ［録画 / 録音ファイル名をリセットし上書き］の設定は、録画 / 録音モード以外にも、メイン画面で[MENU]を短く押してメニューを表示し、［録画・録音設定］−［ボイス録音設定］または［オーディオ録音設定］または［ビデオ録画設定］を選んで設定できます。
- 手順 2 で表示されるメニューの中から［ファイル名をリセットし上書き］を選んで[▶II ENT.]を押すと、ビデオ録画、ボイス録音、オーディオ録音で一括してファイル名のリセットが実行されます。

ヒント

- 録音の詳細については、以下をご覧ください。
  「内蔵マイクで録音しよう（ボイス録音機能）」（P. 77）
  「オーディオ機器と接続して録音しよう （オーディオ録音機能）」（P. 81）
  「AV 機器と接続してビデオ録画しよう （ビデオ録画機能）」（P. 72）

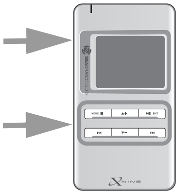
画像を連続表示しよう（スライドショー機能）

フォトモードでご利用いただけます（P.37）

デジタルカメラ写真などの画像ファイルを本体ディスプレイで表示する場合、ファイルをひとつずつ選んで表示する以外に、一定の時間間隔で連続してスライドショー表示することができます。スライドショーを利用することで、多数の画像ファイルを効率的に楽しむことができます。

2

1, 3, 4



1 フォトモードにする（P.37）

2 MENU を短く押して設定メニューを表示する

フォトモードで画像ファイル一覧を表示している状態、または画像ファイルの表示中に MENU を短く押して、フォトメニューを表示します。

3 スライドショーの表示間隔を設定する

フォトメニューで ▲+ または ▼− を押して［表示間隔設定］を［2 秒 /5 秒 /10 秒］の中から選びます。▶II ENT. を押すと、設定した時間間隔でスライドショーが開始します。

表示間隔を設定する必要がない場合は、フォトメニューで ▲+ または ▼− を押して［スライドショー開始］を選び ▶II ENT. を押しても、スライドショーを開始できます。

4 スライドショーを停止する

通常の画像表示（フォトビューアー）（P.56）に戻したいときは、スライドショーの実行中に HOME■ を押します。

注意

- MENU を数秒間押したままにすると、電源がオフになります（P. 36）。各種メニューを表示する場合は、MENU は短く押してください。

準備 / 基本操作編 / すぐに使う / 使いこなし方 / 困った時は / 付録 / 索引

準備
基本操作編
すぐに使う
使いこなし方
困った時は
付録
索引

ワンポイント

- 画像をテレビなどのAV機器で表示することもできます（AV出力機能）（P.60）。
- 画像ファイルを左右に回転させて表示することもできます（P.131）。
- 画像ファイルのデータ量（ファイルサイズ）が大きいと、ディスプレイに表示されるまで時間がかかることがあります。

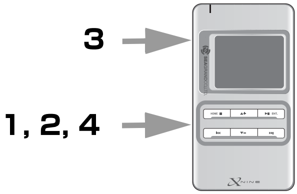
トラブル

- 保存したはずのファイルが見つからない（P.168）

画像を左右に回転して表示しよう

フォトモードでご利用いただけます（P.37）

デジタルカメラ写真などの画像ファイルを本体ディスプレイで表示する場合、画像を左右に回転させて表示することができます。



1 フォトモードにする（P.37）

2 画像ファイルを選び画像を表示する（P.56）

3 MENU を短く押して設定メニューを表示する

画像ファイルの表示中に MENU を短く押して、フォトメニューを表示します。

4 画像を左右に回転して表示する

フォトメニューで ▲+ または ▼− を押して［左に回転］または［右に回転］を選びます。▶II ENT. を押すと、画像を左右に 90 度回転させてディスプレイ表示します。

回転表示の設定は、表示中の画像ファイルにのみ有効です。別の画像ファイルを表示したり、画像表示を終了すると、通常表示に戻ります。

注意

- MENU を数秒間押したままにすると、電源がオフになります（P. 36）。各種メニューを表示する場合は、MENU は短く押してください。

ワンポイント

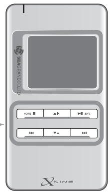
- 左右回転の設定は保存されません。
- 画像をテレビなどの AV 機器で表示することもできます（AV 出力機能）（P. 60）。
- 画像ファイルをスライドショー表示することもできます（P. 129）。
- 画像ファイルのデータ量（ファイルサイズ）が大きいと、ディスプレイに表示されるまで時間がかかることがあります。

FM ラジオの放送局（周波数）を手動で設定しよう

ラジオモードでご利用いただけます（P.37）

本体内蔵の FM チューナーは、自動スキャン（P.63）で放送局（周波数）を設定する以外に、手動で放送局を設定することができます。

1, 2, 3



1 ラジオモードにする（P.37）

2 [▶II ENT.] を押してプリセットモードをオフにする

ディスプレイ画面右下の [PRESET] の先頭のマークが消灯し、プリセットモードがオフになっていることを確認します。

プリセットモードがオン（マークが緑色に点灯）になっている場合は、[▶II ENT.] を押してオフにします。[▶II ENT.] を押すたびにオンとオフが切り替わります。

3 周波数を設定する

[⏮] または [⏭] を短く押すと周波数を 0.1MHz 単位で変更します。

[⏮] または [⏭] を数秒間押したままにするとスキャニングが始まり、電波を感知すると止まります。

ワンポイント

- 本製品はイヤホンアンテナ方式によって電波を受信します。FM ラジオを聴くときは、必ずインナーイヤホン（P. 11）をイヤホンジャックに接続してください。
- 電池の残量が少ないと雑音が発生しやすくなります。充分に充電した状態でをお使いください。

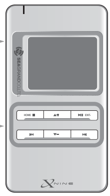
ヒント

- 自動で放送局（周波数）を設定するには（P. 132）
- 手動で設定した放送局（周波数）をプリセット番号に登録するには（P. 133）

放送局を手動でプリセット登録しよう （手動プリセット登録）

ラジオモードでご利用いただけます（P.37）

本体内蔵 FM チューナーは、自動スキャン（P.63）で放送局（周波数）を自動的にプリセット登録する以外に、手動で放送局とプリセット番号を選んで登録することができます。



1 ラジオモードにする（P.37）

2 プリセットモードをオフにし、手動で放送局を設定する

プリセット登録したい放送局を手動で設定します。手動設定の詳細については、「FM ラジオの放送局（周波数）を手動で設定しよう」（P.132）をご覧ください。

3 プリセット設定メニューを表示する

ラジオモード画面で［MENU］を短く押して、メニューを表示します。

［▲+］または［▼−］を押して［プリセット登録］を選びます。

4 登録するプリセット番号を選択する

［▶II ENT.］を押すとプリセット登録モードになります。

［I◀◀］または［▶▶I］を押して登録するプリセット番号を選びます。選択したプリセット番号に既に放送局（周波数）が登録されている場合はその周波数が、登録されていない場合は［プリセットがありません］とディスプレイ右下に表示されます。

キャンセルしたいときは［HOME ■］を押します。

5 プリセットに登録する

［▶II ENT.］を押すとディスプレイ右下に［プリセットに追加］と表示されます。そのまま数秒待ち表示が消えたらプリセット登録が完了します。

複数の放送局を登録したい場合は、手順 2 ～ 5 を繰り返します。

準備
基本操作編
すぐに使う
使いこなし方
困った時は
付録
索引

注意

- 手順 4 で選んだプリセット番号に、すでに別の放送局（周波数）が登録されている場合は、登録内容は消去されて手順 2 で設定した放送局（周波数）が新たに登録されます。自動スキャンの後などに手動でプリセット番号登録する場合はご注意ください。
- 手動プリセットを行った後、自動スキャン（P. 63）を行うと手動プリセットの内容は上書きされます。
- [▶II ENT.] を数秒間押したままにすると、電源がオフになります（P. 36）。各種メニューを表示する場合は、[▶II ENT.] は短く押してください。

ワンポイント

- 本製品はイヤホンアンテナ方式によって電波を受信します。FM ラジオを聴くときは、必ずインナーイヤホンをイヤホンジャックに接続してください。
- 電池の残量が少ないと雑音が発生しやすくなります。充分に充電した状態でをお使いください（P. 31, 32）。
- プリセットは、最大 30 個まで登録できます。

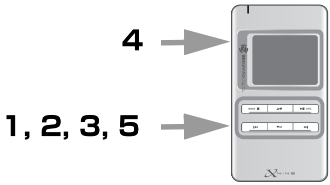
ヒント

- 自動で放送局（周波数）を設定するには（P. 63）
- 手動で放送局（周波数）を設定するには（P. 132）

放送局をプリセットから削除しよう

ラジオモードでご利用いただけます（P.37）

本体内蔵 FM チューナーは、自動スキャン（P.63）や手動で放送局（周波数）をプリセット登録する以外に、プリセットに登録している放送局を削除することもできます。



1 ラジオモードにする（P.63）

2 [▶II ENT.] を押してプリセットモードをオンにする

ディスプレイ画面右下の [PRESET] の先頭に緑色のマークが点灯し、プリセットモードがオンになっていることを確認します。

プリセットモードがオフ（マークが消灯）になっている場合は、[▶II ENT.]を押してオンにします。[▶II ENT.]を押すたびにオンとオフが切り替わります。

3 削除したいプリセット番号を選択する

プリセットモードがオンの状態で[⏮]または[⏭]を押して、削除したいプリセット番号を選びます。プリセット登録されていない番号は選べません。

4 プリセット設定メニューを表示する

ラジオモード画面で[MENU]を短く押して、メニューを表示します。[▲+]または[▼−]を押して［プリセットから削除］を選びます。キャンセルしたいときは[HOME ■]を押します。

5 プリセットを削除をする

[▶II ENT.]を押して数秒すると、手順 3 で選んだプリセット番号の内容（放送局）が削除されます。複数のプリセットを削除したい場合は、手順3〜5を繰り返します。

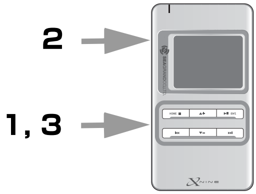
ヒント

- 自動で放送局（周波数）を設定するには（P. 63）
- 手動で放送局（周波数）を設定するには（P. 132）

ファイルを名前順に並べ替えよう（ソート機能）

ビデオ ミュージック フォトモードでご利用いただけます（P.37）

ビデオ / ミュージック / フォトモードでファイル一覧を表示したとき、通常の設定では本体内蔵 HDD（ハードディスクドライブ）に保存された順番にファイルが表示されますが、この並びを名前順に並べ替えることができます。ファイル名でビデオや曲、画像を探したいときなどに便利です。



1 ファイル一覧を表示する

ビデオ / ミュージック / フォトのそれぞれのモードにしてファイル一覧を表示します（P.37）。

2 [MENU]を短く押して設定メニューを表示する

各モードでファイル一覧を表示している状態で[MENU]を短く押して、設定メニューを表示します。

3 表示順を並べ替える

メニューで[▲+]または[▼−]を押して［並べ替え］を選びます。[▶IIENT.]を押してサブメニューを表示し、並べ替えをしない場合は［並び替えしない］、並び替えたい場合は［名前で並び替え］を選びます。

[▶IIENT.]を押すとファイル一覧の並び替えが行われます。通常表示（保存順）に戻りたいときは、再度メニューを表示し［並び替えしない］を選んで[▶IIENT.]を押します。

注意

- ファイルモード（P.38）では、ファイルの並び替えはできません。
- 各種メニューで[▲+]または[▼−]を押して設定項目を選んでも、[▶II ENT.]を押さずに[HOME ■]や[MENU]を押してメニューを終了させると、選択した設定項目がキャンセルされてしまいます。必ず設定項目を選んだ後は、[▶II ENT.]を押して設定を確定してからメニューを終了してください。
- [MENU]を数秒間押したままにすると、電源がオフになります（P.63）。各種メニューを表示する場合は、[MENU]は短く押してください。
- オーディオファイル一覧で［Playlist（プレイリスト）］を選択している状態では、[MENU]を短く押してもメニューは表示されません。

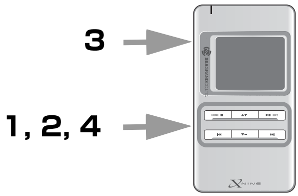
ワンポイント

- 名前順に並べ替えた場合、［フォルダ］→［ファイル］の順でそれぞれ名前順（半角数字→半角アルファベット→全角数字→全角アルファベット→全角日本語 / 五十音）に並べられます。
- 通常の設定では、ファイル / フォルダは本体内蔵 HDD に保存された順番に表示され、この順番で再生等が行われます。ファイル名によるファイルの並べ替え機能を使ってファイルの表示順を変えたときは、再生等の順番も並べ替えられます。
- 並び替えの設定は、すべてのファイルに対して有効となります。
- 並び替えの設定は、モードを切り替えたり電源を切っても保存されます。

ファイルの情報を確認しよう

ビデオ ミュージック フォト ファイルモードでご利用いただけます（P.37）

本体内蔵 HDD（ハードディスクドライブ）に保存されているファイルのファイルサイズなどの情報をディスプレイで確認できます。



1 ファイル一覧を表示する

ビデオ / ミュージック / フォト / ファイルのそれぞれのモードにしてファイル一覧を表示します（P.37）。

2 情報を確認したいファイルを選ぶ（P.40）

3 [MENU]を短く押して設定メニューを表示する

各モードでファイル一覧を表示している状態で[MENU]を短く押して、設定メニューを表示します。

4 ファイル情報を表示する

メニューで[▲+]または[▼−]を押して[ファイル情報]を選びます。[▶II ENT.]を押すと、ディスプレイにファイルの情報が表示されます。
表示された情報は、数秒経過すると自動的に消え、元の画面に戻ります。
表示される情報は次の通りです。

ビデオモードの場合

- 再生時間：ビデオのトータル時間
- ファイルサイズ：ファイルの容量
- ビデオサイズ：映像の表示サイズ
- ビデオビットレート：映像の品質（ビットレート）（P.121）
- オーディオ形式：音声のファイル形式とサンプリング周波数（P.121）
- 音声ビットレート：音声のビットレート（P.121）

ミュージックモードの場合

●ファイル名：ファイルの名称
●ファイルサイズ：ファイルの容量
●ファイル形式：音声のファイル形式
●タイトル：曲のタイトル（ID3 タグ情報）（P.106）
●アーティスト：アーティスト名（ID3 タグ情報）（P.106）
●アルバム：アルバムのタイトル（ID3 タグ情報）（P.106）

ワンポイント

- 本製品は、WMA タグの表示には対応しておりません。また、ID3 タグの表示は、ファイル情報での表示となります。

フォトモードの場合

●解像度：ファイルの解像度
●ファイルサイズ：ファイルの容量
●EXIF 情報：JPEG 画像のデータ形式の情報

ファイルモードの場合

●ファイルサイズ：ファイルの容量
●ファイル数（フォルダを選択した場合のみ）：フォルダ内のファイル数

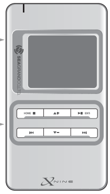
注意

- MENU を数秒間押したままにすると、電源がオフになります(P. 63)。各種メニューを表示する場合は、MENU は短く押してください。
- ファイルに含まれている情報のみが表示されます。
- オーディオファイル一覧で［Playlist（プレイリスト）］を選択している状態では、MENU を短く押してもメニューは表示されません。

バックライトの明るさを調節しよう

メイン画面でご利用いただけます（P.20）

ディスプレイのバックライトの明るさを［明るい］、［標準］、［省電力］の３段階で調節することができます。バックライトの明るさを［省電力］に調整すると、電池容量を長持ちさせることができます。



1　メイン画面を表示する（P.39）

2　MENU を短く押して設定メニューを表示する

メイン画面を表示している状態で MENU を短く押して、設定メニューを表示します。

3　［ディスプレイ設定］を選択する

設定メニューで ▲+ または ▼− を押して［ディスプレイ設定］を選びます。

▶II ENT. を押すと、ディスプレイ設定メニューが表示されます。

4　［バックライト明るさ調節］を選択する

ディスプレイ設定メニューで ▲+ または ▼− を押して［バックライト明るさ調節］を選びます。

▶II ENT. を押すと明るさ調節一覧が表示されます。▲+ または ▼− を押して［明るい］、［標準］、［省電力］のいずれかを選びます。▶II ENT. を押すと調整時間の設定が確定します。

明るさ調節一覧から元のメニューに戻るので、さらに HOME■ を２回押してメイン画面に戻ります。

注意

- 各種メニューで[▲＋]または[▼－]を押して設定項目を選んでも、[▶II ENT.]を押さずに[HOME■]や[MENU]を押してメニューを終了させると、選択した設定項目がキャンセルされてしまいます。必ず設定項目を選んだ後は、[▶II ENT.]を押して設定を確定してからメニューを終了してください。
- [MENU]を数秒間押したままにすると、電源がオフになります(P.63)。各種メニューを表示する場合は、[MENU]は短く押してください。

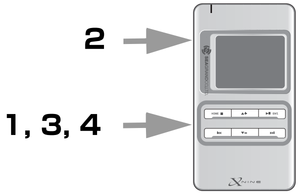
ワンポイント

- バックライトの明るさを調節することで、無駄な電池の消費を防ぐことができ、電池容量を長持ちさせることができます。電池残量が少ないときは、［省電力］に設定することをおすすめいたします。

自動バックライト / 電源オフ時間を調節しよう

メイン画面でご利用いただけます（P.20）

一定時間何も操作されなかったときに自動的にディスプレイ画面のバックライトを省電力モードに切り替える時間を調節できます。また、ビデオや曲の停止状態で省電力モードに切り替わった後に、さらに約 1 分間何も操作されなかったときに、自動的に電源がオフになります。



1　メイン画面を表示する（P.39）

2　MENU を短く押して設定メニューを表示する

メイン画面を表示している状態で MENU を短く押して、設定メニューを表示します。

3　［ディスプレイ設定］を選択する

設定メニューで ▲+ または ▼− を押して［ディスプレイ設定］を選びます。

▶II ENT. を押すと、ディスプレイ設定メニューが表示されます。

4　［バックライト点灯時間調節］を選択する

ディスプレイ設定メニューで ▲+ または ▼− を押して［バックライト点灯時間調節］を選びます。

▶II ENT. を押すと点灯時間一覧が表示されます。▲+ または ▼− を押して［常時（オフ設定なし)］、［5 秒］、［10 秒］、［30 秒］のいずれかを選びます。▶II ENT. を押すと調整時間が確定します。

点灯時間一覧から元のメニューに戻るので、さらに HOME■ を２回押してメイン画面に戻ります。

注意

- 各種メニューで[▲+]または[▼−]を押して設定項目を選んでも、[▶II ENT.]を押さずに[HOME■]や[MENU]を押してメニューを終了させると、選択した設定項目がキャンセルされてしまいます。必ず設定項目を選んだ後は、[▶II ENT.]を押して設定を確定してからメニューを終了してください。
- [MENU]を数秒間押したままにすると、電源がオフになります（P. 63）。各種メニューを表示する場合は、[MENU]は短く押してください。

ワンポイント

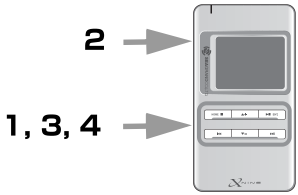
- ビデオや曲の再生 / 録画中、画像の表示中は、ボタン等を操作しなくても自動バックライト / 電源オフ機能は動作しません。また、同様にファイルモード（P. 38）と録音モード（P. 72, 77, 81）時も自動バックライト / 電源オフ機能は動作しません。
- 自動バックライトオフ時間を調節することで、無駄な電池の消費を防ぐことができ、電池容量を長持ちさせることができます。電池残量が少ないときは、[5 秒] など短い時間に設定することをおすすめいたします。

準備
基本操作編
すぐに使う
使いこなし方
困った時は
付録
索引

内蔵 HDD の容量を確認しよう

メイン画面でご利用いただけます（P.20）

本体内蔵 HDD（ハードディスクドライブ）の全容量と使用済みの容量を確認できます。



1 メイン画面を表示する（P.39）

2 [MENU]を短く押して設定メニューを表示する

メイン画面を表示している状態で[MENU]を短く押して、設定メニューを表示します。

3 ［システム設定］を選択する

設定メニューで[▲+]または[▼−]を押して［システム設定］を選びます。

[▶II ENT.]を押すと、システム設定メニューが表示されます。

4 ［HDD 容量確認］を選択する

システム設定メニューで[▲+]または[▼−]を押して［HDD 容量確認］を選びます。[▶II ENT.]を押すと、ディスプレイに内蔵 HDD の容量が表示されます。表示された情報は、数秒経過すると自動的に消え、元のメニューに戻るので、さらに[HOME■]を２回押してメイン画面に戻ります。

表示される情報は次の通りです。

●使用領域：使用済み容量

●全容量：内蔵 HDD 容量

注意

- MENU を数秒間押したままにすると、電源がオフになります(P.63)。各種メニューを表示する場合は、MENU は短く押してください。

ワンポイント

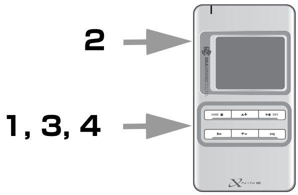
- 本体内蔵 HDD の一部をファームウェア（システムプログラム）が使用するため、[全容量] は、ご利用の製品に搭載されている HDD 容量よりも少なく表示されます。また、Windows での表示とは容量が異なります。

準備
基本操作編
すぐに使う
使いこなし方
困った時は
付録
索引

ディスプレイに表示する言語を設定しよう

メイン画面でご利用いただけます（P.20）

メニュー項目などディスプレイに表示する言語を設定します。
通常は［日本語］を選択してください。



1 メイン画面を表示する（P.39）

2 MENUを短く押して設定メニューを表示する

メイン画面を表示している状態でMENUを短く押して、設定メニューを表示します。

3 ［システム設定］を選択する

設定メニューで▲+または▼−を押して［システム設定］を選びます。

▶IIENT.を押すと、システム設定メニューが表示されます。

4 ［言語設定］を選択する

システム設定メニューで▲+または▼−を押して［言語設定］を選びます。

▶IIENT.を押すと表示言語一覧が表示され、▲+または▼−を押して［日本語］を選びます。▶IIENT.を押すと言語設定が確定します。

表示言語一覧から元のメニューに戻るので、さらにHOME■を2回押してメイン画面に戻ります。

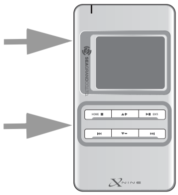
注意

- 各種メニューで[▲+]または[▼−]を押して設定項目を選んでも、[▶II ENT.]を押さずに[HOME■]や[MENU]を押してメニューを終了させると、選択した設定項目がキャンセルされてしまいます。必ず設定項目を選んだ後は、[▶II ENT.]を押して設定を確定してからメニューを終了してください。
- [MENU]を数秒間押したままにすると、電源がオフになります(P.63)。各種メニューを表示する場合は、[MENU]は短く押してください。

ファームウェアのバージョンを確認しよう

メイン画面でご利用いただけます（P.20）

本製品のファームウェア（システムプログラム）のバージョンを確認できます。本製品はファームウェアのアップデートが可能です。最新のファームウェアでご利用ください。



1 メイン画面を表示する（P.39）

2 MENUを短く押して設定メニューを表示する

メイン画面を表示している状態でMENUを短く押して、設定メニューを表示します。

3 ［システム設定］を選択する

設定メニューで▲+または▼−を押して［システム設定］を選びます。

▶IIENT.を押すと、システム設定メニューが表示されます。

4 ［バージョン確認］を選択する

システム設定メニューで▲+または▼−を押して［バージョン確認］を選びます。

ディスプレイにファームウェアのバージョンが表示されます。表示された情報は、数秒経過すると自動的に消え、元のメニューに戻るので、さらにHOME■を２回押してメイン画面に戻ります。

注意

- MENU を数秒間押したままにすると、電源がオフになります(P. 63)。各種メニューを表示する場合は、MENU は短く押してください。

ワンポイント

- 本製品はファームウェア（システムプログラム）のアップデートが可能です。ファームウェアのアップデート情報は、弊社ホームページ（P. 175）にて公開いたします。

ファームウェアをバージョンアップ（更新）しよう

メイン画面でご利用いただけます（P.20）

本製品はファームウェアのアップデート（更新）が可能です。ファームウェアがアップデートした場合には、ご購入製品をバージョンアップし、最新のファームウェアでご利用ください。

ワンポイント

- ファームウェアのアップデート情報およびバージョンアップの手順は、弊社ホームページ（P. 175）にて公開いたします。バージョンアップの際は、弊社ホームページにて、バージョンアップの手順および注意事項をご確認ください。
- 通常はバージョンアップを行う必要はございません。

付属ソフトウェア「トランスコーダー」の使いかた１ ～インストールのしかた

付属のソフトウェア CD-ROM には、さまざまな圧縮方式で作られた AVI ファイル（P.106）を、本製品で再生可能な DivX 形式（P.106）に変換するソフトウェア「トランスコーダー」が収録されています。ここでは、トランスコーダーのインストールのしかたを説明します。具体的なトランスコーダーの使いかたについては「付属ソフトウェア「トランスコーダー」の使いかた２ ～ファイル変換のしかた」（P.152）をご覧ください。

注意

- 起動中のアプリケーションをすべて終了させてからインストールを始めてください。

1　付属ソフトウェア CD-ROM をパソコンに挿入する

付属の［ソフトウェア　CD-ROM］（P.11）をパソコンの CD-ROM ドライブに入れると、自動的にインストール作業が始まります。図のようなダイアログボックスは表示されたら［Japanese（日本語）］が選ばれていることを確認し、［OK］をクリックします。



ワンポイント

- もし自動的にインストール作業がが始まらない場合は、Windows の［マイコンピューター］を開き、CD-ROM ドライブを右クリックして、CD-ROM に収録されている［Setup.exe］ファイルをダブルクリックしてください。

2　インストールする

［Tranccoder1.0 セットアップウィザード］が起動します。［次へ］をクリックします。



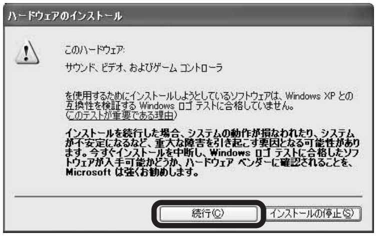
3　インストール先を選ぶ

インストール先のフォルダが自動的に設定されます。もし、インストール先フォルダを変更したい場合は、［参照］をクリックして、インストール先を指定してください。通常はそのまま［インストール］をクリックします。するとインストールが開始します。



途中、何度か図のようなダイアログボックスが表示されますが、［OK］や［続行］をクリックして、インストールを続けてください。





4　完了する

図のようなダイアログボックスが表示されたらインストールの完了です。［完了］をクリックして、インストール作業を終ってください。

［Transcoder1.0 を実行］にチェックを入れた状態で［完了］をクリックすると、ダイアログボックスが閉じると同時にトランスコーダーが起動します。チェックがオフの場合は、通常の状態に戻ります。



ワンポイント

- インストール後にパソコンからトランスコーダーを削除したい場合は、Windows の［スタート］メニューから［すべてのプログラム］－［Seagrand X-NINE］－［アンインストール］を選択します。

付属ソフトウェア「トランスコーダー」の使いかた 2 ～ファイル変換のしかた

AVI ファイルにはさまざまな種類の圧縮方式（コーデック）があり、その中で本製品でビデオ再生できるのは DivX と Xvid というふたつの方式です（P.106）。付属ソフトウェア「トランスコーダー」は、さまざまな圧縮方式で作られた AVI ファイルを、本製品で再生可能な DivX 形式に変換するソフトウェアです。ここでは、トランスコーダーの使いかたを説明します。

ワンポイント

- トランスコーダーをお使いになる前に、ソフトウェアをパソコンにインストールする必要があります。インストールのしかたについては「付属ソフトウェア「トランスコーダー」の使いかた 1 ～インストールのしかた」（P. 150）をご覧ください。

1 トランスコーダーを起動する

Windows の［スタート］メニューから［すべてのプログラム］－［Seagrand X-NINE］－［トランスコーダー］を選択します。

2 設定を行う



［ビデオファイル］の［元ファイル］をクリックし、AVI（DivX）に変換したいファイルを選んで、AVI(DivX）変換に関する設定を行います。

ワンポイント

- 元ファイルとして選択可能はファイルは、拡張子が .AVI/.MPG/.MPEG となっているマルチメディアファイルです。

［ビデオファイル］

●元ファイル：

変換したいファイルを選びます。

●保存先：

変換した AVI ファイルの保存先を設定します。

[オプション]

●画質：

[高画質]、「標準]、[低画質] のいずれかを選びます。

●画面サイズ：

[320 × 240（低解像度)]、[640 × 480（高解像度)] のいずれかを選びます。

●画面比率を 4:3 に固定：

画面の縦横比を 4:3 に固定します。

●オーディオのみトランスコーディング：

ビデオファイルに含まれるオーディオ形式のみを変換します。このチェックボックスをオンにすると、他のオプションは選択・設定できなくなります。

[ファイル情報]

●元ファイルと変換後の保存ファイルの情報が表示されます。

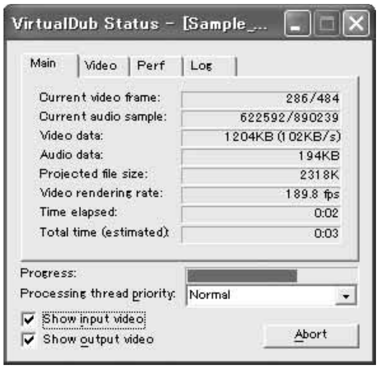
3 変換する

[開始] をクリックすると変換が開始し、変換経過を示すダイアログボックスが表示されます。

途中でキャンセルしたい場合は [Abort] をクリックします。

変換が終わるとダイアログボックスが閉じ、トランスコーダーの画面に戻ります。

[終了] をクリックして、トランスコーダーを終了します。



本体内蔵 HDD のフォーマット

パソコン操作で本体内蔵 HDD（ハードディスクドライブ）をフォーマットできます。なお、フォーマットを行った場合、必ず手順 5 以降の作業を行ってください。この作業を行わないと、本体が正常に動作しません。

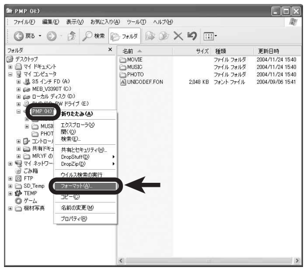
注意

- 通常のご使用において、本体内蔵 HDD をフォーマットする必要はございません。フォーマットを行う際には、必要なファイルをバックアップした上で、慎重に作業を行ってください。
- フォーマットを実行すると、内蔵 HDD に保存しているすべてのファイルは消去され、復元できません。また、各種設定も初期設定に戻ります。必要なファイルは必ずバックアップを取ったうえでフォーマットをしてください。

1 ［フォーマット］メニューを選ぶ

パソコンと本体を USB 接続します（P.27）。Windows エクスプローラを開き、フォルダの［マイコンピューター］で本体（PMP）を選びます。（P.28）

その状態で右クリックをしてメニューを表示し［フォーマット］を選びます。



2 ［FAT32］を選択する

フォーマットウィンドウが表示されるので、［ファイルシステム］で［FAT32］を選びます。



注意

- パソコン上でフォーマットする場合は、必ず[FAT32]を指定してください。[NTFS]でフォーマットすると、フォーマット後に動作が不完全になるなど不具合が発生します。もし間違って［NTFS］でフォーマットした場合は、再度［FAT32］でフォーマットをやり直してください。

3 フォーマットを実行する



［ファイルシステム］の設定が終わったら［スタート］をクリックします。

再度フォーマットを実行してよいか、確認の警告ダイアログボックスが表示されるので、本当によければ［OK］を、フォーマットを中止する場合は［キャンセル］をクリックします。

［OK］をクリックすると、フォーマットが開始します。

4 フォーマットを完了する

フォーマットが完了すると、作業終了を示すダイアログボックスが表示されるので［OK］をクリックします。

5 付属ソフトウェア CD-ROM をパソコンに挿入する

付属の［ソフトウェア CD-ROM］（P.11）をパソコンの CD-ROM ドライブに入れます。

自動的に［Tranccoder1.0 セットアップウィザード］が起動するので、「付属ソフトウェア「トランスコーダー」の使いかた 1 ～インストールのしかた」（P.150）の手順 2 で［キャンセル］をクリックしてインストール作業をキャンセルします。

6 ［PMP.exe］を本体内蔵 HDD にコピーする

Windows の［マイコンピューター］を開き、CD-ROM ドライブを右クリックして、メニューから［エクスプローラで開く］を選択し、CD-ROM に収録されている［PMP.exe］ファイルを本体内蔵 HDD にコピーします。コピーの手順は「パソコンから本体にファイルを転送しよう」（P.97）をご覧ください。

7 ［PMP.exe］を実行する

コピーが終わったら、本体内蔵 HDD にコピーした［PMP.exe］をマウスでダブルクリックし、同プログラムを実行させます。

実行後､本体内蔵 HDD のルートフォルダ(最上位階層)に［MOVIE］､［MUSIC］､［PHOTO］の 3 つのフォルダと［UNICODEF.FON］ファイルが作成されます。

8 本体の動作を確認する

上記ファイルおよびフォルダが作成されたことを確認したら、本製品をパソコンから取り外し、正常に動作することをご確認ください。もし正常に動作しない場合は、弊社サポートセンター（P.175）にご相談ください。

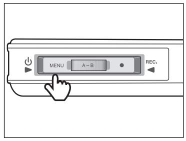
注意

- [UNICODEF.FON] ファイルは絶対に削除しないでください。削除してしまうと、本体ディスプレイでの表示に不具合が発生します。
- 本体のパソコンへの接続および取り外しの詳細な手順、注意事項については「パソコンとの接続のしかた」(P.27) と「パソコンからの取り外しかた」(P.30) をご覧ください。
- フォーマット中は、本体をパソコンから絶対に取り外さないでください。
- 本体のドライブ名（図では H:）は、お使いのパソコン環境により自動的に割り当てられるため、必ずしも H ドライブとなるとは限りません。

設定メニューについて

設定メニューでは、再生や録音に関するさまざまな設定ができます。本製品のさまざまな設定をするメニューの操作方法と各種設定項目を説明します。

メイン画面（P.20）および各モードの状態で MENU を短く押して設定メニューを表示し、カーソルボタン（P.40）を使って設定します。



注意

- MENU を数秒間押したままにすると、電源がオフになります（P. 36）。各種メニューを表示する場合は、MENU は短く押してください。

ワンポイント

- 各設定メニューの詳細は、各参照ページをご覧ください。

メイン画面で MENU を短く押す

［ディスプレイ設定］メニュー

- ［バックライト明るさ調節］（P.140）
- ［バックライト点灯時間調節］（P.142）

［録画・録音設定］メニュー（録画・録音画面で MENU を短く押しても表示）

- ［ボイス録音設定］
  - ［音質設定］（P.121）
  - ［録音ファイル名をリセットし上書き］（P.127）
- ［オーディオ録音設定］
  - ［音質設定］（P.121）
  - ［CD シンク］（P.124）
  - ［録音ファイル名をリセットし上書き］（P.127）
- ［ビデオ録画設定］
  - ［画質設定］（P.121）
  - ［録画ファイル名をリセットし上書き］（P.127）
- ［ファイル名をリセットし上書き］（P.128）

準備
基本操作編
すぐに使う
使いこなし方
困った時は
付録
索引

[システム設定] メニュー

- [HDD 容量確認] (P.144)
- [言語設定] (P.146)
- [映像出力信号設定] (P.62)
- [ラジオバンド設定] (P.67)
- [バージョン確認] (P.148)
- [ファームウェアの更新] (P.149)

ビデオモード画面で MENU を短く押す

[ビデオ設定] メニュー

- [ファイル情報] (P.138)
- [並べ替え] ※ファイル一覧表示時のみ (P.136)
- [リピート設定] (P.111)
- [ファイル削除] (P.71)

ミュージックモード画面で MENU を短く押す

[ミュージック設定] メニュー

- [ファイル情報] (P.138)
- [並べ替え] ※ファイル一覧表示時のみ (P.136)
- [プレイリストに追加] (P.118)
- [リピート設定] (P.111)
- [シャッフル設定] (P.114)
- [イコライザ設定] (P.116)
- [ファイル削除] (P.71)

フォトモード画面で MENU を短く押す

［フォト設定］メニュー

- ［ファイル情報］（P.138）
- ［並べ替え］※ファイル一覧表示時のみ（P.136）
- ［スライドショー設定］（P.129）
- ［表示間隔設定］（P.129）
- ［ファイル削除］（P.71）
- ［左に回転］※画像表示時のみ（P.131）
- ［右に回転］※画像表示時のみ（P.131）
- ［ズーム表示］※画像表示時のみ（P.58）

ファイルモード画面で MENU を短く押す

［ファイル設定］メニュー

- ［HDD］選択時
  - ［ファイル情報］（P.138）
  - ［ファイル移動］（P.68）
  - ［USB メモリにバックアップ］（P.86）
  - ［ファイル削除］（P.71）
- ［USB］選択時
  - ［内蔵 HDD にバックアップ］（P.90）
  - ［ファイル削除］（P.71）

ラジオモード画面で MENU を短く押す

［ラジオ設定］メニュー

- ［自動スキャン開始］（P.63）
- ［プリセット登録］（P.133）
- ［プリセットから削除］（P.135）

準備
基本操作編
すぐに使う
使いこなし方
困った時は
付録
索引

使用上のヒントと
トラブルシューティング

故障かな！？と思ったらまずお読みください

この章では、本製品を使いこなすためのヒントと、陥りやすいトラブルとその原因、対処方法について説明しています。弊社サポートセンターにお問い合わせいただく前に、一度トラブルシューティングの内容をご確認ください。

準備
基本操作編
すぐに使う
使いこなし方
困った時は
付録
索引

使用上のヒント

映像、曲、画像の再生 / 表示順を並べ替えたい

各ファイルは、本体内蔵 HDD（ハードディスクドライブ）に転送・保存した順番に再生されます。パソコンからファイルを転送する際に転送順を決めておくと、好みの曲順で音楽を楽しめます。

録音した内容を保存したい

本体をパソコンと USB 接続し（P.27）、エクスプローラなどで本体を開くと、本体内蔵 HDD に保存されているファイル一覧を見ることができます。この中から保存しておきたいファイルをマウスで選び、パソコンにコピー（複写）できます。エクスプローラを使ったファイルコピーの詳細は「パソコンから本体にファイルを転送しよう」（P.97）をご覧ください。

ポケットなどに入れていると勝手にコントローラーなどが押されてしまう

ホールド機能を使うと、気付かないうちにカーソルボタンなどが押されるといった誤動作を防げます（P.42）。

また、本体ホールドスイッチとリモコンホールドスイッチは独立して動作します。リモコン（P.19）のホールド機能を併用して使用する場合は、ホールド機能は以下のように動作します。
・本体［オン］/ リモコン［オフ］…リモコンのボタンのみで操作できます。
・本体［オフ］/ リモコン［オン］…本体のボタンのみで操作できます。

本体をポケットや鞄に入れてご使用になる場合、本体ホールドスイッチをオン（操作不可）にし、リモコンホールドスイッチをオフ（操作可能）にしておくと、ポケットや鞄の中で本体が誤動作することなくリモコンで操作が行えます。

録音した曲ごとにファイルを分割したい

本体で録音すると停止したところまでがひとつのオーディオファイルとして保存されます。曲ごとにファイルを分割したいときは、録音 / 停止の作業を繰り返してください。

CD や MD プレーヤーなどを本体の AV IN ジャックに接続してオーディオ録音する場合には、CD シンク機能を使うと、CD などの曲間（無音部分）を検知して自動的に曲ごとにオーディオファイルを分割できます。CD シンク機能の詳細については（P.124）をご覧ください。

自動的に電源をオフにしたい

一定時間何も操作されなかったときに自動的にディスプレイ画面のバックライトを省電力モードに切り替える時間を調節できます。また、ビデオや曲の停止状態で省電力モードに切り替わった後に、さらに約 1 分間何も操作されなかったときに、自動的に電源がオフになります。

トラブルシューティング（ビデオモード）

ビデオファイルが再生できない

本体で再生可能なビデオファイルは、AVI(DivX,Xvid)/MPEG1/MPEG2 で、

ビットレート：4Mbps 以下
表示サイズ：720 × 480 ピクセル以下
フレームレート：30fps 以下

という制限があります。再生しようとするファイルの形式をご確認ください。

本製品で再生できない AVI ファイルは、付属ソフトウェア「トランスコーダー」で、本製品対応の AVI ファイル（DivX,Xvid）に変換できます。

Windows ムービー メーカーなどで DV などの映像をビデオファイル化した場合は、別途動画変換ソフトなどをご利用のうえ AVI(DivX,Xvid）形式にしてから、本体に転送してください。

録画時にディスプレイに映像が表示されない

AV 機器の不具合や AV ケーブルの接続不良など、正常に映像信号が本体に送られていない場合は、ディスプレイに［ビデオ信号がありません］と表示されます。AV 機器や AV ケーブルの接続をご確認ください。

録画が一定時間経過後に停止してしまう。

内蔵 HDD（ハードディスクドライブ）の性質上、2GB を越えるファイルを保存することができません。そのため連続録画可能時間は、画質の設定（P.121）により、次のようになります。

［高品質］：約 2 時間 20 分 /［標準］：約 3 時間 40 分 /［長時間］：約 5 時間 30 分

長時間の録画を行いたい場合は、画質の調整や録音時間を分割して複数回録画するようにしてください。

本体で録画したビデオファイルがパソコンで見れない

本体で録画したビデオ録音したファイルの形式は MRX（X-Nine 専用ファイル形式）となります。録画した MRX ファイルは、パソコンなどにバックアップ（複製保存）することができますが、Windows Media Player など、動画再生アプリケーションで再生することはできません。録画した MRX ファイルの再生は、X-Nine 本体のみで可能です。

付属 AV ケーブルで接続したテレビに本体からの出力映像が映らない

AV 機器の不具合や AV ケーブルの接続不良など、正常に映像信号がテレビに送られていない可能性があります。本体の映像を出力している AV 機器や AV ケーブルの接続をご確認ください。
本体と AV 機器と接続する前に、本体から出力する映像出力信号を日本国内向けの［NTSC］方式に設定する必要があります。設定のしかたは「テレビでビデオや画像を楽しもう（AV 出力機能）」（P.60）をご覧ください。

トラブルシューティング（ミュージックモード）

WMA ファイルが再生できない

以下の場合は、Windows のエクスプローラなどで本体にコピーしたオーディオファイルを再生できません。

1：ダウンロード購入した DRM 情報が有効なオーディオファイルの場合

2：音楽 CD をパソコンに取り込んだときに著作権保護機能が働いたとき

2 の場合は、WIndows Media Player の［ツール］－［オプション］の［取り込みの設定］タブで［取り込んだ音楽を保護する］チェックボックスをオフにして音楽 CD を取り込むことで、再生が可能となります（P.94）。

また、ビットレートが 8 ～ 192kbps の範囲を超えた WMA ファイルは再生できません。

MP3 ファイルが再生できない

本製品は、DRM 情報が有効な MP3 ファイル、または、ビットレートが 32 ～ 320kbps の範囲を超えた MP3 ファイルは再生できません。

WAVE ファイルが再生できない

本製品は WAVE ファイルの再生に対応していません。パソコンで WMA または MP3 ファイルに変換した後に本体に転送してください。

再生中の曲を頭出し再生しようとすると、ひとつ前の曲が再生されてしまう

再生が始まって 5 秒以内に[⏮]を短く押すと、ひとつ前の曲の頭出し再生が始まります。現在再生中の曲を頭出し再生したい場合は、再生が始まって 6 秒以上経過した後に[⏮]を短く押してください。

トラブルシューティング（フォトモード）

画像が表示されるのに時間がかかる

ファイルサイズが大きな画像をフォトビューアー機能で表示しようとする場合は、画像の表示にしばらく時間がかかる場合があります。

画像が表示できない

JPEG 形式は最大 2800 × 2100 ピクセル、BMP ファイルは最大 1024 × 768 ピクセルまでの対応となります。

トラブルシューティング（ファイルモード）

USB ホストジャックに接続した USB メモリ機器を本体が認識しない

USB 機器を正常に認識できなかった場合は、ディスプレイに［USB メモリがみつかりません］とメッセージが表示されます。あらためて接続を確認し、再度接続してください。

なお、本体は USB メモリ機器を認識するためには、相手側の USB 機器が USB マスストレージクラス機能（P.107）をサポートしている必要があります。詳細については、ご利用の製品の取扱説明書をご覧ください。不明点は、これらの製造元にお問い合わせください。

内蔵 HDD をフォーマットしたら正常に動作しなくなった

本体内蔵 HDD（ハードディスクドライブ）のルート（最上位階層）に保存されている［UNICODEF.FON］ファイルは、絶対に削除しないでください。削除してしまうと、文字化けが発生するなどの不具合が起こります。万が一、誤って削除してしまった場合の対処方法については、「本体内蔵 HDD のフォーマット」（P.154）をご覧ください。

また、USB 接続したパソコン上でフォーマットする場合は、必ず［FAT32］を指定してください。［NTFS］でフォーマットすると、動作が不完全になるなど不具合が発生します。もし間違って［NTFS］でフォーマットした場合は、再度［FAT32］でフォーマットし直してから、付属 CD-ROM に収録されている［PMP.EXE］を内蔵 HDD にコピーする必要があります。フォーマットについて詳細は「本体内蔵 HDD のフォーマット」（P.154）をご覧ください。

ファイルモードで内蔵 HDD のファイル一覧を見ると、普段は表示されないファイルが表示されている

ビデオ / ミュージック / フォトの各モードでは、それぞれ再生 / 表示可能な形式のファイルのみしかディスプレイに表示されませんが、ファイルモードでは、本体内蔵 HDD に保存されているすべてのファイル表示され、移動や削除が行えます。

準備
基本操作編
すぐに使う
使いこなし方
困った時は
付録
索引

トラブルシューティング（ラジオモード）

ラジオがきれいに聴こえない

本体に搭載されている FM チューナーはイヤホンアンテナ方式のため、イヤホンを接続していないときれいに受信できません。FM ラジオを聴いたり録音するときは、必ずイヤホンを接続してください。

ラジオに雑音が多く混ざる

電池の残量が少ないとノイズが発生しやすくなります。充分に充電してあることを確認の上、お使いください。

トラブルシューティング（録音モード）

録画 / 録音できない

以下の点をご確認ください

1: 外部 AV 機器 / オーディオ機器と正しく接続しているか（P.73, 82）

2: HDD 空き容量が充分あるか

（HDDの使用済み容量は、システム設定メニューの[HDD容量確認]（P.144）で確認できます。）

録画 / 録音した音が悪い

サンプリングレートおよびビットレートの値が低いと、録音したオーディオファイルのサウンドクオリティーも低くなります。録音する目的に応じて、最適なサンプリングレートおよびビットレートを選んでください。詳細については「録画や録音の品質を設定しよう（画質/音質設定）」（P.121）をご覧ください。

また、録画 / 録音の音量レベルは、再生側の音量に依存します。本体で音量レベル設定はできませんのでご注意ください。録音時にイヤホンから聴こえる音量・音質は、再生時のものと異なります。事前に試し録音をして、再生時の音量・音質をご確認ください。

ボイス録音した音が異常に小さい

録音したい音源に内蔵マイクを向けて録音してください。

準備
基本操作編
すぐに使う
使いこなし方
困った時は
付録
索引

トラブルシューティング（その他一般事項）

電源が入らない

以下の点をご確認ください

- 電池の残量が充分か「電源を入れよう」（P.35）
- HOLD（ホールド）スイッチがオンになっていないか（P.42）

ビデオ / オーディオファイル /FM ラジオの音が鳴らない

以下の点をご確認ください。

- イヤホンが正しく接続されているか（P.18）
- ボリュームが最小になっていないか
- 再生しようとしているオーディオファイルがパソコンでも再生できるか

（パソコンでも再生できない場合はファイルが無音または壊れている可能性があります。ただし、本体で録画したビデオファイル（MRX 形式）は、パソコンでは再生できません）

ファイルの転送やコピー、ペーストができない

以下の点をご確認ください。

- ファイル名が長くないか

（長いファイル名を持つファイルは、ファイルサイズ以上にメモリを消費します。一度短いファイル名に変えてから転送してみてください。）

- 内蔵 HDD 空き容量が充分あるか

（内蔵 HDD の容量と使用済み容量は、[システム設定] メニューの [HDD 容量確認]（P.144）で確認できます。）

メニュー操作中に画面が元に戻ってしまう

ビデオや曲の再生中に各種メニューを表示すると、ビデオまたは曲の終了または次のビデオ / 曲に切り替わるタイミングでメニュー表示が消えてしまいます。ビデオや曲の再生中にメニュー操作を行う場合は、ビデオ / 曲の経過時間にご注意ください。

ホールドスイッチをオンにしているのに操作ができてしまう

本製品は、本体のホールドスイッチ（P.18）とリモコンホールドスイッチ（P.19）は独立して動作します。リモコンのホールド機能を併用して使用する場合は、ホールド機能は以下のように動作します。

- 本体［オン］/ リモコン［オフ］…リモコンのボタンのみで操作できます。
- 本体［オフ］/ リモコン［オン］…本体のボタンのみで操作できます。

準備
基本操作編
すぐに使う
使いこなし方
困った時は
付録
索引

パソコンに USB 接続しても認識されず充電もできない

ディスプレイに［DC 電源を接続してください］と表示された状態では、パソコンに USB 接続しても本体が認識されず、USB 接続による充電もされない場合があります。その場合にはまず付属 AC アダプターを使って本体を充電してください（P.31）。

パソコンと USB 接続すると本体の操作ができない

パソコンと接続中は、本体の操作はできなくなります。ファイルのやり取りは、Windows のエクスプローラを使って行います。パソコンから本体を取り外すときは、必ず「パソコンからの取り外しかた」（P.30）の手順に従ってください。

設定した音量がいつの間にか変わっている

本製品は、ビデオ / ミュージック / ラジオの各モードで独立して音量調節ができるようになっています。音量調節はそれぞれのモードごとに行ってください。

カーソルボタンなど各種ボタンが操作ができない

ホールドスイッチがオンになっていないかご確認ください（P.42）。

それでも操作できない場合は、リセットボタンを押して強制終了（リセット）してください（P.43）。リセットを実行しても、オーディオファイルなど本体内蔵メモリ に保存したファイルや各種の設定は消去されません。

Windows 2000/XP で付属ソフトウェアがインストールできない / フォーマットができない

Administrator、または Administrator 権限を持つユーザーでログオンしているかご確認ください。

Windows Me でデバイスマネージャに緑色の×マークが表示される

この表示は仕様です。動作に問題ありませんので、そのままお使いください。

本体内蔵 HDD にコピーしたはずのファイルがみつからない

各モードで表示されるファイル一覧には、そのモードで再生可能なファイルしか表示されないようになっています。例えば、ビデオモード（P.38）では、オーディオファイルや画像ファイルは表示されません。本体内蔵 HDD にファイルをコピーする場合は、以下のフォルダにファイルを保存してください。

●**ビデオファイルの場合：**[MOVIE] フォルダに保存します。

●**オーディオファイルの場合：**[MUSIC] フォルダに保存します。

●**画像ファイルの場合：**[PHOTO] フォルダに保存します。

転送先を間違えると、本体でビデオ / オーディオ / 画像ファイルを再生したり画面表示することができませんのでご注意ください。なお、ファイルモードで本体内蔵 HDD のファイル一覧を表示した場合のみ、すべてのファイルが表示されます。

付録

準備
基本操作編
すぐに使う
使いこなし方
困った時は
付録
索引

主な仕様

本体サイズ	約118mm×65mm×20mm(高さ×幅×奥行き)		
本体重量	185g		
電源	内蔵充電池:リチウムポリマーバッテリー 2100mAh/ACアダプタ: DC5.0V 2A		
液晶ディスプレイ	2.2型TFT液晶　バックライト付き		
解像度	320×240ピクセル		
ハードディスク容量※1	20GB		
連続再生時間 (充電池利用時)	音楽:最大約12時間 (MP3 128kbps、バックライトオフ、イコライザーオフ、ボリューム50) 動画:最大約6時間(320×240ピクセル 24fps / 128kbps 44khz、ボリューム50)		
収録可能録画時間	最大約50時間 ※2		
収録可能録音時間(ライン入力)	最大約650時間 ※3		
収録可能録音時間(内蔵マイク)	最大約650時間 ※4		
インターフェイス	USB 2.0/1.1 ※5		
動作温度範囲	0℃～50℃		
オーディオ	再　生	対応形式	MP3 32～320kbps ※6 WMA 32～192kbps
		再生周波数	20Hz ～ 20KHz
		イヤホン最大出力	20mW(R) + 20mW(L) : 16(Ω)
		S/N比	90dB
		ID3タグ ※7	V1, ID3 V2 2.0, ID3 V2 3.0
	録　音	録音形式	MP3
ビデオ	再　生	対応形式 ※8	AVI、MPG、MPEG、MRX
		対応映像 フォーマット ※9	MPEG1, MPEG2, Divx 3.1/4.xx/5.xx, Xvid, ISO MPEG4 SP ビットレート4Mbps以下、720×480ピクセル以下、30fps以下
		対応音声 フォーマット ※9	MP3 32～192kbps IMA ADPCM
	録　画	録画形式	MRX ※10
		映像フォーマット	MPEG-4 SP 準拠 / 最大3Mbps
		音声フォーマット	IMA ADPCM / 128kbps 固定
		解像度	640×480
ラジオ	対応周波数	76MHz ～ 108MHz	
	S/N比	50dB	
	アンテナ	イヤホンアンテナ	
写真、静止画	対応形式	JPEG(プログレッシブ非対応)、BMP	
	解像度	JPEG(最大2800×2100ピクセル)、BMP(最大1024×768ピクセル)	
必要環境	日本語版Microsoft Windows XP、2000、Me ※11 Intel Pentium II 233MHz以上のプロセッサ(Pentium4 1.6GHz以上を推奨) 128MB以上のシステムメモリー(256MB以上を推奨)		
必要メモリ	USB 2.0/1.1に準拠したUSBポート ※5		
HDD空き容量	ハードディスクに100MB以上の空き容量(ソフトウェアインストール用、オーディオおよびビデオコンテンツの保存用には300MB以上を推奨)		
その他	CD-ROMドライブ(ソフトウェアインストール時、CDリッピング時にはデジタルオーディオの抽出サポートが必要) インターネット接続に必要な環境　※12 Internet Explorer 4.01SP2以降 Windows Media Player9.0以降(Trancecoderで映像の変換を行う際に必要) DivX 5.2.1(Trancecoderで映像の変換を行う際に必要:付属) DirectX 9以上(Trancecoderで映像の変換を行う際に必要:付属) その他、付属のTrancecoderで映像の変換を行う場合には、その映像を再生する為のソフトウェア(Codec)のインストールが必要です。		

※ 1 : 1GB=1,000,000,000Byte として計算。WindowsOS 等から認識される総容量は異なります。

※ 2 : HDD の領域全てを利用して録画品質設定［長時間］で録画した場合。なお、最大連続録画時間は、約 5 時間 30 分（長時間）、約 3 時間 40 分（標準）、約 2 時間 20 分（高品質）となります。

※ 3 : HDD の領域全てを利用して録音品質設定［長時間］で録音した場合。なお、最大連続録音時間は、約 66 時間（長時間）、約 33 時間（標準）、約 16 時間 30 分（高画質）となります。

※ 4 : HDD の領域全てを利用して録音品質設定［長時間］で録音した場合。なお、最大連続録音時間は、約 66 時間（長時間）、約 49 時間 30 分（標準）、約 33 時間（高画質）となります。

※ 5 : Hi-SPEED 対応、USB1.1 ポートに接続した場合には Full-SPEED モードでの接続になります。

※ 6 : 可変ビットレート（VBR）でエンコードされたものもこの範囲を逸脱した場合には再生が正しく行われません。

※ 7 : WMA タグの表示には対応しておりません。また、ID3 タグの表示は、ファイル情報での表示となります。

※ 8 : 映像フォーマット、音楽フォーマットが対応形式でない AVI ファイルの再生出来ません。

※ 9 : ファイルの互換性などにより再生が行えない場合があります。そのような場合、付属の Trancecoder で変換する事で再生出来る場合があります。

※ 10 : MRX 形式はファイルとしてパソコンに保存することは可能ですが、パソコン上での再生は行えません。

※ 11 : いずれの OS も日本語版で、アップグレードインストールでない環境。また、Windows2000 環境の場合にはサービスパック（SP2 以降）がインストールされている必要があります。

※ 12 : ファームウェアのアップデート等に必要。また、サポート情報などを参照するために必要です。

注意

- 本体の仕様及び、ソフトの仕様、付属のソフトウェアはより良いものを提供するため予告なく変更になる場合があります。

準備
基本操作編
すぐに使う
使いこなし方
困った時は
付録
索引

ハードウェア保証規定

本取扱説明書の注意書きおよび付属の説明書に従った使用状況で、本製品が保証期間内に故障した場合、下記の保証規定の範囲内で無料修理をさせていただきます。

以下は、本製品に関する保証規定を記載しております。ご使用前に、必ずお読みください。

1 保証対象

本保証書は本保証書記載の保証期間中(お買い上げ日当日より起算して1年間)、本商品の本体、および同梱の AC 充電器のみを保証対象とするものです。AC 充電器を除く添付品類（イヤホンを含む）は消耗品となり、保証書記載のお買い上げ日当日より 14 日間の初期不良期間に限り、同様の保証を行わせて頂きます。

2 保証の内容

1. 製品が取扱説明書記載の通常の使用方法により保証期間中に正常に動作しなくなった場合は、弊社にて検証を行った後、無料での修理または同等商品との交換を致します。修理の為交換された旧製品、旧部品等の返却は致しかねますので、ご了承ください。なお、データの消失等については、一切保証致しかねますので、予めご了承ください。
2. 以下のような場合には、無料での修理、または交換は致しかねます。
   1) 弊社製品と判断出来ない場合
   2) 本保証書の呈示がない場合
   3) 本保証書の所定事項（お名前、ご住所、販売店欄等）の未記入、または字句を書き換えられた場合
   4) 本製品の自然消耗に起因する故障または損傷（本製品は製品の性質上、充電可能回数など製品寿命がございます。）
   5) 火災、地震、水害、落雷、ガス害、塩害、その他の天災地変、公害や異常電圧による故障または損傷
   6) お買い上げ後の輸送、移動時の落下などお取り扱いが不適当なため生じた故障または損傷（歩行中に製品を落とすなどして破損したものについても保証対象外になります。）
   7) ご使用時の不備あるいは接続している他の機器によって生じた故障または損傷
   8) 取り扱い説明書の記載内容に反するお取り扱いによって生じた故障または損傷
   9) 弊社以外で改造、調整、部品交換などをされた場合
   10) 消耗品の交換
   11) 本製品の外装、および内部部品が破損している場合
   12) その他、修理もしくは交換が認めがたい行為が発見された場合

3 保証対象外の有料修理または交換

1. 保証期間経過後、または上記 2 項（2）の各項目のいずれかに該当する修理もしくは交換の申し出に対しては、弊社の判断で有料での修理、または同等商品との交換を致します。修

理の為交換された旧製品、旧部品等の返却は致しかねますので、ご了承ください。なお、データの消失等については、一切保証いたしかねますので、ご了承ください。

2. 次のような場合には、有料での修理、または交換は致しかねます。
この場合は修理、交換をお受けせず、送付された製品を返却させて頂く場合がございます。

1) 弊社製品と判断出来ない場合

2) 損傷が著しい場合

3) 弊社以外で著しい改造、調整、部品交換などをされた場合

4) その他交換が認めがたい行為が発見された場合

4 免責

本製品を使用した結果生じた、他のハードウェア等への影響については一切の責任を負いかねますので、予めご了承下さい。

本保証書は上記の保証をなすものです。

本保証規定は日本国内においてのみ有効です。
This warranty is valid only in Japan.

保証品送付のご案内

保証書記載の本製品が正常動作しなくなった場合は、現象、環境等の詳細を取扱説明書記載の「お問い合わせ表（トラブルシート)」(P.176）の書式に従い記載頂いた上、保証書等とともに本製品を以下の住所までお送りください。

送付される際は、輸送時の破損を防ぐため厳重に梱包し、紛失等のトラブルを避けるため、宅配便にてお送りください。

なお、弊社に直接お持込になられてもご対応出来かねますので必ず修理品はお送りくださいます様お願い致します。

送料については、発送時の費用はお客様負担、返送時の費用は無料修理および交換の場合は弊社負担、有料での修理、または交換の場合はお客様負担とさせていただきます。製品到着後、修理もしくは交換が完了しだい、返送させて頂きます。

以上は本保証規定に基づく無料修理の場合であり、その他の場合には下記シーグランドサポートセンターまでご連絡ください。

送付していただくもの

- 本製品
- 保証書
- 現象、環境等の詳細を記載したトラブルシート

注意

修理の際、本体内蔵メモリに保存されていたファイルについては保証いたしかねますのであらかじめご了承ください。

送付先住所

〒 135-0016
東京都江東区東陽 1-25-4　2F
シーグランドサポートセンター
TEL 03-5617-3653
※ご不明な点などは、サポートセンターまでお問い合わせください。

本保証は日本国内においてのみ有効です。
This warranty is valid only in Japan.

サポートセンターのご案内

本製品の操作上の疑問や不明点もしくは動作の不具合などは、弊社サポートセンターまでお問い合わせください。

弊社サポートセンターにお問い合わせいただく前には、まず本取扱説明書をよく読み、特に「使用上のヒントと トラブルシューティング」（P.161）をご参照ください。

インターネットをご利用できる方は、弊社ホームページで製品発売後に発見された不具合やその対策などの最新情報を公開しております。弊社サポートセンターにお問い合わせいただく前に、一度弊社ホームページをご覧ください。

シーグランド株式会社　サポートセンター

電話：ナビダイヤル 0570-050150 /（携帯・PHS）03-5617-3653

FAX：03-5617-3712

E-MAIL：support@seagrand.co.jp

ホームページ：http://www.seagrand.co.jp/support/index.shtml

電話対応時間：月曜日～金曜日（祝祭日を除く）
10:00 ～ 12:00、13:00 ～ 17:00 まで

- E-MAIL や FAX でのお問い合わせの際には、ご連絡先や質問事項、ご利用機器の構成（OS やパソコンの機種名、メモリ、空き容量など）を次のページの「お問い合わせ表」を参考にして、できるだけ詳しくご記載ください。
- トラブルの状況によっては、調査のためお時間を頂戴することがあります。あらかじめご了承ください。
- Windows の使い方やパソコン固有の問題に関しては、各製品のサポートセンターへお問い合わせください。
- 弊社で動作保証している機器以外の組み合わせでご利用になられた場合の不具合に関しては、弊社ではサポートいたしかねます。
- お問い合わせいただいた順に回答させていただきますが、内容により前後する場合がございます。
- 調査にお時間をいただくような内容の場合などには、1 週間程度のお時間をいただく場合もあります。あらかじめご了承ください。

ユーザー登録のご案内

シーグランドは、ユーザー登録されたお客様に対して、サポートやバージョンアップのご案内など、各種サービスを実施させていただきます。同梱されている「ユーザー登録はがき」に必要事項を記入の上、ご登録手続きをしてください。なお、弊社ホームページからもユーザー登録ができます。

- http://www.seagrand.co.jp/regist/index.shtml

お問い合わせ表（トラブルシート）

以下の用紙に必要事項をご記入のうえ、下記までFAXにてご送信してください。

シーグランド株式会社サポートセンター
FAX：**03-5617-3712**

受付番号

受付番号は弊社使用欄です

お名前（よみがな）：
製品名：
ご購入店：　　　　　ご購入日：　　年　　月　　日
FAX番号： ※本シートをご利用になりFAXにてお問い合わせいただく際には、必ず返信先FAX番号をご記載ください。
■お問い合わせの内容 お問い合わせの際は、より詳しい情報をご提供くださいますようお願いいたします。 処理の手順やエラーメッセージなどをより具体的にご記入ください。 また、パソコンとの接続に関するトラブルの場合、以下の項目も併せてご連絡ください。 ●パソコン名（メーカー）●OS(Windows Me/2000/XP)●ハードディスク容量●メモリ容量 ●その他、パソコンご利用環境

※コピーしてお使いください

索引

準備
基本操作編
すぐに使う
使いこなし方
困った時は
付録
索引

英数字

い

え

お

準備
基本操作編
すぐに使う
使いこなし方
困った時は
付録
索引

な

の

は

ひ

ふ

へ

ほ

ま

準備 基本操作編 すぐに使う 使いこなし方 困った時は 付録 索引

X-Nine（クロスナイン）取扱説明書

2006 年 2 月　第 2 版発行

発売元：シーグランド株式会社

Printed in Korea

乱丁落本はお取り替えいたします。